

際ニ向ヒ骨盤下口ニ至リ矢狀縫合ハ殆ント骨盤直徑線ニ一致シ後頭ハ恥骨弓下ニ止マリ以テ第三回轉ヲ現ハシ大顛門ノ左方即チ左顛頂骨部始メニ露出シ次デ顔面ヨリ全兒頭ハ陰門外ニ産出スルニ至ル肩胛ハ兒頭全ク産出スルノ際骨盤入口内ニ在リテ其横徑骨盤ノ右斜徑線ニ一致ス而シテ骨盤内ヲ下ルノ際左肩ハ母體ノ左方ヨリ恥骨縫合下ニ廻リテ始メテ露出シ右肩ハ次デ會陰部ヨリ出ツ此際小兒ノ顔面ハ母體ノ左腿ニ向フ産瘤ハ左顛頂骨部ニ現ハル。

第五十七章 頭蓋位ノ内外検査并ニ分娩器械的作用ノ一覽表

〔第二六五項〕 前二章ニ記スル所ヲ一括シテ記憶ニ便ナラシメンガ爲メ次ノ表ヲ掲出ス可シ。

外	第一頭蓋位	第二頭蓋位
臀部ハ子宮底。	臀部ハ子宮底。	臀部ハ子宮底。

器	査	檢	内	査	檢
小顛門ハ下リ且ツ左前方ヨ	先進頭部ハ右顛頂骨。	ニ一致ス。 矢狀縫合ハ右斜徑(第一斜徑)	小顛門ハ左前方大顛門ハ右後方。	先進部ハ固ク圓ク骨縫合顛門アリ。	頭部ハ恥骨縫合ノ上部。 兒背ハ母體ノ左腹部。 小體部ハ臀部ニ沿ヒ子宮底ノ右側。
小顛門ハ下リ且ツ右前方ヨ	先進頭部ハ左顛頂骨。	ニ一致ス。 矢狀縫合ハ左斜徑(第二斜徑)	小顛門ハ右前方大顛門ハ左後方。	先進部ハ固ク圓ク骨縫合顛門アリ。	頭部ハ恥骨縫合ノ上部。 兒背ハ母體ノ右腹部。 小體部ハ臀部ニ沿ヒ子宮底ノ左側。

用	作	的	械
産瘤ハ右顱頂骨部ニ位ス。	體ノ右腿ニ向フ。	際下ニ進ミ左肩胛會陰ヨリ	骨盤内ニ入り右肩胛耻骨縫
産瘤ハ右顱頂骨部ニ位ス。	體ノ右腿ニ向フ。	際下ニ進ミ左肩胛會陰ヨリ	骨盤内ニ入り右肩胛耻骨縫
産瘤ハ左顱頂骨部ニ位ス。	體ノ左腿ニ向フ。	際下ニ進ミ右肩胛會陰ヨリ	骨盤内ニ入り左肩胛恥骨縫
産瘤ハ左顱頂骨部ニ位ス。	體ノ左腿ニ向フ。	際下ニ進ミ右肩胛會陰ヨリ	骨盤内ニ入り左肩胛恥骨縫

第五十八章 第三及第四頭蓋位(前顱頂位) 又ハ前頭位ノ第一及第二胎向

〔第二六六項〕此兩位置ハ兒ノ後頭、右後方又ハ左後方ニ向ヒ骨

盤内ニ進入シ、次ニ顔面ハ前方ニ向ヒ、後頭ハ會陰部ヨリ産出スルモノニシテ、産婆學ニ於テハ異常ニ屬セシム可キモノナリ、故ニ第七十二章ニ於テ詳述セリ、就テ看ル可シ。

第五十九章 分娩時ニ現ハル、母體及ビ兒體ノ變狀

〔第二六七項〕母體ノ體温ノ昇騰 分娩ノ際子宮ノ收縮又ハ努責等ノ如キ筋ノ勞働ニヨリ〇、一乃至〇三度即チ一分乃至三分ノ體温上昇ヲ現ハス、分娩困難ナルトキハ、三十八度以上ノ高キニ至ルコトアリ、或ハ産道内ニ腐敗ヲ生ズルガ爲メニ、四十度以上ノ高熱ヲ發シ、危險ヲ致スコトモ亦之レアリ。

〔第二六八項〕分娩時、胎兒心音ノ變化 陣痛中、胎兒ノ心臟音著シク減少シ、陣痛止メバ再ビ増加ス、若シ過劇ノ陣痛甚ダシク長ク持續スルトキハ、終ニ心動止ミ、胎兒ハ死ニ陥ルコトアリ、又、産出期中ハ、陣痛強キ

モノナルニヨリ、産出期長キトキハ、胎兒死ニ陥ルコト多シ。

〔第二六九項〕胎水、多量ニ流出スルトキハ、子宮收縮シ、恰

モ陣痛ノ過劇ナルト同ジキガ故ニ、多量ノ胎水早ク流泄スルトキハ、胎

兒ノ死スルコトモ多シ。

〔第二七〇項〕兒頭ノ變形 頭蓋位ヲ取リテ産出セル所ノ小兒ハ、

其前額、項部ニ向ツテ壓平セラレ、後頭ハ著シク延張ス可シ。而シテ一側

ノ顛頂部ニ

産瘤ヲ生ズ

ルニヨリ、其

部高起シ、之

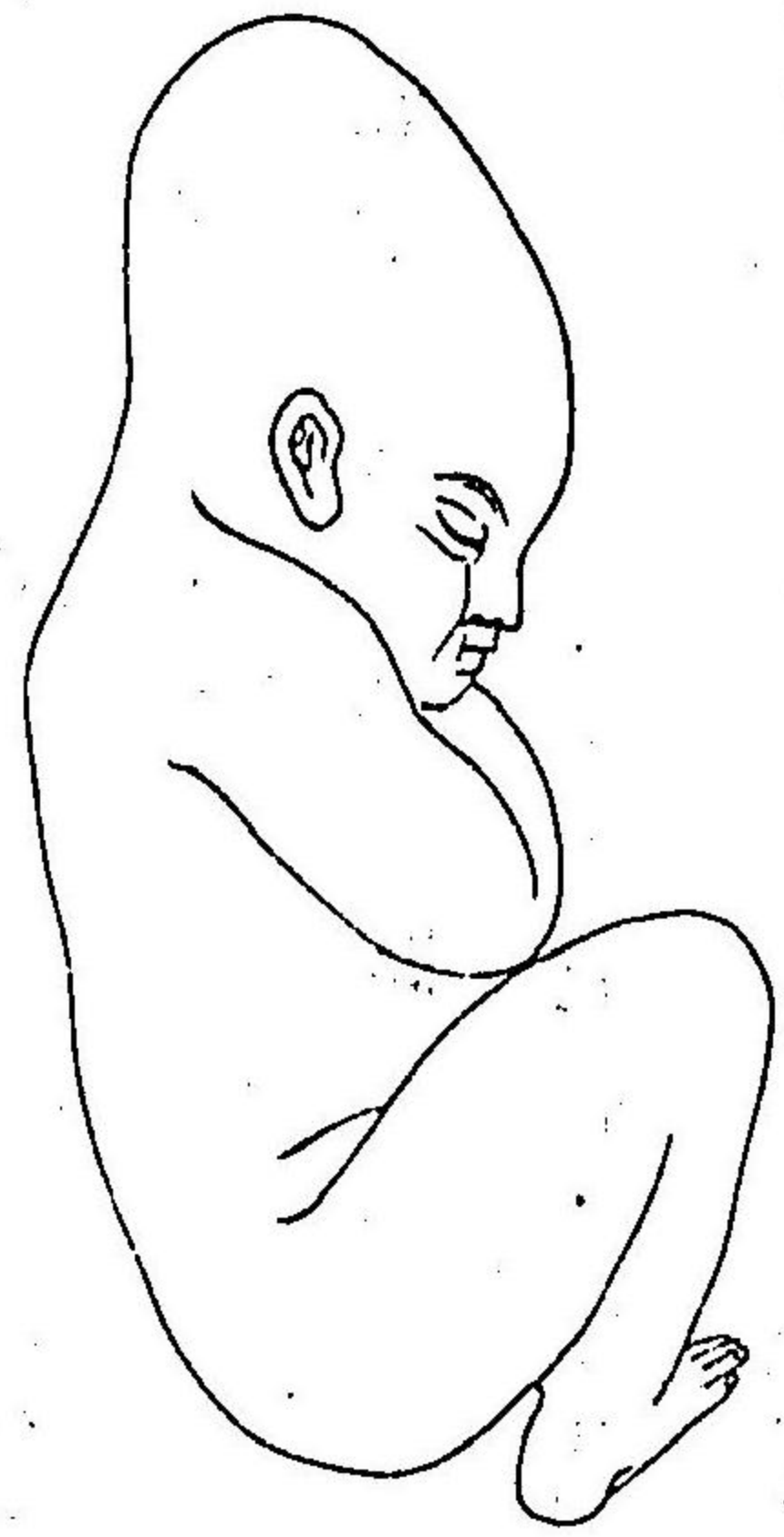
レヲ後方ヨ

リ望ムトキ

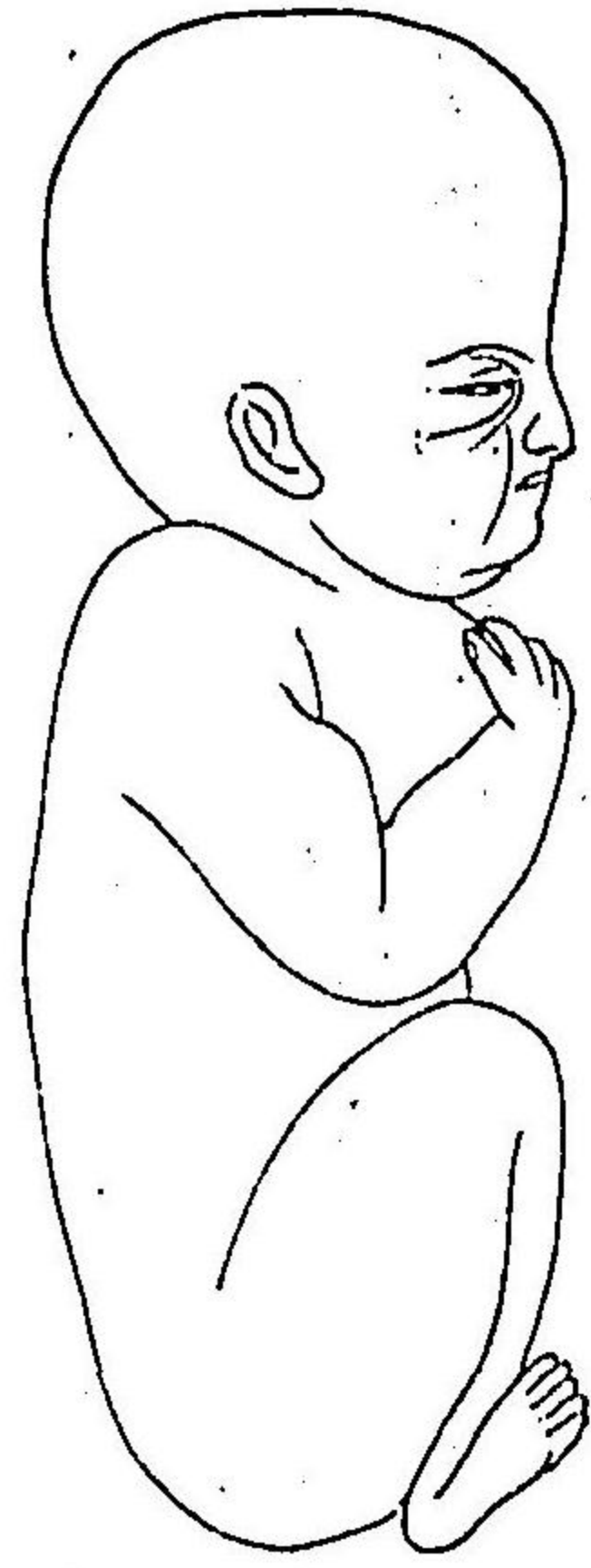
ハ、頭蓋ノ歪

斜セルガ如

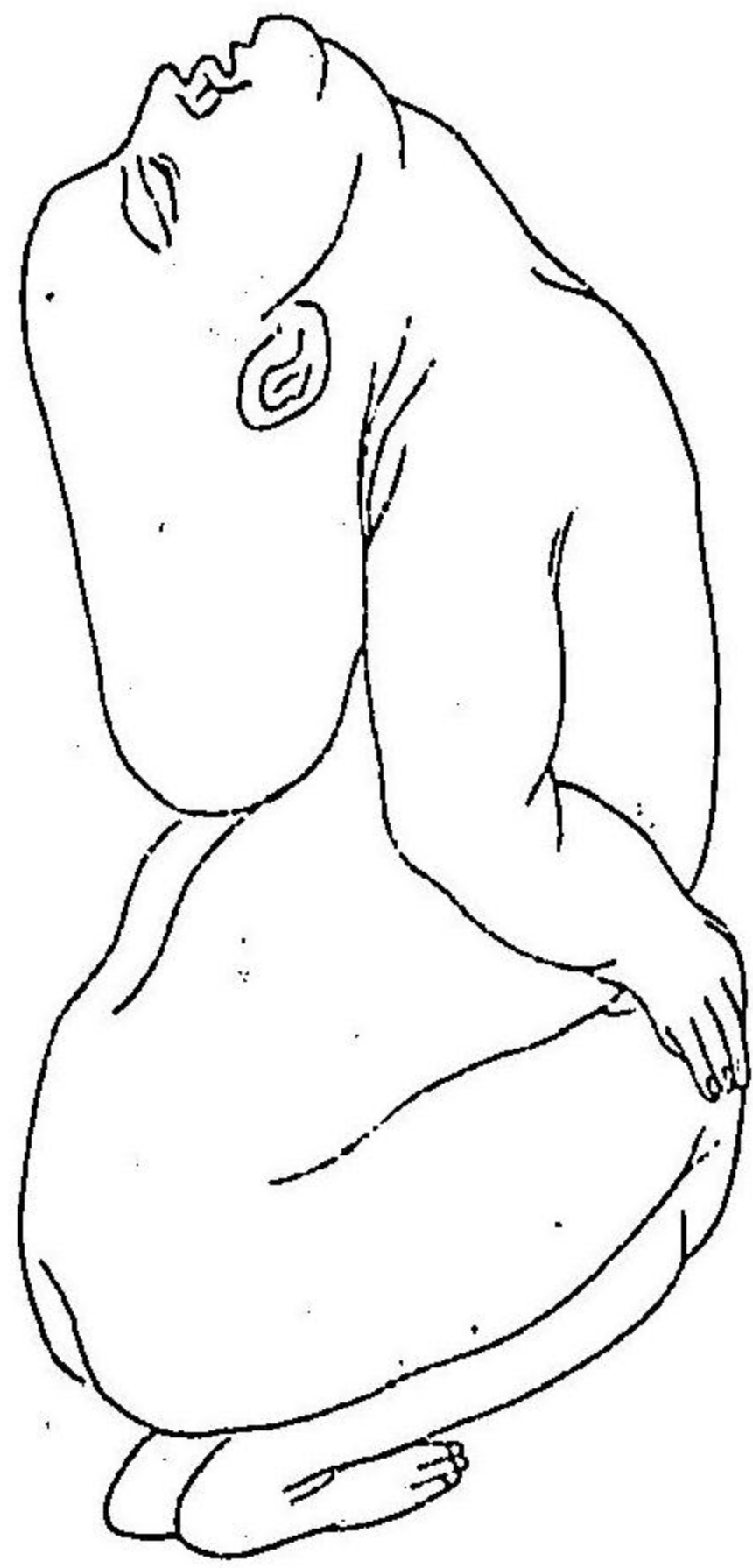
第七十七圖 後頭位ヲ以テ産出セル兒頭ノ圖



第七十八圖 前頭位ヲ以テ産出セル兒頭ノ圖

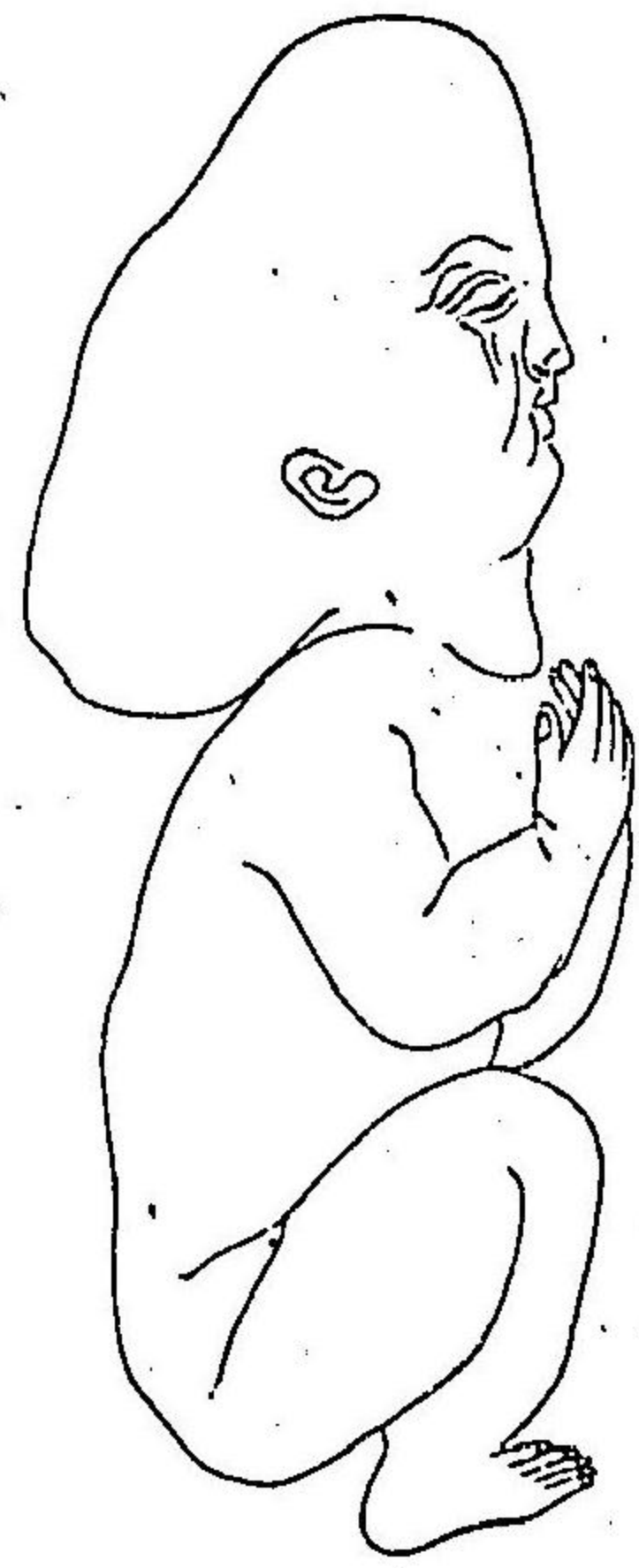


第七十九圖 顔面位ヲ以テ産出セル兒頭ノ圖



キヲ見ル可シ。第三、第四頭蓋位即チ前頭位ヲ取リ、産出セル小兒ノ頭蓋ハ、産道ヲ通過スルノ際、前額及ビ後頭ヨリ壓平セラル、ガ故ニ、全頭蓋ハ、頗ル圓形ヲ呈スル

第八十圖 額位ヲ以テ産出セル兒頭ノ圖



モノナリ其
他額位ノ小
兒ハ頭部殆
ト三角形ヲ
ナシ顔面位
ナルトキハ
後頭位ニ於

ケルガ如ク後頭延長シ顔面ハ縦横ニ壓縮セラレ醜形ヲ呈ス。

第六十章 正規分娩處置ノ概要

〔第二七一項〕正規分娩ニ於ケル産婆ノ任務 正規分娩ノ際ニハ産婆ハ自然ノ分娩力ヲ助ケ母體及ビ兒體ニ危険症ヲ發スルヤ否ヤニ注意スルヲ要ス。決シテ安リニ無用ノ手術ヲ施コスガ如キコトアル可カラズ。若シ異常ヲ發見スルコトアラバ速カニ醫師ノ診察ヲ請フ可シ。

〔第二七二項〕正規分娩處置ノ要領 正規分娩ノ處置ヲ極メテ簡略ニ説述スレバ先ヅ分娩ニ要スル器具即チイルリガートルカターテ、温湯襪襪、臍帶結紮品、其他分娩ニ必要ナル器具ヲ整備シ、法ニ從テ産床ヲ作り、防腐法ヲ行フテ、産婦ノ内外検査ヲ施コシ、開口期ノ終リニ至リ、胎胞ノ破裂ニ近クヲ見バ、必ズ産床ニ就カシメ、既ニ破水セルノ後ハ、防腐法ニヨリ、更ニ一タビ内診ヲ行ヒ、異常ノ有無ヲ検査可シ。若シ分泌物多量ナル者ニ在リテハ、二%石炭酸水ヲ以テ屢腔内ヲ洗滌シ、而シテ、兒頭腔内ニ降り、甚ダシク會陰ヲ膨出セシムルニ至ラバ、法ノ如ク手ヲ會陰ニ抵テ之レヲ防護ス可シ。又、胎兒既ニ娩出セバ、鼻孔及ビ口内ノ粘液ヲ去リ、呼吸ヲ自由ナラシメ、温カナル布片ニ包ミ、母體ノ脚間ニ置キ、手ヲ母體ノ腹上ニ貼シ、以テ子宮收縮ノ狀ヲ検査スルヲ要ス。五乃至十分ノ後、臍帶ノ搏動止ムニ至ラバ、之レヲ結紮切離シ、胎盤既ニ産出シ、子宮ノ收縮佳良ナルヲ見バ、小兒ヲ温浴ニ入ラシメ、次ニ産婦ノ外陰部ヲ検査シ、防腐液ヲ以テ洗滌シ、清潔ナル布片ヲ貼シテ、繃帶ヲ施コシ、更ニ子宮收縮ノ狀ヲ検査シ、二三時間

ヲ經テ出血其他ノ障害ナキヲ見バ、乃チ産婦ノ許ヲ去ルコトヲ得可シ。其概畧ヲ舉グレバ、正規分娩ノ處置ハ、以上記スル所ニ外ナラズト雖ドモ、實際ニ當リテハ、此要領ノミヲ知了スルモ、到底用ヲナスコトナシ。故ニ、以下第六十一章乃至第七十章ニ於テ、之レガ詳細ヲ述ベント欲ス。即チ、其說述ス可キモノ次ノ如シ。

- 一、産婆携帶用器具并ニ衣服。
- 二、防腐法。
- 三、臨産婦ノ検査法。
- 四、開口期及ビ産出期ノ處置。
- 五、會陰防護法。
- 六、臍帶纏絡及ビ軀幹産出遲延ノ處置。
- 七、臍帶切離法。
- 八、後産期ノ處置。
- 九、分娩ヲ終レルル子宮其他ノ處置。

十、金規十則。

是レナリ。次ニ之レヲ各論ス可シ。

第六十一章 産婆携帶用器具并ニ衣服

〔第三七三項〕産婆ハ常ニ分娩ニ要スル器具ヲ整備シ、何時ニテモ差支ナカラシメ、毎ニ之レヲ携ヘテ産家ニ赴ク可シ。今、其器具ノ品目ヲ舉グレバ、次ノ如シ。

産婆携帶用器具

- 一、一〇〇〇〇以上ヲ容ル可キイルリガートル。
- 二、腔内用特管、灌腸用特管、各一ヲ具フ。
- 三、洗滌其他ニ用ユル瓦設片數枚。
- 四、長少半迷的兒巾十仙迷的兒ヲ有シ、栓塞其他ニ用ユ可キ脱脂綿八枚。
- 五、臍帶結紫絲。
- 六、臍帶剪刀。

- 六、臍綑帶。
- 七、浴用及び體温用檢温器各々一。
- 八、聽胸器及び時計。
- 九、刷毛。
- 十、爪鑷子。
- 十一、排尿用カテーテル、小兒室息用彈力カテーテル。
- 十二、小兒灌腸器。
- 十三、洗滌シ得ベキ前垂布。
- 十四、石鹼。
- 十五、溶解石炭酸三〇、〇。
- 十六、硼酸末、或ハ沃度フォルム末。
- 十七、ホフマン液二〇、〇。
- 十八、礫砂精二〇、〇。
- 十九、二十倍石炭酸油又ハワゼリン。

二十、三〇、〇液量計。

右ノ外、二十一、産婆用長ピンセット(末端ヲ甚シク鈍厚トナセルモノ)

廿二、臀下ニ挿入シ得ベキ受水盤。

廿三、洗滌消毒液ヲ容ル可キ三個ノ金屬盤ヲ具フルトキハ最モ佳ナリ。高橋氏産婆携帶用器具ハ、總テ此等ノ器品ヲ有ス。詳細ハ第八編附録ヲ參看ス可シ。

以上ノ諸品ハ、消毒シ得ベキ一定ノ函若シクハ提籃中ニ收メ、常ニ清潔ナラシメ、藥品、瓦設等ハ必ず缺亡セシムルヲナク、何時ニテモ、供用シ得ベカラシムルヲ要ス。

【第二七四項】産婆ノ衣服 産婆ハ、産床ニ臨ムトキハ、清潔ナル

衣服ヲ着ケ、白キ前垂布ヲ用ユ可シ。白色ノ看護衣ヲ用ユルトキハ、最モ佳ナリ。凡ソ、衣服、前垂布等ハ、一タビ着用シ少ニテモ汚染セルトキハ、之レヲ洗滌ス可シ。又、傳染病ヲ有スル産婦ヲ取扱ガフトキニ用キタル衣服ハ、蒸氣消毒法ヲ施コスカ、又ハ、熱湯中ニ煮沸洗滌セルノ後ニアラザ

レバ之レヲ用ユ可カラズ。

第六十二章 防腐法

〔第二七五項〕産婦ノ處置ニ就キ防腐法即チ消毒法ノ必要ナルハ、分娩ノ際、子宮、膈内、外陰部等ニ創傷ヲ生ズルガ故ニ、若シ消毒法ヲ行ハザルトキハ、茲ニ微菌附着シ、化膿ヲ生ジ、遂ニ産褥熱ノ如キ危険症ヲ發スルノ恐アルニヨルモノナリ。

〔第二七六項〕産婆及ビ産婦ノ消毒法 産婆及ビ産婦ノ消毒法ハ手及ビ外陰部ニ施コスモノナリ。此法ハ、既ニ第二編第三十五章中ニ説キ示セルガ故ニ、茲ニハ之レヲ省畧セリ。宜シク之レヲ參看ス可シ。

〔第二七七項〕器具ノ消毒 分娩ニ要スル剪刀、カテーテル等ハ、豫ジメ5%石炭酸水中ニ浸シテ用ニ供ス。又、液質ヲ吸取セシメンガ爲メニ、陳舊ノ布巾ヲ用キント欲セバ、豫ジメ洗濯煮沸シテ、丁寧ニ之レヲ貯藏セシメ、シト要ス。否ラザレバ、恐ベキ熱性病即チ産褥熱ヲ發スルコトアリ。又、

更ニ蒸氣消毒ヲ施コストキハ最モ佳ナリ。

第六十三章 臨産婦ノ検査法

〔第二七八項〕産家ニ於ケル第一ノ訊問 産婆ハ産家ニ至ラバ、先ヅ陣痛ノ状態ヲ察シ、果シテ分娩ヲ催セルヤ否ヤヲ知り、既ニ分娩ヲ催セルモノニ在リテハ、陣痛初發ノ時期及ビ前胎水ノ漏泄セシヤ否ヤヲ問フ可シ。而シテ若シ前胎水既ニ漏泄セバ、直チニ防腐法ヲ施コシテ、内検査ヲ行フ可シ。否ラザレバ、分娩ノ至ルヲ知ラズシテ、狼狽スルコトアリ。之レニ反シ、陣痛尙ホ弱ク、胎水未ダ漏出セザルトキハ、必要ニ應ジ、徐ムロニ既往ヲ訊問ス可シ。

〔第二七九項〕既往ノ訊問 先ヅ初産婦ナルカ、若シクハ經産婦ナルカヲ問ヒ、經産婦ナルトキハ、既往ノ分娩、産褥ノ經過、小兒ノ生死ヲ尋ヌ可シ。其他該回終末月經ノ期日、妊娠末期ノ自覺的徵候ヲ尋テ、全身ノ健否ヲ知ル可シ。此ノ如クニシテ、外検査ヲ行ヒ、次ニ内検査ニ及ボス可シ。

〔第二八〇項〕外検査

ハ第二編第卅四章ニ説述セル所ノ方式ニヨリ子宮底ノ所在胎兒ノ位置心音ノ部位ヲ知り又兒頭ノ尙ホ耻骨縫際上ニ在ルヤ否ヤヲ検査可シ又陣痛發作セバ検査ヲ停止スルヲ要ス

〔第二八一項〕内検査ヲ施コスニハ

先ツ第二編第三十六章ニ記セル方法ニヨリ手及ビ外陰部ニ嚴密ノ防腐法ヲ施コシ内検査ノ方式(第二編二八八項)ニ從ヒ膣及ビ骨盤内ノ狀況ヲ検査更ニ次ノ事項ヲ詳カニス可シ

一子宮口ノ所在、大小、及ビ其縁ノ状態

二胎胞ノ存否、若シ胎胞ノ存スルトキハ胎水ノ多少、及ビ陣痛休歇時

ニ胎胞ノ緊張セルヤ否ヤ

三胎兒先進部ノ辨別、及ビ其子宮口内ニ進入セルヤ否ヤ

是ナリ但シ開口期ノ初メニ於テハ前腔穹窿部ヨリ兒頭ヲ觸知シ何レノ部分ニ至ルマデ降レルヤヲ知り且ツ子宮口ノ大サヲ検査スルヲ以テ足レリトス爾後子宮口ノ殆ント全ク開大スルニ至ラバ縫合及ビ頸門ヲ觸知

ス可シ一若シ異常ノ存スルヲ見バ速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス

第六十四章 開口期及ビ産出期ノ處置

〔第二八二項〕分娩初期ノ徵候及ビ其處置

既ニ分娩ヲ始ルトキハ數分間ヲ隔テ産婦ハ疼痛ヲ訴エ手ヲ腹上ニ貼スレバ明カニ子宮ノ固ク收縮セルヲ知ル可シ是レ即チ陣痛ナリ内検査ヲ施コセバ前胎水ハ陣痛時ニ先進頭部ノ下ニ集マリ卵膜ヲ子宮口ヨリ膨出セシム子宮口未タ開カザルトキハ子宮壁ヲ隔テ卵膜ノ緊張ヲ觸知ス可シ子宮口ノ開クト否ラザルトハ分娩ノ初期ヲ證スルコト能ハザルモノナリ一經産婦ニ在リテハ間々妊娠七八ヶ月ニシテ子宮口著シク弛緩シ容易ク一二指ヲ挿入シ得可ク初妊婦ナルトキハ既ニ分娩ヲ始ムルト雖トモ子宮口尙ホ開大ヲ現ハサルコトアルヲ見ル可シ

以上ノ徵候ニヨリ既ニ分娩ノ初期ナルコトヲ知ラバ曩キニ便通アリシト否トニ論ナク石鹼水五六百瓦石鹼凡ソ八瓦ヲ含ムヲ以テ灌腸ヲ行ヒ

十分ニ糞便ヲ排泄セシム可シ。否ラザレバ、胎兒娩出ノ際、多量ノ糞便漏出シ、大ニ困難スルコトアリ。但シ内検査ノ際、直腸内ニ糞便ヲ認メザルトキハ、場合ニヨリ灌腸ヲ缺クコトヲ得可シ。

〔第二八三項〕産室 ハ可及的廣ク明カニシテ、温度ハ凡ソ華氏ノ六十三度ナルヲ佳トス、而シテ、不潔ナル物品ハ必ズ之レヲ除キ去リ、不必要ノ器具モ、亦之レヲ遠ケ、且ツ無用ノ人ハ、室内ニ止ム可カラズ。總テ産室ハ、豫シメ分娩前ニ之レヲ撰定シ、清潔ナラシメ、必要ノ準備ヲ調フルヲ緊要ナリトス。

〔第二八四項〕産床 ハ必ズ其周圍ヲ廣カラシメ、床ノ頭部ハ、稍々之レヲ高カラシメ、敷布團ハ、頭部ノ外、全ク油紙若シクハ、護謨布ヲ以テ之レヲ覆ヒ、其上ニ敷布ヲ延ヘ、安全針ヲ以テ之レヲ固定シ、臀部ニハ、方凡ソ二尺五寸ノ油紙若シクハ、護謨布上ニ、同シ大サノ脱脂綿ニテ造レル敷布團若シクハ、藁布團ヲ載セ、再ビ同ジ大サノ敷布ヲ延ベ、茲ニ産婦ヲ臥セシム可シ、又、別ニ方二尺五寸ノ油紙又ハ護謨布上ニ、同大ノ敷布

ヲ延ベタルモノヲ備ヒ、分娩終レルノ後、汚染セル臀下ノ敷布團ト交換スルノ用ニ供スルヲ要ス。總テ産床ニ供用スル物品ハ、豫ジメ分娩前ニ、善ク之レヲ準備スルヲ要ス、又、産床用ノ敷布團又ハ敷布等ハ、蒸氣装置ヲ以テ消毒スレバ、最モ佳ナリ。

〔第二八五項〕産婦ノ衣服 衣服ハ總テ緊密ナルモノヲ去リ、襯衣ハ液質ニ汚サレザランガ爲メ、背部ニ捲キ舉ゲ、輕キ布團ヲ以テ、身體ヲ覆ヒ、分娩終ラバ、温暖ノ被衾ヲ以テ交換ス可シ。分娩ノ際、腹部以下ハ、特ニ清潔ナル廣キ布片ヲ加ヘテ之レヲ覆ヒ、且ツ、特別ノ股引ヲ着ケシムルヲ便ナリトス。

〔第二八六項〕産室内所要ノ器具 産室内ニ於テ分娩ニ要スル器具ハ、産婆携帶用器具及ビ産床用諸品ノ外、種々アリ、皆ナ善ク之レヲ整列シテ、其用ニ供ス可シ、今、之レヲ列記スレバ、大畧次ノ如シ。

- 一、産婆携帶用器具(第六十一章ノ諸器具)
- 二、前項ニ記セル産床用諸品。

三、産婦及び小兒用布巾類

手巾(或ハ之レヲ缺ケモ可ナリ)〇瓦設及ビ綿布ノ壓抵巾、各數個〇洗濯セ
ル晒布二三十尺〇丁字縲帶〇方二尺餘ノ襪襪二〇ハ産出直後小兒ヲ包
被シ、一ハ小兒浴後ノ濕リ取リトス。〇兩膝間及ビ臀下ニ挿入シ得ベキ大
及ビ中枕子、各々一〇分娩後ニ用ユル腹帶〇豫備用油紙一〇小兒ノ衣服
四、温湯及ビ冷水ノ多量並ニ小兒用浴盤及ビ温婆二三個
五、洗滌消毒用盥三個、廢水溜桶一個。

六、食料及ビ藥品(温牛乳、肉羔汁、赤葡萄酒、若シクハブランデー酒)

右ノ外、看護婦又ハ適當ノ介者一名ヲ侍セシメ、且ツ他ニ必要ノ際、醫師
ノ許ニ赴カシム可キ人夫一名ヲ備フルヲ要ス。

【第二八七項】産婦就褥ノ時期 就褥ハ開口期ノ初メニ於テハ、

敢テ必要ナラズ。陣痛増盛シ、子宮口頗ル開大セバ、直チニ産床ニ入ラシ
ム可キモノトス。胎胞ノ破裂ヲ待テ、床中ニ入ラシムルハ不可ナリ。何ト
ナレバ、胎水漏泄スルノ後、直ニ娩出スルコト多ク、且ツ起立ノ際、羊水漏
泄スルトキハ、臍帶脱等ノ異常ヲ發シ易キニヨル。時トシテハ、胎水ノ早

期ニ漏泄スルコトモ亦多ク之レアリ。此ノ場合ニハ、産婦ヲ安靜ニ平臥
セシメ、多量ノ胎水ヲ失ハザラシムルヲ要ス。一、虚弱ナル婦人、狹窄骨盤、
懸垂腹、又ハ下肢陰部ニ浮腫ヲ有スルモノ、如キハ、分娩ノ初期ヨリ、産
床ニ就カシムルヲ良トス。

【第二八八項】産婦ノ位置并ニ其緊要ナル規則 産婦ノ位置

ハ、産婦ノ便宜ニ從ヒ、或ハ平臥セシメ、若クハ倚座セシム可シ。而シテ陣痛
微弱ナルモノニ在リテハ、交番ニ座位ヲ與ヘ、又ハ平臥セシメ、若クハ種々
ノ臥位ヲ與フルヲ要ス。但シ臥位ノ交換ハ、陣痛間時ニ於テセシム可シ。此
ノ如ク位置ヲ變ズレバ、産婦ヲシテ快カラシメ、且ツ陣痛ヲ増盛セシムル
益アリ。一若シ又、兒頭容易ニ下降セザルカ、或ハ回轉ヲ營ミ難キトキハ、一
定ノ臥位ヲ取ラシム可シ。即チ其規則トシテ、
『先進ス可キ兒體部ノ存スル側方ニ臥セシム可キコト。』

是レ、甚ダ緊要ノ件ナリ。

此故ニ、兒頭若シ右腸骨窩上ニ位シテ下降セザルトキハ、産婦ヲシテ右側

ニ臥セシム可ク之レニ反シ、兒頭ノ左腸骨窩上ニ存スルトキハ、左側ニ臥セシムルヲ要ス。若シ、兒頭既ニ骨盤内ニ入ルト雖ドモ、第一、第二ノ回轉ヲ現ハサズシテ、小顛門ハ下降セズ、且ツ前方ニ回轉セザルトキハ、第一頭蓋位ナレバ、左側ニ臥セシメ、第二頭蓋位ナレバ、右側ニ臥セシム可シ。加之、第三、第四頭蓋位ニ在リテモ、此規則ニ基キ、兒ノ後頭ノ位セル側方ニ臥セシムルトキハ、小顛門ヲ下降シ且ツ前方ニ回轉セシメ、第一或ハ第二頭蓋位ニ變ゼシムルコトアリ。又、兒頭、骨盤内ニ降り、其矢狀縫合依然トシテ、横徑ニ位スルモノ、深在横位ト雖ドモ、亦産婦ヲシテ、小顛門ノ側方ニ臥セシムルトキハ、兒頭回轉シテ、其後頭ヲ前方ニ向ハシムルコトアリ。

〔第二八九項〕初生兒眼炎ノ豫防

内検査ノ際ハ、第二編第卅六章ニ示セルガ如ク、嚴ニ陰部ノ消毒ヲ行ヒ、若シ、多量ノ帶下アルモノハ、必ズ二%石炭酸水一〇〇〇ヲ用ヒ、指ヲ挿入シテ精密ニ洗滌シ、腔内ヲ消毒ス可シ。否ザレバ、淋毒ヲ小兒ノ眼ニ傳ヒ、恐ル可キ初生兒眼炎ヲ誘起セシムルノ危険アルモノトス。(尙ホ第四篇第四二七項參照)

〔第二九〇項〕胎水ノ漏泄

卵胞破開シ、胎水漏泄スルトキハ、初産婦ニ在リテハ、爲メニ驚クコトアルガ故ニ、豫ジメ之レニ注意ス可シ。而シテ、羊水多量ナルモノニ在リテハ、受水盤ヲ抵テ之レニ受ケ收メ、甚ダシク床上ヲ汚染セシメザルヲ便ナリトス。胎水漏泄ノ際、産婆ハ胎水ニ注意シ、其性質正常ナリヤ、胎尿ヲ以テ着色セラル、コトナキヤ、死胎兒ニ於ケルガ如ク、綠色ヲ呈スルコトナキヤ、異常ノ臭氣ヲ發スルコトナキヤ、ヲ觀察ス可シ。(第八十八章ヲ參看ス可シ) 一苦シ適當ノ時期ヲ過グルモ、胎胞自ラ破開セザルトキハ、人工ヲ以テ破開セザル可カラズ、即チ次ノ如シ。

〔第二九一項〕人工胎胞破開法

子宮口十分開大セルモ、胎胞破開セズ、分娩遲滞セルカ、若クハ、兒頭、骨盤内ニ進入シ、胎胞、陰唇間ニ露出セルトキハ、人工ヲ以テ之レヲ破開ス可シ。但シ、之レヲ破開セントスルノ前善ク胎胞内ヲ檢シ、四肢又ハ臍帶ノ存セザルヤ、否ヤヲ知ラザル可カラズ。(若シ此等ノ存スルコトアラバ、先ツ之レヲ復納センコトヲ求ム可シ) 而シテ、其破開法ハ、陣痛時ニ、胎胞ノ緊張スルヲ見バ、指頭ヲ以テ、強ク之レヲ薦骨ニ

向テ押壓スルヲ要ス。若シ此ノ如クスルモ、尙ホ破開セザルトキハ、カテー
テル内ノ鐵線ヲ用キ、石炭酸水ヲ以テ消毒シ、示指ヲ嚮導トナシ、注意シテ
胎胞内ニ刺入スルヲ佳トス。卵膜穿刺法或ハ、ピンセットヲ用キテ胎胞ノ一
部ヲ挾鉗シ、破開セシムレバ最モ便ナリ。

〔第二一九二項〕胎胞破開後ノ内検査并ニ開口期及び産出
期ノ内検査 胎胞破開セルノ後ハ、防腐法ヲ行フテ内診シ、子宮口
ノ全ク開大セルヤ否ヤ、臍帶若シクハ、上肢等ノ脱出セルコトナキヤ否
ヤヲ檢セザル可カラズ。加之、此際必ズ縫合ノ方向、頸門ノ部位ヲ認知セ
ンコトヲ要ス。何トナレバ、胎胞破開前ニハ、之レヲ知り能ハザルコト多
ク、而シテ更ニ後期ニ至レバ、産瘤ヲ生ズルガ爲メニ、之レヲ認メ得ザル
ニ至ルコトアルニヨル。此ノ如クニシテ、臍帶ノ脱出若クハ頭蓋位置ノ
不正又ハ其他ノ異常ヲ認知セバ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。其他、開
口期及び産出期ニ於テハ、妄リニ屢内検査ヲ行フ可カラズ。何トナレバ、
内陰部ヲ不潔ナラシメ、傳染症ヲ誘起セシムルノ害アルニヨル。而シテ、

兒頭、膈内ニ降レバ、内検査ヲ施コサズ、注意シテ會陰ノ膨出スルヤ否ヤ、
兒頭ノ陰唇間ニ露出スルヤ否ヤヲ視察ス可シ。此間、屢々心音ヲ檢シ、胎
兒ノ狀況ヲ察知センコトヲ要ス。

〔第二一九三項〕排尿ノ必要并ニカテーテル送入法 分娩中

ハ、善ク排尿セシムルヲ要ス。膀胱若シ充滿スルトキハ、爲メニ陣痛微弱ヲ
發ス可シ。若シ自ラ排尿スルコト能ハザルトキハ、カテーテルヲ用ユ。即チ
之レヲ三十倍石炭酸水中ニ浸シ、尿道口モ亦、同石炭酸水ヲ蘸セル綿花ヲ
以テ拭ヒ、カテーテルノ末端ハ、二十倍石炭酸油ヲ塗り、金屬カテーテルナ
ル時ハ、指ヲ以テカテーテルノ外口ヲ塞ギ、尿道彎曲ノ方向ニ沿ヒテ挿入
シ、膀胱内ニ達ヒシメ、塞ゲル指ヲ放チテ尿ヲ流出セシム。若シ、兒頭ノ壓迫
ニヨリ、カテーテルヲ送入シ難キトキハ、他ノ手指ヲ膈内ニ送り、兒頭ヲ壓
上シ、其壓迫ヲ免レシム可シ。若シ金屬カテーテルヲ用キ、送入シ能ハザル
トキハ、細クシテ硬キ彈力カテーテルヲ撰用センコトヲ要ス。而シテ尙ホ
送入シ能ハザルトキハ、之レヲ醫師ニ託センコトヲ要ス。若シ妄リニ強力

ヲ用ユルトキハ尿道ヲ損傷ス可シ。一カテーテルヲ拔去セントスルノ際ハ再ビ指ヲ以テ其外口ヲ塞グ可シ。否ラザレバ空氣ハ不潔物ヲ伴フテ膀胱内ニ入り膀胱加答兒ヲ發セシムルノ害アリ。

〔第一九四項〕便通ノ注意

開口期ノ末期及ビ産出期ニ於テ産婦便意ヲ訴フルモ決シテ固ニ行カシム可カラズ否ザレバ胎兒不意ニ産出シ若クハ爲メニ甚ダシク會陰ヲ裂傷セシムルヲアリ。一蓋シ産出期ニ於テ頻リニ便意ヲ訴フルハ通例兒體ノ直腸ヲ壓迫スルニ基ツクモノナルガ故ニ産婦ヲ慰諭シ妄リニ便通ヲ試マシム可カラズ。

〔第一九五項〕産婦ノ飲食物

ハ通常之レヲ欲スルコトナキガ故ニ與フルコトヲ要セザレドモ若シ渴アルトキハ水牛乳若クハ稀薄ノ茶ヲ與フ可シ。但シ分娩長時ヲ費ヤスモノハ陣痛ノ甚シカラザルノ際適宜ニ消化シ易キ食品ヲ取ラシメ體力衰憊スルノ恐レアルトキハ葡萄酒肉蒸汁等ヲ飲マシムルヲ要ス。

〔第一九六項〕體温及ビ脈搏

ハ分娩中時々之レヲ検査シ若シ

脈搏甚ダ増進スルカ又ハ體温三十八度以上ニ至ルコトアラバ醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ。

〔第一九七項〕努責腹壓

ハ開口期ニ於テハ之レヲ營マシム可ラズ。胎胞ヲシテ早く破開セシメ分娩ヲ遅延セシムルノ害アリ。然レドモ産出期ニ在リテハ努責スルヲ緊要ナリトス。是レ管ニ産出ヲ速カナラシムルノミナラズ陣痛ニ堪ヘ易カラシムル益アリ。

努責ノ方法

兒頭深ク腔内ニ下リ將ニ外陰部ニ露出セントスレバ産婦ハ自ラ努責ヲ發ス可シ。此際産婆ハ産婦ニ其手及ビ足ヲ他物ニ固定シ且ツ呼吸ヲ停止シ以テ努責ス可キコトヲ教示ス可シ。但シ過度ニ努力セシムルコトナク陣痛止メバ則チ之レヲ停止セシムルヲ要ス。若シ又努責スルコト凡ソ半時間ニ至ルモ産機進行セザルトキハ暫ラク休止セシメ後更ニ之レヲ營マシムルヲ佳トス。第三篇第二三一項參照。

〔第二九八項〕會陰及ビ陰唇間ノ視察

前項ニ記スルガ如ク

兒頭會陰ヲ膨出セシメ、且ツ、陰唇間ニ露出セバ、則チ會陰防護法ヲ施サ
ル可ラズ。

第六十五章 會陰防護法(并ニ

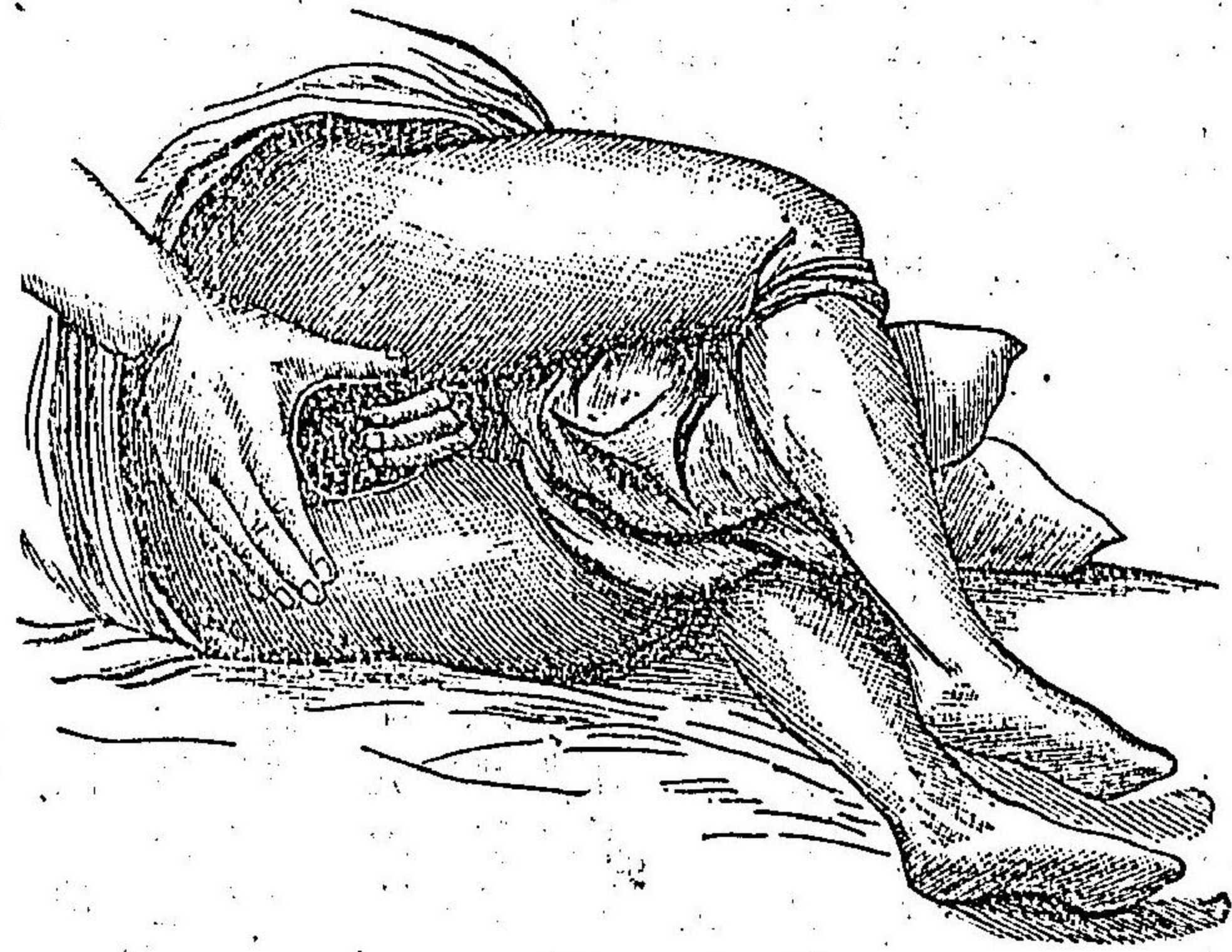
後會陰壓出法)

「第二九九項」會陰防護ノ理由 兒頭會陰ヲ通過シテ產出スル
ノ際若シ其通過スルト急速ナルトキハ、大ニ會陰ヲ破裂セシムルガ故
ニ、之レヲ防護セザル可カラズ。而シテ之レヲ防護スルニハ、三個ノ要旨
アリ、「一」產婦ニ適當ノ臥位ヲ與フルコト、「二」兒頭ヲシテ會陰ヲ徐々ニ通
過セシムルコト、「三」兩手ヲ以テ會陰ヲ支持スルコト、是ナリ。但シ、會陰防
護ノ際ハ、一盤ノ三%石炭酸水ト、脱脂綿又ハ瓦設片トヲ備ヘ、以テ手及
ビ肛門部ノ洗滌用ニ供ス可シ。

會陰防護法ニ二種アリ 側臥ニ於テスルモノ及ビ仰臥ニ於テ
スルモノ是レナリ。

「第三〇〇項」側臥ニテ會陰ヲ防護スル法

第十八圖
圖ノルス護防ヲ陰會テ於ニ臥側



此法ハ殊ニ初産
婦ニ適用ス可シ。
是レ其部分ヲ明
カニ視得ト、施術
シ易キノ便アル
ニヨル。而シテ第
一頭蓋位ニ於テ
ハ、左側ニ臥セシ
メ、第二頭蓋位ニ
ハ、右側臥ニ就カ
シムルヲ要ス。此
ノ如クニシテ、産
婦ニ、強ク膝ヲ屈
セシメ、兩膝間ニ

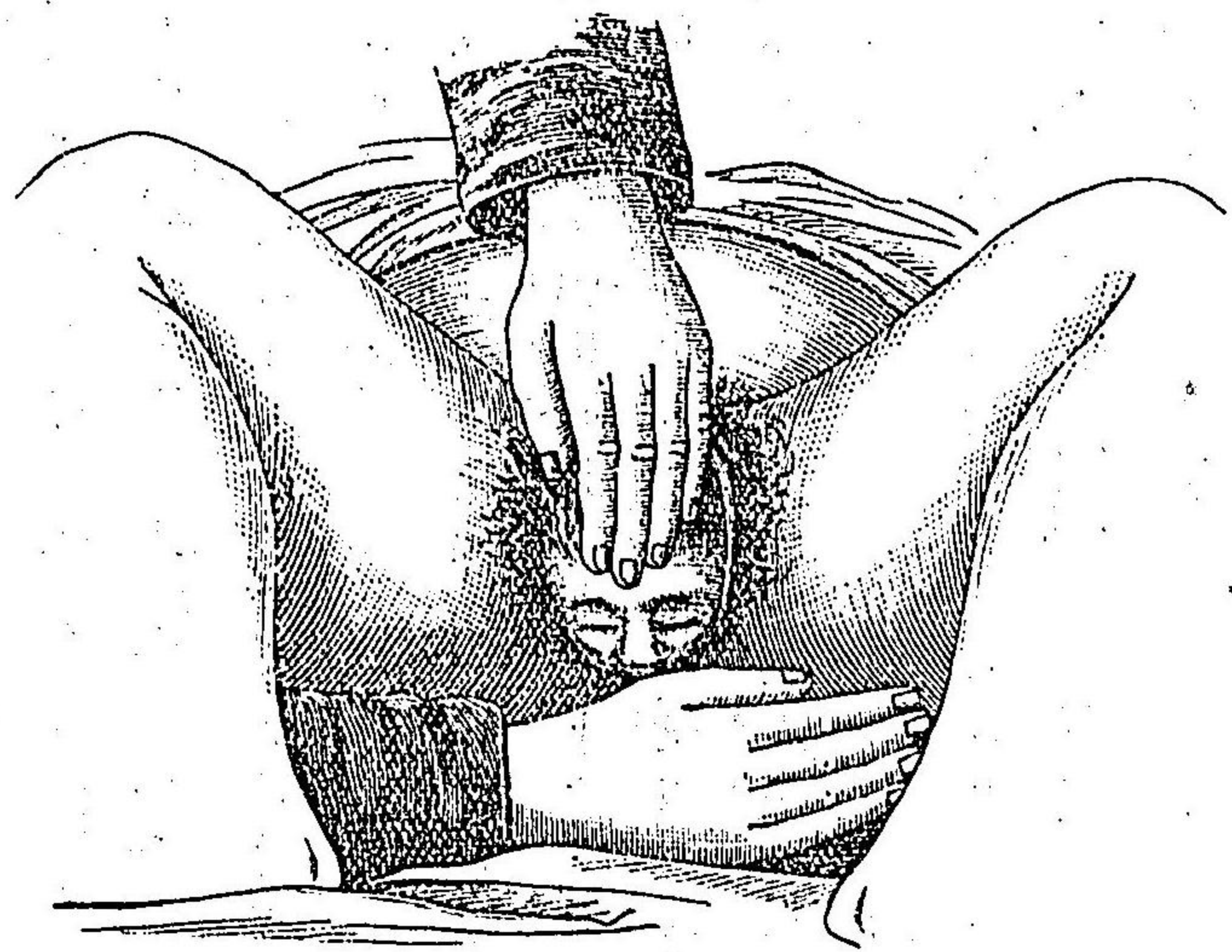
ハ大ナル枕子ヲ挿入シ、以テ之レヲ離開セシメ、術者ハ産婦ノ背側ニ座ヲ占メ、豫カジメ其手ヲ防護シ、肛門及び會陰ノ後部ニハ、石炭酸水中ニ浸セル一片ノ綿花ヲ貼シ、圖ニ示スガ如ク、一手(例之バ右手)ノ指ヲ伸展シ、拇指ヲ一側ノ陰唇ニ他ノ四指ヲ他側ノ陰唇ニ抵テ、拇指及び示指ノ中間ヲ、正ニ陰唇繫帶ノ部ニ抵テ、其縁ヲ去ルコト凡ソ半仙迷ナラシム、又、他手ハ恥骨縫際上ヨリ兩脚間ニ送り、其四指ヲ以テ兒頭ヲ支持ス、此ノ如クニ、陣痛發起スレバ、會陰ノ手ヲ以テ兒頭ヲ骨盤内ニ壓シ、恥骨縫際ヨリセル手ヲ以テ、兒頭ヲ前方ニ牽引ス可シ、而シテ、兒頭前進シ、前額露出スルノ際、即チ兒頭最大周圍徑ノ産出スルノ時期ニ於テ、會陰部ノ手ヲ以テ、會陰部ヲシテ顔面ヲ越エテ、頤部ニ至ルマデ推送セシム。

【第三〇一項】仰臥ニテ會陰ヲ防護スル法 産婦ヲ仰臥セシ

メ、其兩脚ヲ開キ、且ツ屈セシメ、臀下ニハ枕子ヲ挿入シ、少シク之レヲ高クシ、術者ハ産婦ノ右側ニ座ヲ占メ、側臥防護法ニ於ケルガ如ク、其手ヲ防護シ、綿花ヲ貼用シ、圖ニ示スガ如ク、右手ノ指ヲ並列シ、會陰及び肛門ノ上ニ

第十八圖

仰臥ニ於テ會陰ヲ防護スルノ圖



貼シ(或ハ便宜ニヨリ、側臥防護法ノ如ク手ヲ貼用スルモ亦佳ナリ)陰唇繫帶ノ部、凡ソ半仙迷ヲ露ハシ、更ニ前法ノ如ク、他手ハ、腹壁上ヨリ兒頭ニ貼シ、陣痛ノ際、側臥防護法ト同一ノ方法ニヨリ、其力ヲ

施コス可シ。

〔第三〇二項〕兒頭ヲシテ徐々ニ會陰ヲ通過セシムルニハ、産婦ヲ安靜ニシ、努責ヲ禁ジ、手足ニ支持セル物品ハ、皆之レヲ除去スルヲ要ス。若シ此ノ如クスルモ、尙ホ努責スルモノハ、急速ニ深キ呼吸ヲ營マシムルヲ佳トス。

〔第三〇三項〕防護ス可キ時期 會陰防護法ヲ施コス可キ適當ノ時期ハ、會陰部頗ル膨出シ、且ツ非薄トナリ、兒頭ノ産出近キニ在ルノ際ニ於テス可シ。早キニ失スルトキハ、兒頭ノ前進ヲ妨ゲ、且ツ會陰部ノ十分ニ延張スルヲ妨害ス可シ。但シ、初産婦ニ於テハ、經産婦ニ比スルニ、稍早ク防護スルヲ佳トス。凡テ防護ヲ要ス可キ時期ニ近カバ、手及ビ其他ノ準備ヲ整ヒ、直チニ施術シ得ベカラシムルヲ要ス。

〔第三〇四項〕後會陰壓出法 ハ若シ、兒頭深ク腔内ニ下リ、而シテ其露出スルニ至ルマデ、久シク時間ヲ費ヤシ、爲メニ羊水中ニ胎尿ヲ混ズルカ、又ハ、心音緩慢トナルガ如キ、胎兒危險ノ徵ヲ發スルニ當リ、容易ニ産

出セザルトキハ、即チ兒頭ノ後會陰壓出法ヲ行ハザル可ラズ。此ノ如キ場合ニ於テハ、會陰部球狀ニ膨出シ、尾骶骨ノ尖端ト肛門トノ間若クハ稍々其側部ニ於テ薄キ皮膚ヲ隔テ、兒ノ前額及ビ上下顎ノ存スルヲ觸知シ得可シ。依テ、産婦ヲ側臥ニ就カシメ、而シテ第一頭蓋位ニ於テハ、左側臥、第二頭蓋位ニ在リテハ、右側臥ヲ與ヘ、手ヲ尾骶骨ト肛門トノ中間ニ貼シ、陣痛時又ハ陣痛休歇時ニ於テ、顔面ヲ壓出スベシ。此際一手ヲ兒頭ニ加ヘ、其急劇ノ産出ヲ豫防シ、以テ、可及的會陰ヲ損傷セザラシメンコトヲ務ムルヲ要ス。

第六十六章 軀幹産出時ノ處置

〔第三〇五項〕兒頭産出後ノ狀況及ビ肩胛産出ノ處置 兒頭既ニ産出シ、兒體未ダ出デザルニ先チ、多クハ呼吸ヲ發シ、稀レニハ啼泣スルコトアリ。此際、小兒ノ口鼻ニ粘液ノ附着セルモノナルガ故ニ、注意シテ小指ノ補助ニヨリ之レヲ除去シ、且ツ綿花若クハ瓦設ヲ以テ其周圍

ヲ拂拭シ、以テ次回ノ陣痛ヲ待ツ可シ、而シテ、二三分間ヲ經ルモ尙ホ陣痛起ラザルキハ、子宮底ヲ環狀ニ摩擦シテ陣痛ヲ喚起シ、且ツ産婦ニ努責セシム。此ノ如クニシテ、兒ノ下顎及び後頭ニ沿ヒテ兒頭ヲ把持シ、先ツ會陰ノ方ニ壓シ、前方ノ肩胛ヲ恥骨弓下ニ産出セシメ、次ニ兒頭ヲ恥骨ノ方ニ推進シ、以テ會陰ノ方ニ位セル肩胛ヲ脱出セシム可シ。此際尙ホ一手ヲ以テ會陰ヲ防護センコトヲ要ス。若シ尙ホ肩胛ノ産出シ難キトキハ、兒背ヨリ一手ノ示指ヲ前方ノ腋窩ニ懸ケ、初メハ會陰ノ方ニ牽キテ前肩ヲ出ダシ、次ニ恥骨縫際ニ向テ引キ、後方ノ肩ヲ脱セシムルヲ要ス。肩胛産出スレバ、他ハ自ラ脱出スルモノナリ。凡ソ兒體ヲ挽出スルニハ、決シテ頭ヲ執リテ牽引ス可カラス。是レ頸筋及び脊髓ヲ傷クルノ危険アルニヨル。

〔第三〇六項〕頸部臍帶纏絡ノ處置 小兒ノ頸部ニ一回若シクハ二三回ノ臍帶纏絡ヲ呈スルハ、屢々之レアリ。此纏絡ハ解除スルヲ要スレドモ、兒頭ノ産出スルヤ否ヤ之レヲ探リテ解カントヲ求ムルハ不可ナリ。肩胛ノ稍々産出スルニ及ビ、輕ク其兩端ヲ牽キ試ミテ、之レヲ緩メ、頭

部ヲ廻ラシテ胸面ニ送り、以テ纏絡ヲ脱セシム可シ。若シ又、其纏絡セルコト緊密ニシテ脱シ難キコトアラバ、剪刀ヲ以テ切離シ、豫カジメ兩個ノ結紮ヲ施コシ、其中間ヲ切離シ得レバ、更ニ佳ナリ。直チニ軀幹ヲ挽出ス可シ。

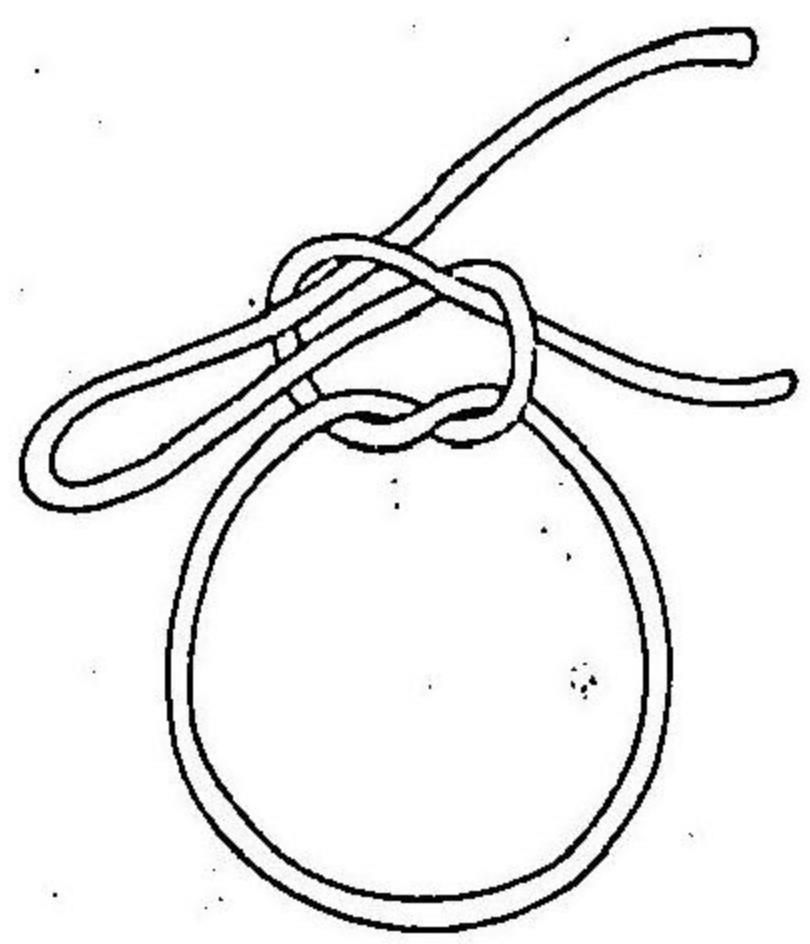
〔第三〇七項〕兒體全ク娩出スレバ 側臥セル産婦ハ、靜カニ仰臥セシメ、小兒ハ臍帶ヲ牽引若クハ壓迫スルコトナク、母ノ兩脚間ニ置キ、温メ且ツ清潔ナル襦袢ヲ以テ身體ヲ被ヒ、顔面ヲ自由ナラシメ、大凡ソ五分間ニシテ、臍帶ヲ切離スルニ至ル可シ。若シ小兒ノ假死ニ陥レルモノニ在リテハ、直チニ臍帶ヲ結紮切離シ、以テ人工呼吸法ヲ施サル可カラズ。

○小兒産出シ、臍帶ヲ切離スルニ至ルノ間、手ヲ産婦ノ腹上ニ貼シ、子宮收缩ノ狀ヲ檢シ、且ツ或ハ尙ホ一胎兒ノ存スルヲナキヤヲ檢知ス可シ。小兒若シ直チニ聲ヲ放チテ啼泣セザルトキハ、手ヲ以テ輕ク兒ノ臀部又ハ心下ヲ打チ、若クハ冷水ヲ此部ニ灌グ可シ。

第六十七章 臍帶切離法

〔第三〇八項〕臍帯結紮ノ時期及ビ法方 小兒産出シ二三分若クハ五分間時トシテハ十分時間ヲ經ルトキハ臍帯ノ搏動漸ク微弱ト

第八項 臍帯結紮ノ圖



ナリ終ニ止ムニ至ル而シテ呼吸活潑ナルトキハ臍帯搏動ノ止ムコト從テ速カナル者ナリ既ニ臍帯ノ搏動止メバ之レヲ結紮ス可シ即チ小兒ノ臍ヲ隔ツルコト三指横徑ニシテ長サ二十仙迷ヲ有スル結紮紐若シクハ麻絲ヲ以テ第八三圖ニ示スガ如キ結節ヲ造リ緊シク第一ノ結紮ヲ施コシ次ニ第一結紮ヨリ更ニ三指横徑ヲ隔テ第二ノ結紮ヲ行ヒ臍帯剪刀ヲ取リテ兩結紮ノ中央ヲ切離ス可シ此ノ際一手ヲ以テ剪刀ヲ覆ヒ誤テ兒ノ手足ヲ傷ツクルコトナカラシム可シ此ノ如ク胎盤ノ方ニ第二ノ結紮ヲ施コス所以ハ出血ノ爲メニ妄リニ床上ヲ不潔ナラシムルヲ

防ギ又ハ胎盤ヨリ流出スル血液ヲ防止シ胎盤ヲ軟カナラシメズシテ剝離ヲ容易ニシ且ツ若シ雙胎ナルトキハ第二兒ノ血液ヲ失ハザラシムルノ要アルモノトス

〔第三〇九項〕既ニシテ臍帯ヲ切離シ終ラバ 温カニ小兒ヲ包被シ之レヲ傍ニ置キ若クハ介者ニ渡シ産婆ハ遠アルゴトニ子宮ノ状態ニ注意シ手ヲ腹上ニ置キ其弛緩スルコトナキヤヲ觸知ス可シ

第六十八章 後産期ノ處置

〔第三一〇項〕既ニ後産期ニ至レバ 子宮ハ變小シ硬固トナリ胎盤ハ漸次ニ下降シ從テ臍帯モ亦進出スルモノナルガ故ニ善ク之レニ注意ス可シ即チ前章中ニ述ブルガ如ク手ヲ腹上ニ貼シテ子宮ノ状態ヲ檢シ且ツ臍帯ヲ徐カニ引キテ其ノ何レノ部マデ出デ居ルヤヲ記憶シ以テ爾後ノ比較ニ供ス可シ而シテ他ニ異常ナキトキハ子宮ヲ摩擦シ若クハ胎盤ヲ牽出スル等ノ事ヲ試ム可ラズ然レドモ子宮柔軟トナリ變小ス

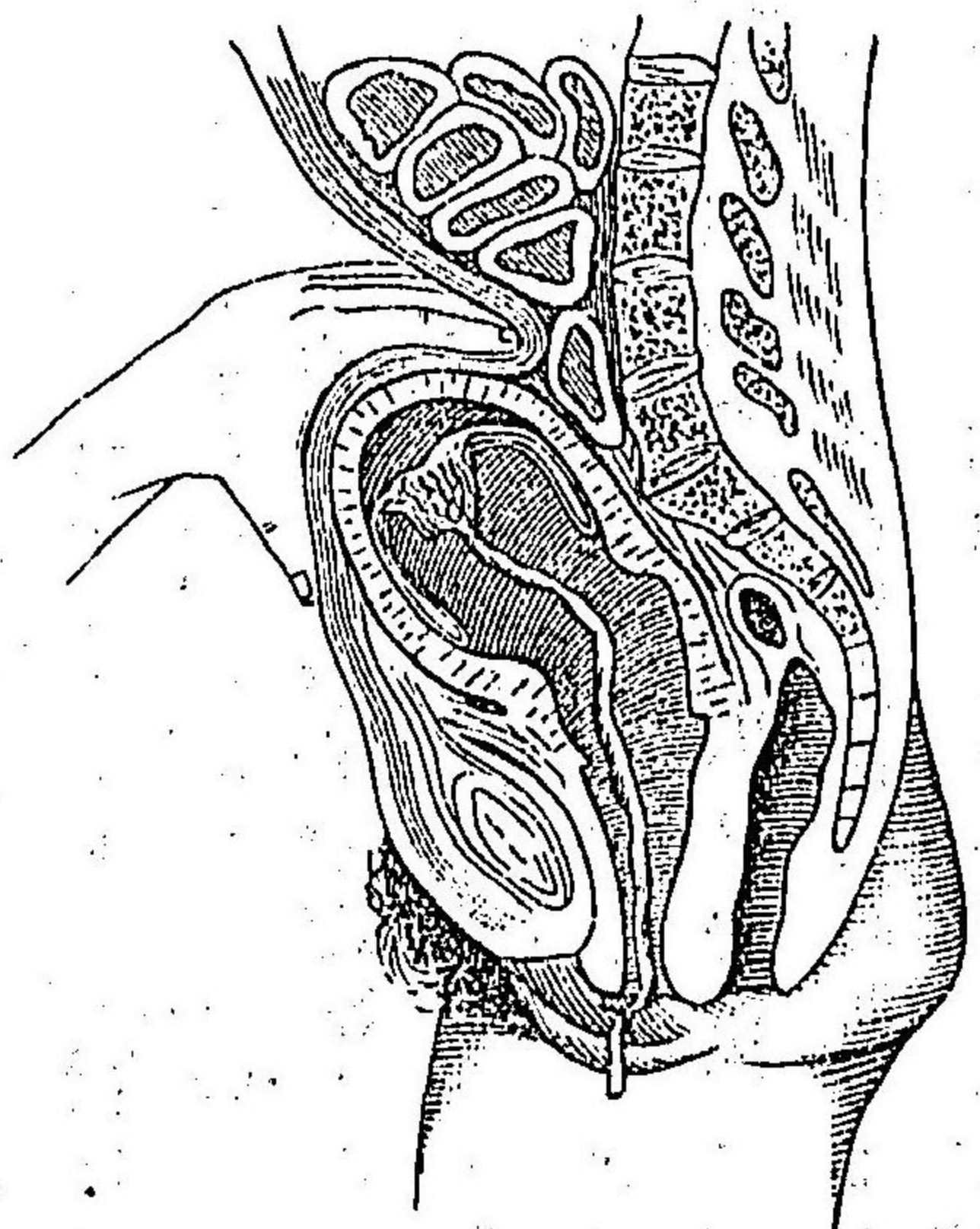
ルコトナキトキハ、腹上ヨリ輪狀ニ摩擦シ、之レヲ收缩セシムルヲ要ス。其
他、外陰部ノ下方ニハ布片ヲ抵テ、以テ出血ノ多少ヲ檢ス可シ。子宮善ク收
縮スルノ際、甚ダシク出血アルトキハ、産道ノ損傷ニ基クモノナリ。出血ニ
就キテハ、第五編、異常分娩ノ處置ナス可シ。

此ノ如クニシテ三十分間ヲ經過スルモ、胎盤ノ下降セザルトキハ、先ツ子
宮ヲ輪狀ニ摩擦シ、産婦ニ努責ヲ命ジ、腹上ヨリ子宮ヲ薦骨ニ向テ壓シ、一
種ノ胎盤壓出法ナリ。尚ホ産出セザルモノハ、次ノ挽出法ニヨリ、輕ク臍帶
ノ牽引ヲ試ム可シ。而シテ二時間ヲ經ルモ、胎盤娩出スルコトナケレバ、茲
ニ初メテ、クレイデ氏胎盤壓出法ヲ行ハンコトヲ要ス。

〔第三一一項〕胎盤挽出法 臍帶ヲ執リテ、強劇ノ力ヲ加フルコト
ナク、先ツ下方ニ挽キ、次ニ前方ニ向ハシメ、胎盤ノ一部、外陰部ニ露ハル、
ヲ見バ、新タニ防腐セル手指ヲ以テ之レヲ握ギリ、徐カニ轉振シ、傍ラ之レ
ヲ挽出ス可シ。然ルトキハ、卵膜索狀ヲナシ、多ク破裂ヲ生ズルヲナシ、此ノ
如クニシテ、後産ヲ娩出セシムルキハ、鹽等ノ如キモノニ載セ、委シク胎盤

卵膜ノ各部ヲ檢シ、其一部、破裂シテ子宮内ニ遺存セルコトナキヤヲ視ル
可シ。後産挽出ノ際、卵膜ノ一片、裂ケテ産道内ニ遺存セントスルモノハ、臍
帶結紮紐ヲ以テ之レヲ固結シ、以テ胎盤部ヨリ切離シ、消毒法ヲ嚴ニシテ
之レヲ放置ス可シ。十二乃至二十四時間ノ後、容易ク抽出シ得ルモノナリ。
〔第三一二項〕クレイデ氏ノ胎盤壓出法 先ツ子宮ヲ腹上ヨ

第八十圖
クレイ
デ氏胎
盤壓出
法ノ圖



リ輪狀ニ摩擦
シ、陣痛ノ起ル
ニ乗ジ、一手ノ
拇指ヲ子宮ノ
前壁ニ抵テ、四
指ヲ後壁ニ送
リテ、子宮底ヲ
把握シ、以テ子
宮ヲ骨盤内ニ

壓ス可シ之レヲクレーデ氏胎盤壓出法ト云フ此法ハ最モ効アルモノニシテ之ヲ施コスコト五分乃至十分ナルトキハ後産ヲ娩出セシムルヲ常トス只此法ヲ施コスコト早キニ失スルトキハ時トシテ未ダ剝離セザル後産片ヲ遺殘セシメ出血子宮内膜炎産褥熱等ヲ誘起セシムルノ害アリ

此等ノ壓出法ヲ施コシ兼テ挽出法ヲ行ヒ而シテ尙ホ後産ヲ娩出セシムルコト能ハザルコトアラバ速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス

第三一三項 出血若クハ胎盤ノ娩出セザル場合 前項

ノ方法ヲ施コスニ係ラズ小兒娩出後二時間以上ヲ經ルモ胎盤下降セザルカ若シクハ甚ダシク出血スル時ハ速カニ醫師ノ來診ヲ請フ可シ而シテ醫治ヲ求ムルニハ必ズ事情ヲ記シテ報告スルヲ要ス

第六十九章 新タニ分娩ヲ終レル産婦ノ處置

第三一四項 陰部及び子宮ノ處置并ニ小兒ノ入浴 後産

全ク娩出スルトキハ陰部ニ損傷ヲ生ゼシコトナキヤヲ檢ス可シ即チ産婦ヲ仰臥セシメ兩脚ヲ屈シ兩膝ヲ開キ防腐セル一手ノ拇指及び示指ヲ以テ陰唇ヲ開張シ之レヲ檢査スルヲ要ス此際多量ノ出血アラバ子宮ノ弛緩ニヨルカ外陰部又ハ子宮口ノ損傷ニヨルカ若クハ單ニ子宮内ノ溜血ニ基ツクカラ檢知ス可シ此ノ如クニシテ外陰部ハ二%石炭酸水若クハ二%硼酸水ヲ以テ洗滌シ若シ大ニシテ一仙迷以上ニ達スル會陰裂傷アラバ其狀ヲ記シテ醫ノ來診ヲ請フ可シ小ナル者ハ敢テ之レヲ要セズ單ニ上記ノ防腐液ヲ瓦設ニ浸シ貼用シ其上ニ乾燥セル綿花若シクハ布片ヲ抵テ兩脚ヲ收閉シ安臥セシメ次ニ一手ヲ腹上ニ抵テ子宮ヲ輪狀ニ摩擦シ以テ陣痛ヲ催起セシメ陣痛發スルトキハ其手ヲ安靜ニ腹上ニ置キ此ノ如クニシテ數回反復シ子宮ノ再ビ弛緩シ増大セザルニ至ル子宮善ク收縮スルトキハ兒頭大ニシテ圓形ナル硬固物ヲナシ恥骨ノ上方ニ觸知セラルモノトス

此ノ如ク子宮固ク收縮シ著シキ出血ナキニ至ラバ二%石炭酸水ヲ用キ

テ外陰部及び其周圍ヲ洗滌シ、同石炭酸水ニ浸セル綿花及び布片ヲ外陰部ニ貼シ、丁字織帶ヲ施コシ、之レヲ固定シ、總テ汚染シ濕潤セル物品ヲ去リ、豫ジメ準備セル敷布ヲ以テ交換シ、次ニ腹帶(第三一八項)ヲ施コサンコトヲ要ス。以上ノ處置ヲ終ラバ、始メテ小兒ヲシテ入浴セシム可シ。(第九十七章)小兒ヲ浴セシムル間モ、亦、屢子宮ヲ觸診シ、及び陰部ノ布片ニ注意シ、且ツ出血アラバ、産婦ヲシテ直チニ告ゲシム可シ。

【第三一五項】後産期中ノ出血 小兒産出後、膣口、前庭等ノ小ナル數多ノ損傷ニヨリ、頗ル多量ノ出血ヲ見ルコトアリ。此ノ如キ場合ニ於テハ、石炭酸水ヲ以テ浸セル綿花又ハ瓦設ヲ固ク陰部ニ壓抵シ、兩脚ヲ收閉セシメ、止血センコトヲ求ム可シ。但シ總テ此ノ如キ際ニハ、一手ヲ子宮部ニ貼シ、其收縮ヲ催進セシムルヲ忘ル可ラズ。又後産々出ノ後チ、子宮又ハ膣内ノ溜血頗ル夥シク流出スルヲアリ。但シ、此ノ如ク出血スト雖モ、一時ノ溜血ニ基クモノハ、敢テ恐ルヲ要セズ。即チ子宮ヲ摩擦シ、收縮セシメ、且ツ壓迫ヲ施コシ、潑溜セル血液ヲ排除シ、且ツ外

陰部ハ、上述ノ如ク處置シ、止血セシム可シ。大ナル損傷ニ因スル出血若シクハ急性貧血ヲ發スルヲアラバ、即チ直チニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

【第三一六項】後産ノ検査 以上ノ處置ヲ終ラバ、後産ヲ検査セザル可ラズ。即チ之レヲ洗ヒ、胎盤及び卵膜ニ、斷裂シ、損傷セル所ナキヤ否ヤヲ視ル可シ。若シ其缺損セル所アラバ、醫師ヲ招カンコトヲ要ス。又後産ハ、時トシテ醫ノ検査ヲ要スルコトアルニヨリ、凡テ異常アルモノハ之レヲ保存シ、加之、正規ナルモノト雖ドモ、其排出後、二時間ヲ經ルニアラザレバ、之レヲ棄テ去ル可カラズ。一時トシテハ、胎盤完全ニ産出スルモ、副胎盤アリテ遺存スルコトアリ。

【第三一七項】産婦分娩後ノ處置 分娩後、二三時間ヲ經、以上記スル所ノ必要ナル處置ヲ終ルノ後チ、著シキ出血ナク、子宮ハ善ク收縮シ、他ニ異常ナキトキハ、産婦眠ヲ催スト雖ドモ、安リニ之レヲ妨グ可ラズ。○次ニ小兒ニ就キテハ、更ニ臍帶ヲ檢シ、出血ノ存スルヲナキヤヲ見ル可シ。此ノ如ク、總テノ處置ヲ終リ、産婦及び小兒ノ共ニ安全ナルヲ見バ、始メテ

産家ヲ去ルヲ得ベシ。初生兒ノ處置ハ第九十七章ヲ見ル可シ。

〔第三一八項〕**腹帶** ハ腹壁ノ弛緩ヲ防ギ、子宮ノ收縮ヲ催進スルノ益アリ。腹帶ノ最モ簡便ナルモノハ長サ一迷ノ布片ヲ取り、中央凡ソ二十仙迷ヲ殘シテ、兩端ヲ各々四片ニ裂キ、産婦ノ腹上ニハ、綿花ヲ置キ、腹帶ヲ背ヨリ廻ラシテ、其兩端ノ各片ヲ、綿花ノ上ニ結合スルニ在リ。

〔第三一九項〕**腔内ノ洗滌** 腔内ハ分娩輕易ナル者ニアリテハ、必ズシモ之レヲ洗フコトヲ要セズ。若シ洗滌ヲ要スルモノハ、必ズ醫師ノ命ヲ請フ可シ。而シテ、洗滌ヲ施コス際ハ、挿入セルイルリガートルノ嘴管ヲ以テ會陰ヲ壓シ、善ク洗滌液ヲ流出セシメ、且ツ、脱脂綿ヲ以テ拭ヒ去ル可シ。

第七十章 金規十則

〔第三二〇項〕**金規十則** ハ獨逸國、レオポルド、ツワイフェル兩氏ノ撰ブ所ニシテ、分娩ヲ處置スルニ當リ、必ズ常ニ服膺ス可キ所ナリ。即チ

次ノ如シ。

〔一〕**外検査**ハ多キヲ良トシ、内検査ハ少ナキヲ要ス。

〔二〕**胎兒ノ心音**ハ、屢聽取センコトヲ要ス。是レ心音ハ不意ニ危急トナルコトアルニヨル。

〔三〕**理由アルニアラザレバ**、胎胞ヲ破ルコトナカレ、殊ニ子宮口狹キモノハ決シテ破開ス可カラズ。

〔四〕**善ク外検査ヲナセバ**、内検査ヲ節略スルコトヲ得。蓋シ、外検査ニヨリテ、頭部、背部及ビ臀部ト胎盤モ亦概テ善ク觸知セラル、モノナリ。

〔五〕**手ト指爪ト**ハ、常ニ、全ク無臭純潔且ツ清潔ナラザル可ラス。

〔六〕**若シ母體及ビ小兒ニ危険アルヤ否**ヲ明知セザルコトアラバ、速カニ醫師ヲ招ク可シ。自負スルコト勿レ、人ハ其實力ヨリモ賢ナルガ如ク見セシムルハ、醜キモノナリ。

〔七〕**後産ハ、忍耐シテ之レヲ待ツ可シ**。若シ否ラズシテ、卵膜ヲ遺殘セシムルコトアラバ、産婆ハ、其罪ヲ免ル可カラズ。

〔八〕會陰ヲ檢視スルヲ忘ル、ナカレ、若シ會陰ノ破裂アラバ、必ズ縫合セシム可シ。

〔九〕分娩時中ハ、始終、最モ嚴シク清潔法ヲ行フ可シ。此ノ如クスレバ、産婦ト小兒トヲシテ安穩ノ夢ヲ結バシメ、又醫師ヲ勞セシムルヲナシ。

〔十〕凡テノ産褥婦ヲ健全ナラシムルハ、産婆ノ最モ精勵ヲ加フ可キ所ナリ。産婆ノ分娩セシメタル婦人、疾病ニ罹リ、其産婆ヲシテ己ノ手ノ正シク清潔ニアラザリシコトヲ明白ニ覺知セシムルコト屢之アリ。是レ、其罪偏ヘニ産婆ニアリ、此ノ如キコトアラバ、次ニハ之レヲ改メザル可ラズ。

第七十一章 正規ニアラサル分娩即チ

異常分娩論

本章ヨリ第八十七章第三二一項乃至第三七四項ニ於テ記述スル所ハ、屢醫治ヲ要シ、若クハ、毎常、醫師ノ治療ヲ請ハザル可ラザルモノナルニヨル産婆學ニ

於テハ、之レヲ異常ニ屬セシム可キモノナリ。然レドモ、其説明及ビ講習ノ便利ナルニ因リ、其ニ之レヲ此篇中ニ論ズ可シ。

〔第三二二〕項 異常分娩ニ於ケル産婆ノ任務 既ニ序論中ニ

論述セルガ如ク、産婆ハ、自ら主トシテ異常ノ分娩ヲ處置ス可キモノニアラスト雖ドモ、若シ異常アル場合ニ於テハ、早ク之レヲ認識シ、以テ産科醫ノ治療ヲ求メ、醫ノ未ダ到ラザルノ間ハ、必要ノ處置ヲ施コシ、且ツ危急ノ場合ニ於テハ、産婆學ニ於テ許ス所ノ治方ヲ行ヒ、以テ母體若クハ兒體ノ生命ヲ救フ可キモノトス。産婆若シ此本務ヲ越エ、擅マ、ニ異常ノ分娩ヲ處置シ、醫治ヲ請ハザルトキハ、分娩ノ經過ヲ不良ナラシメ、遂ニ、母兒兩體ニ危害ヲ加フルニ至ル可シ。是レ、其罪ヲ免ル可ラザル所ナリ。

〔第三二二〕項 産婆若シ醫治ヲ緊要ナリトセバ、猶豫ナク之レヲ求ム可シ。但シ、丁寧ニ之レヲ家人ニ告ゲテ注意セシムルヲ要ス。而シテ醫師ニハ必ズ其要旨ヲ記セル書狀ヲ以テ來診ヲ請フ可シ。

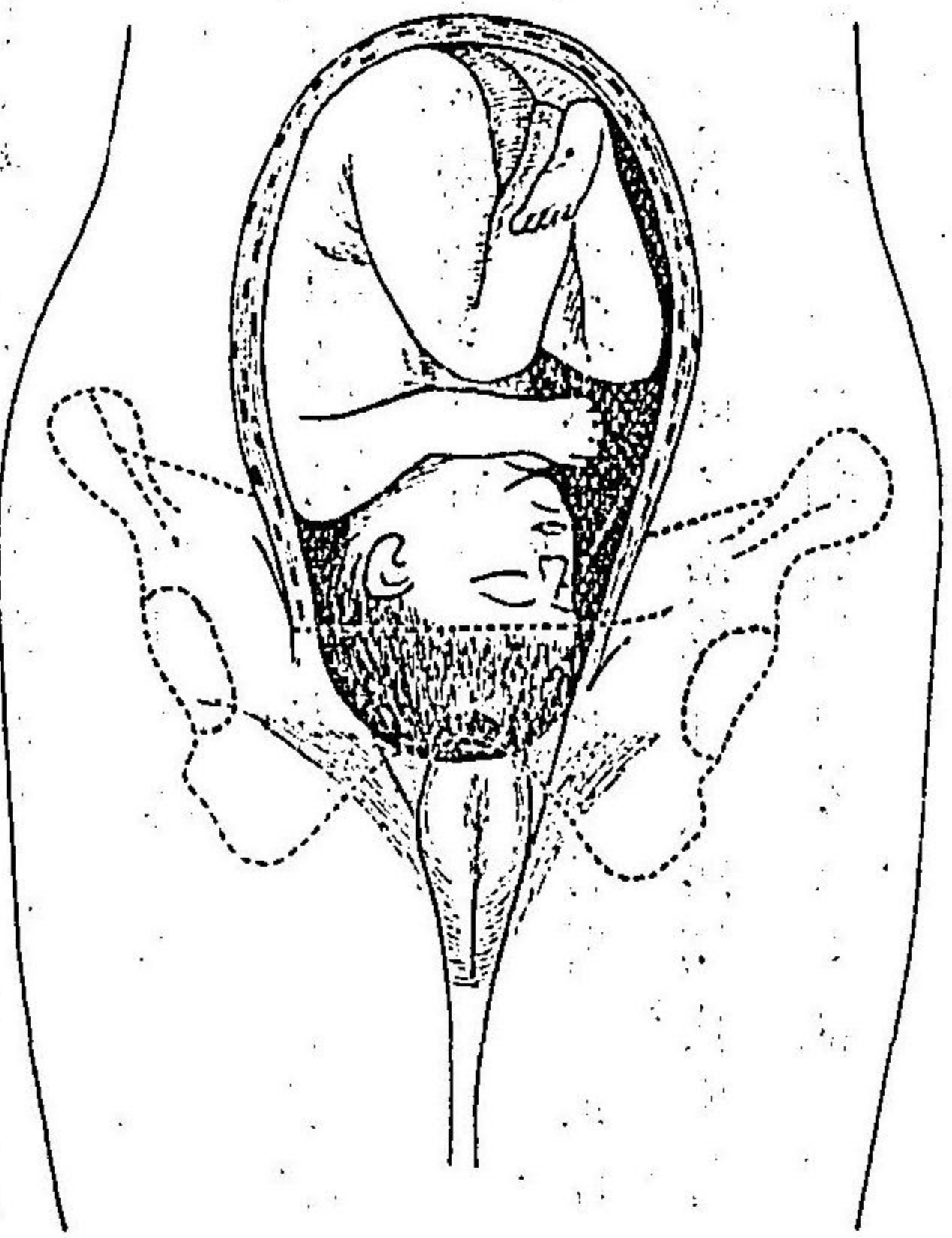
第七十二章 第三及び第四頭蓋位(前頭頂位)ノ分娩

頂位若クハ前頭位ノ分娩

〔第三二二三項〕第三及び第四頭蓋位 此位置ハ、既ニ第五十八章ニ於テ説述セルガ如ク、兒ノ後頭、右後方ニ向ヒ、或ハ左後方ニ對シ、骨盤内ニ進入スルモノニシテ、前頭即チ顛頂部ノ前部初メニ産出スルガ故ニ、前頭位又ハ前頭頂位ト名ク。此位置ハ、小ナル胎兒、圓形ナル兒頭、廣濶ナル骨盤ニ之レヲ見ルコト多シ、而シテ兒頭、骨盤内ヲ通過スルノ際、後頭位(第一第二頭蓋位)ニ比シ、頭蓋ノ周圍徑大ナルガ故ニ、分娩困難ニシテ、小兒ノ死ヲ致スコト稍々多シ。又第三及び第四頭蓋位ハ、其前頭、前方ニ位スト雖ドモ、時トシテハ、骨盤内ヲ通過スルニ當リ、全ク回轉シテ、前頭ハ後方ニ、後頭ハ前方ニ向ヒ、變ジテ後頭位トナルコトアリ、即チ第三ハ第二、第四ハ第一頭蓋位トナルモノトス。

〔第三二四項〕内外検査 外検査ニ就キ、第三頭蓋位ハ第二頭蓋位

第十八圖 前頭位 (第三頭蓋位)ノ圖



ニ同ジク、第四頭蓋位ハ、第一頭蓋位ト異ナルコトナシ、尙ホ第二五九項及ビ第二六二項ヲ參看ス可シ(第五

十八圖ハ第三頭蓋位第五十七圖ハ第四頭蓋位ヲ示ス併セ見ル可シ)内検査ニ在リテハ、第三頭蓋位ノ大顛門ハ左前方ニ、小顛門ハ右後方ニ位シ、第四頭蓋位ノ大顛門ハ右前方ニ、小顛門ハ右後方ニ存ス。

〔第三二五項〕器械的作用

兒ノ前頭即チ大顛門ノ部、最も低ク降り、其顔面ハ左若クハ右ヨリ前方ニ廻リ、前頭結節ノ部位、恥骨弓下ニ止マ

リ、後頭ハ會陰部ヨリ産出ス。

〔第三二六項〕處置 敢テ特別ノ方ヲ施コスヲ要セズ。特ニ胎兒ノ小ナル際ヲ然リトス。只第一及び第二頭蓋位ニ比スレバ、會陰破裂ヲ生ジ易キニヨリ、之レニ注意ス可シ。若シ分娩甚ダシク遲延スルトキハ、醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第七十三章 前顛頂骨位及ヒ後顛頂骨位ノ分娩

〔第三二七項〕前顛頂骨位 ニ在リテハ矢狀縫合、骨盤ノ橫徑ニ位シ、著シク薦骨岬ニ密接シテ存シ。

後顛頂骨位 トハ矢狀縫合同ジク骨盤ノ橫徑ヲ占メ、且ツ甚ダシク恥骨ニ近接セル者ナリ。此ノ兩位置ハ、通例狹窄骨盤若クハ過大ナル胎兒ニ基因セルモノニシテ、到底自ラ分娩シ能ハザルヲ常トス。故ニ速カニ醫治ヲ求ム可キモノトス。

第七十四章 頭蓋位深在橫位ノ分娩

〔第三二八項〕頭蓋位深在橫位 兒頭骨盤内ヲ下降スルニ當リ、第二回轉ヲ營マズ、爲ニ骨盤腔内ニ至ルモ、其矢狀縫合依然トシテ橫徑ニ位シ、時トシテハ骨盤出口ニ達スルコトアリ。之レヲ頭蓋位深在橫位ト云フ。此ノ如クナルトキハ、兒頭兩坐骨間ニ嵌入シ、産機全ク停止ス可シ。此變狀ハ、兒頭圓形ナルカ、若クハ扁平骨盤ナルニヨリテ發スルモノナリ。

〔第三二九項〕處置 産婆ハ、産婦ヲ兒ノ後頭ノ位セル側方ニ臥セシメ、以テ兒頭ノ回轉ヲ促サンコトヲ要ス。若シ兒頭回轉セズ、分娩遲延スルトキハ、速カニ産科醫ヲ招聘センコトヲ要ス。

第七十五章 顔面位ノ分娩

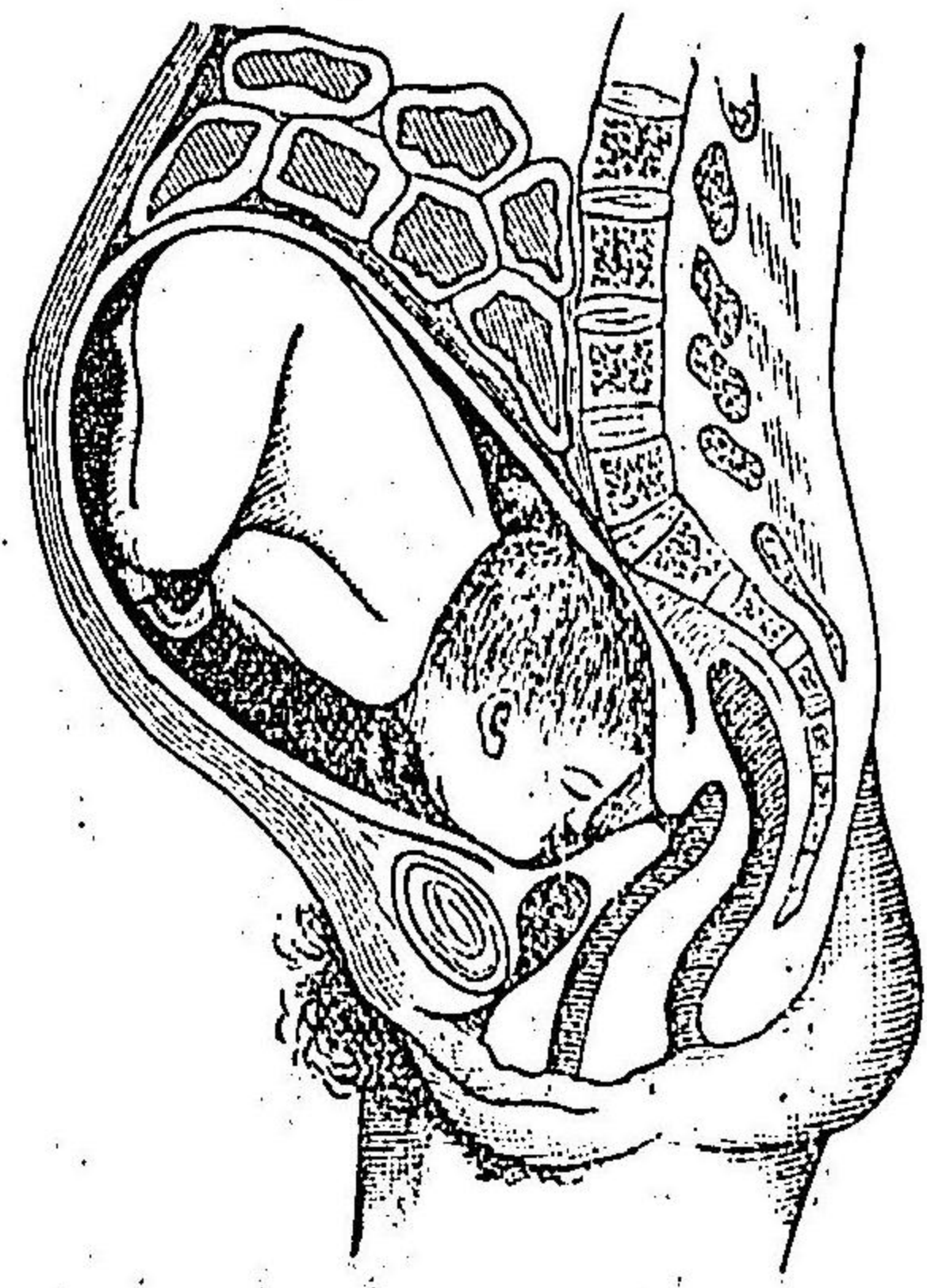
〔第三三〇項〕顔面位トハ 前頭ヲ伸展シ、胸ヲ突出シ、後頭ハ背ニ

密着シ顔面初メニ骨盤内ニ進入スルモノナリ。此位置ハ稀レニシテ凡ソ三四百回ノ分娩中一回アルトス。

〔第三三三項〕**顔面位ノ區別** 顔面位ニ二種アリ。第一顔面位及ビ第二顔面位ト云フ。甲第一顔面位トハ其背及ビ前額母體ノ左側ニ向フモノ乙第二顔面位トハ母體ノ右側ニ於テ兒背及ビ前額ノ位セルモノナリ。

體ノ右側ニ於テ、廣キ面ヲナシテ觸知シ茲ニ心音ヲ聽クベシ臀部ハ足部ト共ニ子宮底ノ左側若クハ中央ニ位シ骨盤入口上ニハ兒

第六十八圖 顔面位(第一顔面位)ノ圖



頭ヲ觸知ス可ク殊ニ後頭ハ左方ニ於テ兒ノ背面ヨリ著シク突隆セルヲ知ル可シ。●第二顔面位ニ在リテハ此等ノ部分左右全ク相反セルヲ檢知ス可シ。但シ外検査法ニヨリ明カニ第一及ビ第二顔面位ヲ識別スルコト能ハズシテ或ハ第一位ヲ第二位トナシ或ハ之レニ反シ第二位ヲ第一位ト誤認スルコトナキニアラズ之レヲ詳カニ識別センニハ内検査法ニヨルヲ要ス。

〔第三三三項〕**顔面位ノ内検査法** 内検査ヲ施コスゴトキハ顔面ヲ觸知セラル。此際注意シテ顔面殊ニ眼ヲ損傷セシム可ラズ。但シ兒頭尙ホ高ク位シ胎胞存在スルトキハ顔面ヲ識別スルヲ得ザルコトモ亦之レアリ。而シテ觸診ノ際第一顔面位ニ於テハ骨盤入口内ニ横ニ位セル鼻梁ヲ觸ル可ク鼻梁ニ沿ヒ左方ニ到ルトキハ前頭縫合ニ達シ右方ニ於テハ口及ビ頤部ヲ觸知セラル。第二顔面位ナルトキハ其左右ノ方向之レニ相反ス可シ。●凡ソ顔面位ニ於テハ前頭縫合ヨリ鼻梁ヲ通り頤ノ中央ニ達スル線路ヲ顔面線ト云フ。前ニ記セル所ハ此顔面線骨盤入口内ニ於

テ、其横徑ニ位セルモノナリ。又、右側母體ノニ位セル顔面ノ半部即チ頤部ハ、爾後最モ深ク位シ、産出ノ際、先進部ヲナスモノトス。

【第二三四項】第一顔面位ノ器械的作用

前項記スル所ノ位置ヲ取り、顔面骨盤内ニ進入スルトキハ、先進セル頤部、前方ニ廻リ、骨盤腔内ニ於テ、顔面ハ第二斜徑線ト一致ス。次ニ骨盤下口ニ至レバ、顔面益回轉シ、其顔面線ハ遂ニ骨盤ノ直徑線ニ合シ、爾後、右頰部及び右口角部、最初ニ陰裂間ニ露出シ、頤部ハ恥骨弓下ニ抵止シ、茲ニ於テ、初メニ顔面、次ニ前額、顙頂ヨリ、終ニ後頭ニ至ルマデ會陰部ヨリ産出ス。●兒頭既ニ産出スレバ、顔面ハ右ニ向ヒ、肩胛ハ左斜徑即チ第二斜徑ヨリ骨盤内ニ入り、骨盤出口ニ至レバ、右肩ハ恥骨弓下ニ出デ、左肩ハ會陰部ヨリ産出シ、兒體モ亦タ直チニ娩出スルコト、第一頭蓋位ニ異ナルコトナシ。一産瘤ハ顔ノ右側ニ生ズ、且ツ顔面ハ横ニ壓縮セラレ、甚ダシク醜形ヲ呈ス。

【第二三五項】第二顔面位

ニ於テハ、内検査ヲ施コスニ、前額、右方ニ頤部、左方ニ向ヒ、顔面骨盤内ニ進入スルトキハ、頤部、前方ニ廻リ、恥骨縫

際下ニ出デ、第一顔面位ノ如ク産出シ、其顔面、左腿ニ向ヒ、次ニ肩胛ハ第一斜徑線ヨリ骨盤内ニ入り、左肩、恥骨縫際下ニ出デ、右肩ハ會陰部ヨリ産出ス。一産瘤ハ、顔ノ左側ニ現ハル、顔面ハ壓縮セラレ、甚ダシク醜形ヲ呈ス。

【第二三六項】顔面位分娩ノ難易

顔面位ニ於テハ、先進部ノ周徑、大ナルガ故ニ、分娩頗ル困難ナリ。且ツ小兒ノ死亡數ハ十三%ノ多キニ至ル。此ノ如ク死亡數ノ多キ所以ハ、分娩困難ニシテ、時間ヲ費ヤスノ外、小兒ノ伸展セル頸部ハ、産道ノ壓迫ヲ蒙リ、爲メニ血行不良トナリ、腦ノ鬱血ヲ起スニヨル。鬱血トハ、血液ノ還リ流ル、コト不良ニシテ、靜脈血ノ鬱滯スルヲ云フ。又充血ト名クルコトアリ、血液ノ流入スルコト多量ニシテ、動脈血ノ充積スルヲ云フ。又初産婦ニ於テハ、顔面位ノ分娩著シク困難ナリトス。一若シ顔面位ニシテ、頤部、前方ニ廻轉セズ、却テ後方ニ向フトキハ、甚ダシク不良ニシテ、到底自ラ分娩スルコト能ハザルモノトス。

【第二三七項】顔面位分娩ノ處置

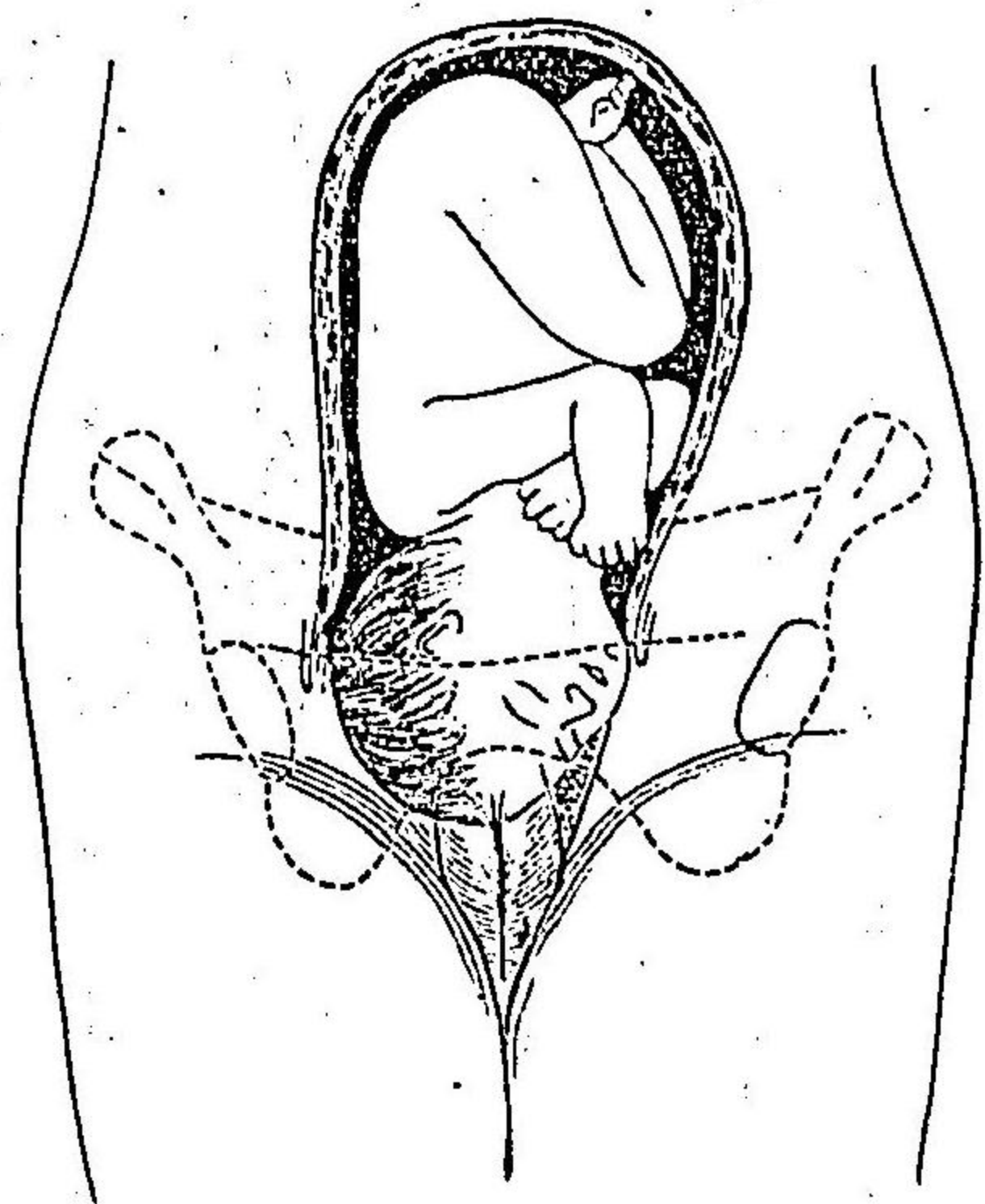
顔面位ハ、多クハ自ラ分娩ヲ

營○ミ○得○ル○ガ○故○ニ○必○ズ○シ○モ○醫○治○ヲ○求○ム○ル○ヲ○要○セ○ザ○レ○ド○モ○若○シ○分○娩○時○間○ヲ○
 費○ヤ○シ○願○部○前○方○ニ○回○轉○セ○ズ○又○ハ○却○テ○後○方○ニ○向○フ○モ○ハ○速○カ○ニ○醫○師○ノ○處○
 置○ヲ○求○ム○ル○ヲ○要○ス○而○シ○テ○產○婆○自○ラ○之○レ○ヲ○處○置○ス○ル○ニ○ハ○骨○盤○端○位○ニ○於○ケ○
 ル○ガ○如○ク○早○期○ノ○努○責○ヲ○禁○ジ○内○診○ヲ○慎○重○ニ○シ○務○メ○テ○胎○胞○ヲ○長○ク○保○存○セ○シ○
 ム○ル○ヲ○要○ス○而○シ○テ○產○婦○ノ○臥○位○ハ○兒○願○ノ○向○ヘ○ル○側○方○ニ○就○カ○シ○メ○胎○胞○既○ニ○
 破○ル○ハ○後○ハ○殊○ニ○注○意○シ○テ○内○診○ヲ○施○コ○シ○小○兒○ノ○眼○ヲ○損○傷○セ○シ○ム○可○ラ○ズ○
 會○陰○防○護○法○ハ○側○臥○ノ○位○置○ニ○於○テ○之○ヲ○行○フ○可○シ○妄○リ○ニ○壓○迫○ス○ル○ト○キ○ハ○兒○
 ノ○頸○部○ヲ○恥○骨○ニ○押○壓○シ○其○ノ○血○行○ヲ○妨○ゲ○死○ニ○至○ラ○シ○ム○ル○コ○ト○ア○リ○●
 既○ニ○娩○出○ス○ル○ト○キ○ハ○其○ノ○他○ノ○處○置○ハ○頭○蓋○位○ト○異○ナル○コ○ト○ナ○シ○只○小○兒○ノ○
 醜○キ○顏○貌○ハ○直○チ○ニ○之○レ○ヲ○產○婦○ニ○見○セ○シ○ム○可○カ○ラ○ズ○

第七十六章 額位ノ分娩

「第三三八項」額位 トハ前額部ヨリ初メニ産出スルモノニシテ
 極メテ稀レナリ内診スルニ骨盤入口ノ中央ニ前額ヲ觸レ、一側ニハ大

第八十七圖 額位(第二額位)ノ圖

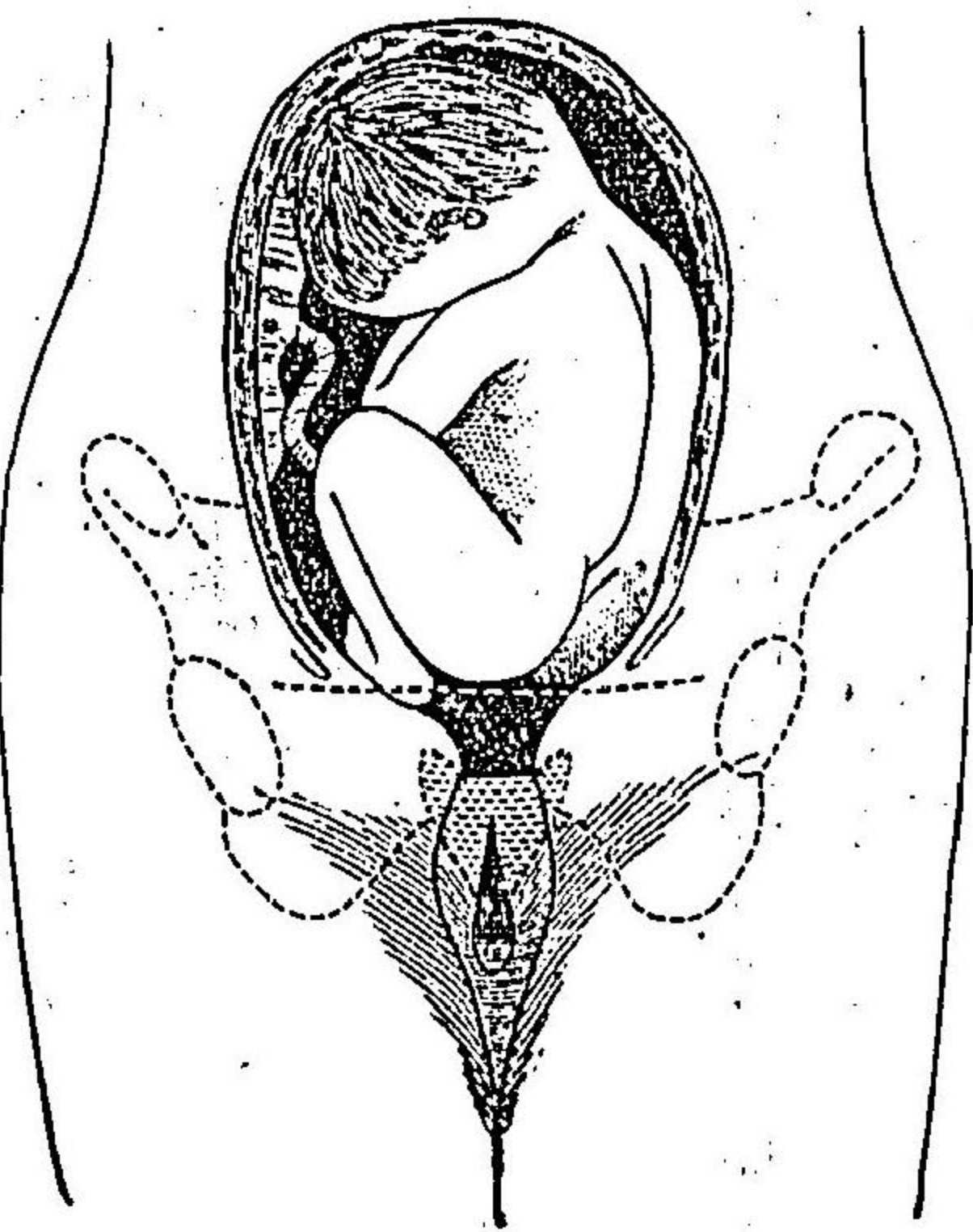


顛門、他側ニハ鼻
 梁ノ存スルヲ知
 ル可シ此位置ヲ
 取ルトキハ兒頭
 大斜徑ヲ以テ骨
 盤内ニ進ミ其周
 徑最モ大ナルガ
 故ニ頭位中最モ
 困難ナル分娩ニ

屬ス。是レヲ以テ速カニ醫師ヲ聘ス可シ而シテ其來診スルニ至ルマデ
 ハ產婦ヲ兒ノ顔面ノ存セル側方ニ臥セシメ以テ顔面位ニ變セシメン
 コトヲ求ムルヲ良トス。

第七十七章 骨盤端位

第三三九項「骨盤端位」トハ小兒ノ骨盤部母ノ骨盤入口内ニ位スルモノヲ云フ而シテ前章既ニ述ブルガ如ク其先進部ノ臀部ナルト膝部



第八十八圖 第一臀位ノ位

多産婦狹窄骨盤及ビ流産兒若シクハ早産兒ニ於テ屢之アルモノナリ。第三四〇項「各骨盤端位」ノ區別 臀位其他ノ各骨盤端位ニ於テハ顔面位等ニ於ケルガ如ク第一及ビ第二位ヲ區別ス今臀位ニ就テ之

ナルト若シクハ足部ナルトニヨリ之レヲ臀位膝位及ビ足位トナス足位ノ中更ニ全足位及ビ不全足位ノ二者ヲ區別ス就中最モ多數ナルヲ臀位トナス一又骨盤端位ハ

レヲ云ヘバ其兒背ノ左ニ向フモノヲ第一臀位ト名ケ右ニ對スルヲ第二臀位ト稱ス其他膝位及ビ足位モ亦之レト異ナルヲナシ。

第七十八章 臀位ノ分娩

第三四一項「臀位」ニ於テ兒背左ニ向フトキハ第一臀位右ニ對スルトキハ第二臀位ト名クルコト既ニ前章ニ述ブルガ如シ。

第三四二項「外検査」ヲ施コストキハ子宮底ノ中部若クハ側部ニ於テ圓形硬固ナル兒頭ヲ觸知シ恥骨ノ上方ニ稍々柔軟ナル臀部ヲ見ル可シ心音ハ臍部ノ高サ若シクハ其上方ニ在リテ第一臀位ナルトキハ左側第二臀位ナルトキハ右側ニ聽取ス可シ小體部ハ深ク下腹内ニ位シ時トシテハ全ク觸知シ難キコトアリ。

第三四三項「内検査」ヲ行フトキハ腔穹窿部ヲ隔テ柔軟ニシテ不整形ナル臀部ヲ觸ル可ク而シテ臀部ノ一側ニハ尖リタル尾骶骨ト其上方ニ在リテ背面不平等ナル薦骨ヲ探知ス可ク又臀部ノ前方ニハ小ニシ

テ移動ス可キ足部アリ指ヲ以テ之レニ觸ル、トキハ容易ク逃去スルモノナリ○子宮口開大スルトキハ卵膜尙ホ存スト雖ドモ指ヲ以テ詳カニ臀部ノ周圍ヲ觸知ス可シ。

第七十九章 臀位分娩ノ器械的作用

「第三四四項」第一臀位分娩ノ器械的作用 在リテハ胎兒腰部ノ廣徑、骨盤入口内ニ於テ、多クハ第二斜徑ニ位シ稀レニハ横徑ニ、最モ稀レニハ第一斜徑ニ位スルヲアリ、第一斜徑ニ在ルトキハ背面左後方ニ向フ骨盤内ニ於テハ常ニ第二斜徑ヲ取り骨盤出口ニ至レバ、左ノ臀部、右前方ヨリ恥骨縫際下ニ至リテ止マリ、右臀ハ會陰部ヨリ出デ、臀部全ク産出スレバ、腹面ハ母體ノ右腿ニ向フ足ハ高ク舉上シ、胸部ト共ニ露ハレ、若シクハ膝ヲ屈シ、臀部ニ沿ヒテ位シ、之レト共ニ産出ス可シ。次デ肩胛ハ第二斜徑ニ就キテ骨盤内ヲ下リ、下口ニ至ルニ從ヒ、臀部ノ産出スルガ如ク左肩ハ先ヅ恥骨縫際下ニ至リテ停止シ、右肩ハ會陰部ヨリ出デ、遂ニ兩

肩胛全ク産出ス。此際兩上肢ハ胸前面ニ於テ交叉シ、共ニ外陰部ニ露ハレ、爾後、兒頭ハ屈伏セル位置ヲ取り、頤部、胸上ニ接着シ、兒頭ノ直徑骨盤入口ノ横徑若クハ第一斜徑ト一致シテ、其腔内ニ進入シ、漸次ニ回轉シテ、後頭ハ恥骨縫際下ニ至リ、頤部ハ始メニ會陰部ヨリ産出シ、顔面、顛頂部之レニ次ギ、遂ニ全ク娩出スルニ至ル。産瘤ハ先進臀部即チ左臀ニ位シ、生殖器ニ至ルマデ遷延ス可シ。

「第二四五項」第二臀位分娩ノ器械的作用 第二臀位ニ在リテハ兒背、右ニ對シ、腰部ノ廣徑ハ第一斜徑若クハ横徑(稀レニハ第二斜徑ニ就キテ骨盤内ニ進ミ、回轉シテ右臀部恥骨弓下ニ來リ、左臀部始メニ會陰部ヨリ出デ、兒ノ腹面ハ母體ノ左腿ニ對向シ、肩胛ハ第一斜徑ヨリ同ジク骨盤内ニ入り、右肩胛、恥骨弓下ニ來リ、左肩胛初メニ會陰部ヨリ露ハレ、兒頭ハ頤部ヲ胸上ニ接着シ、其直徑ハ骨盤ノ横徑若クハ第二斜徑ニ就キテ、骨盤腔内ニ進ミ、回轉シテ其後頭、恥骨弓下ニ止マリ、頤部初メニ會陰部ヨリ出デ、遂ニ全ク産出ス可シ。手及ビ足ノ産出ハ第一臀位ト異ナルコト

ナシ。産瘤ハ右臀ニ位シ、陰部ニ波及ス。

第八十章 臀位ノ異常ナル分娩

「第三四六項」異常ナル臀位

時トシテハ、臀位ニシテ、兒背後方ニ向ヒ、臀部若クハ肩胛ノ産出セル後チ、回轉シテ前方ニ向フコトアリ。若シ、終ニ此回轉ヲナサル時ハ、兒頭、骨盤内ヲ通過スルノ際、其顔面、前方ニ向ヒ、後頭ハ會陰部ニ對シ、其分娩困難ナルモノトス。

第八十一章 足位ノ分娩

「第三四七項」足位

ニ全足位及ビ不全足位ノ二種アリ。且ツ各足位ニ第一足位及ビ第二足位アルハ既ニ之レヲ記述セリ。

「第三四八項」内外検査

外検査ニヨルニ、足位ハ臀位ト區別スルコト能ハズ。内検査ヲ施コストキハ、足ヲ觸知ス可ク、而シテ胎胞尙ホ存スト雖ドモ、足ノ形状ニヨリ、手ト區別シ得可シ、即チ足跡ハ長クシテ一方ニ

踵ヲ有シ、趾ハ短クシテ運動スルコト少ナク、跗趾ハ、手ノ拇指ト異ニシテ、他ノ趾ヨリ離開セシムルコト難キモノトス。

「第三四九項」足位ノ器械的作用

ハ第一足位ハ第一臀位ト同ジク、第二足位ハ第二臀位ト異ナルコトナキモ、軀幹及ビ頭部ノ娩出スルコト稍々容易ナラザルモノナリ。是レ先進部ノ小ナルガ爲メニ、産道ノ開大スルコト不充分ナルニヨル。

第八十二章 膝位ノ分娩

「第三五〇項」膝位

ハ子宮口内ニ、膝ノ先進シ來レルモノニシテ、外検査器械的作用及ビ分娩ノ處置ハ、概テ足位ト異ナルコトナク、且、大腿ニ至ルマデ産出スレバ、足位ニ變ズ可シ。但シ、膝ハ内検査ニヨリ、横位ニ於ケル手ノ肘部ト區別シ難キコトアリ。此場合ニ於テハ、速カニ醫治ニ委ヌ可キモノトス。

第八十三章 骨盤端位分娩ノ利害

「第三五二項」骨盤端位分娩ノ害ナキ場合 陣痛強盛ニシテ骨盤廣ク小兒過大ナラズ軟部産道善ク延張シ得ルトキハ、毫モ母兒兩體ニ害ナクシテ、自ラ分娩ヲ遂グルコトヲ得可シ。若シ之レニ反シ、陣痛其他ノ事項上ニ述ブル所ト相反對スルトキハ、多少害ナキコト能ハズ。

「第三五二項」各骨盤端位分娩ノ難易 骨盤端位ニシテ就中佳良ナルハ臀位ナリ。不全足位ハ之レニ次ギ、全足位最モ不良ナリ。是レ、全足位ナルトキハ、産道ヲ開大スルコト最モ不充分ナルガ故ニ、肩胛及ビ頭部ノ産出スルニ際シ、甚ダシク支障多キニ因ル。加之、全足位ニ於テハ、産道ヲ壓開スルコト少ナキニヨリ、産婦ハ有益ナル腹壓ヲ營ムコト少ナク、且ツ、妄リニ不法ノ牽引ヲ試ラレ易ク、然ルトキハ、爲メニ小兒ノ願ハ胸上ヲ離レ、上肢ハ容易ク舉揚シ、大ニ娩出ノ害ヲ醸ス可シ。又、小兒ヲシテ甚ダ死ニ陥リ易カラシム。

「第三五三項」骨盤端位小兒ノ死亡シ易キ理由 ハ凡ソ三アリ。一、臍帶ノ壓迫、二、胎盤ノ剝離、三、胎水早期ノ流泄トナス。之レヲ次ニ説述ス可シ。

「一」臍帶ノ壓迫 骨盤端位ニ於テハ、臍部マデ産出スルモ、産道ノ開クト尙ホ小ニシテ、肩胛及ビ頭部ハ頗ル大キク、爲メニ、臍帶ヲ壓迫ス可ク、且ツ、分娩ハ時ヲ費ヤスト多シ。而シテ臍帶ノ壓迫セラレ、五分間以上ナルトキハ、小兒ヲシテ死ニ至ラシム。○又、臀部ハ小ニシテ、骨盤入口ヲ充塞セザルニヨリ、臍帶脱ヲ發スルコトアリ。然ルトキハ、更ニ早ク臍帶ノ壓迫ヲ生ズ可シ。

「二」胎盤ノ剝離 骨盤端位ニ於テハ、兒頭未ダ産出セザルニ當リ、子宮ノ變小スルガ爲メニ、胎盤ノ剝離ヲ生ジ易ク、以テ、小兒ヲ死ニ至ラシムルコトアリ。

「三」胎水ノ早期流泄 骨盤端位ニ在リテハ、頭蓋位ト異ニシテ、其先進部小サク、産道ヲ充塞セザルガ爲メニ、胎水ノ全部、直チニ胎胞ノ上ニ押

壓シ來ルモノトス。此故ニ、産婦ノ努力若シクハ粗暴ナル検査ニヨリテ、容易ニ胎胞破裂シ、胎水ノ早期流泄ヲ致ス可シ。而シテ胎水早ク流出スルトキハ、子宮縮小貧血シ、胎盤ノ物質交換不良トナリ、加之、胎胞ノ缺クルニヨリテ、子宮口ノ開クコト遅ク、分娩時ヲ費ヤシ、爲メニ胎兒ヲ死ニ陥ラシムルコトアリトス。

〔第三五四項〕母體ニ於ケル害 母體ニ於テハ、手術ヲ受ルコト多キニヨリ、容易ニ傳染症ヲ發スルノ危険アリ。又初産婦ニ在リテハ、頭蓋位ニ比スルニ、大ナル會陰破裂ヲ生ズ可シ。是レ、小兒ノ危害アルガ爲メニ、善ク會陰防護法ヲ行フ能ハザルコト多キニヨルモノトス。

第八十四章 骨盤端位分娩ノ處置

〔第三五五項〕骨盤端位分娩處置ノ要領 豫ジメ妊娠ノ末期ニ際シ、骨盤端位ナルコトヲ檢知セバ、外回轉術ニヨリテ之レヲ頭蓋位ニ整復スルヲ緊要ナリトス。既ニ分娩時ニ至リ、此位置ヲ取レルモノニ在リ

テハ必ズ先ヅ産科醫ヲ招聘シ、消毒ニ要スル藥液、産床用諸品、小兒ノ回生術ニ用ユ可キカテーテル、其他、温湯、冷水等ヲ準備シ、産婦ヲ安靜ニシ、長ク胎胞ヲ保存センコトヲ勉メ、以テ醫師ノ至ルヲ待ツ可シ。然レドモ、若シ醫師ヲ待ツコト能ハザルカ、又ハ、醫師ヲ招聘スルコト能ハザルトキハ、産婆ハ自ラ之レヲ處置セザル可カラズ、即チ産婦ヲ仰臥セシメ、少シク臀部ヲ高カラシメ、小兒ノ臀部産出ノ際ハ、一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ、他ノ手ヲ以テ兒ノ臀部ヲ支持シ、其産出ヲ扶ケ、次ニ胸部ニ至ルマデ露出セバ、劇シク努責ヲ命ジ、兒體ヲ強ク母ノ腹面ニ向ケテ舉揚シ、以テ後側ノ肩胛ヲ脱出セシメ、肩胛全ク産出セバ、産婦ヲシテ更ニ劇シク努責セシメ、兒體ヲ母ノ腹面ニ向ケテ益々舉揚シ、一手ヲ以テ強ク會陰ヲ防護シ、以テ兒頭ヲ産出セシム。●小兒産出後ノ處置ハ、正規分娩ト異ナルコトナシ、若シ胸部ニ至ルマデ露出シ、上肢ハ舉揚シテ産出セザルトキハ、先ヅ後方ノ一手ヲ牽出セシガ爲メニ産婆ハ其手ヲ防腐シ、同名ノ一手ヲ深ク産道内ニ送りテ、之レヲ牽下シ、次ニ兒體ト共ニ前方ノ兒手ヲ後方ニ回旋シ、其同名手即チ他ノ一

手ヲ產道内ニ進メテ同ジク之レヲ牽下シ而シテ直チニ該手ノ示中二指ヲ兒ノ口内ニ挿入シ他ノ一手ヲ兒ノ後頭ニ掛ケ兩手ヲ協合シテ兒頭ヲ誘導線ノ方向ニ挽出ス可シ之レヲ骨盤端位ノ挽出術ト稱ス(胸部以下ノ挽出術ノ大要ハ第三六四項ニ在リ)以上ハ骨盤端位處置ノ要領ニ過ギザルヲ以テ實際上ニハ更ニ詳細ニ習得セザル可カラザルモノアリ故ニ次ノ第三五六乃至三六九項ニ於テ特ニ之レヲ詳説ス可シ。

【第三五六項】醫師ヲ招ク可キト 產婆ハ骨盤端位ノ分娩ニ於テハ可及的速カニ醫師ヲ招聘セザル可カラズ且ツ醫ヲ招カントスルニハ必ス書狀ヲ以テシ其分娩ノ狀況ヲ記載ス可キ者トス然レドモ若シ其胎兒生存シ能ハザルカ又ハ既ニ死亡セルコトヲ確知セバ必ズシモ醫治ヲ求ムルヲ要セズ○蓋シ骨盤端位ニ於テハ人工ノ補助ヲ用キザレバ分娩シ能ハザルニアラズト雖ドモ若シ其臀部ニ至ルマデ産出シ臍帶壓迫ニヨリ小兒ノ危險ニ迫レルニ當リ產婆ハ必シモ迅速且ツ確實ニ緊要ノ補助ヲ與ヘ得可シト云フコト能ハズ是レヲ以テ醫師ヲ

招クヲ法トナス而シテ產婦若シ之レガ爲メニ懼レヲ懷クトキハ醫師ヲ聘スルハ小兒ニ注意センガ爲メニシテ決シテ目前ノ危急アルニアラザルコトヲ告グ其心ヲ安ンゼシム可シ。

【第三五七項】醫師來着以前ノ準備 醫師來着以前ノ準備トシテ種々ノ要器ヲ具フルヲ要ス即チ臀下ニ挿ム可キ枕子施術時ニ下肢ヲ覆フ可キ被衣臍帶結紮紐及ビ剪刀小兒ノ回生術ニ用ユルカタール數個ノ壓抵巾並ニ温水及ビ冷水ノ適量ヲ用意ス可シ若シ寢臺ヲ用キ横床位ヲ造クルトキハ之レニ要スル三個ノ椅子ヲ備フルヲ要ス次ニ横床位及ビ半横床位ノ方式ヲ記ス可シ。

【第三五八項】横床位 寢臺ヲ用キテ横床位ヲ取ラシムルトキハ陰部ニ對スルコト便ニシテ且ツ兒ヲ牽引スルコト容易ナルノ益アリ即チ產婦ノ上腿ハ布片ヲ纏ヒ安全針ヲ以テ之ヲ固定シ襪ヲ穿タシメ產婦ヲ床上ニ横ニ臥セシメ臀部ヲ床端ニ置キ臀下ニハ清潔ナル布片ヲ以テ被覆セル枕子ヲ挿置ス而シテ寢臺ニ沿フテ二個ノ椅子ヲ對向

セシメ、産婦ノ各脚ヲ之レニ載セ、若クハ二人ノ介者、其椅子ニ就キ、産婦ノ各脚ヲ其腿上ニ置キ、之レヲ固定シ、術者ハ其中間ニ坐ヲ占メ得可カラシム。

〔第三五九項〕平横床位　ハ横床位ヨリモ産婦ノ頭ヲ一方ニ偏シ、斜メニ臺上ニ臥セシメ、一足ハ横床位ノ如ク椅子ニ載セ、若シクハ介者ニ保タシメ、他足ハ床上ニ止ムルモノナリ。此位置ニ於テハ、術者ノ坐位、狹隘ナルヲ以テ、横床位ニ劣レリトス。

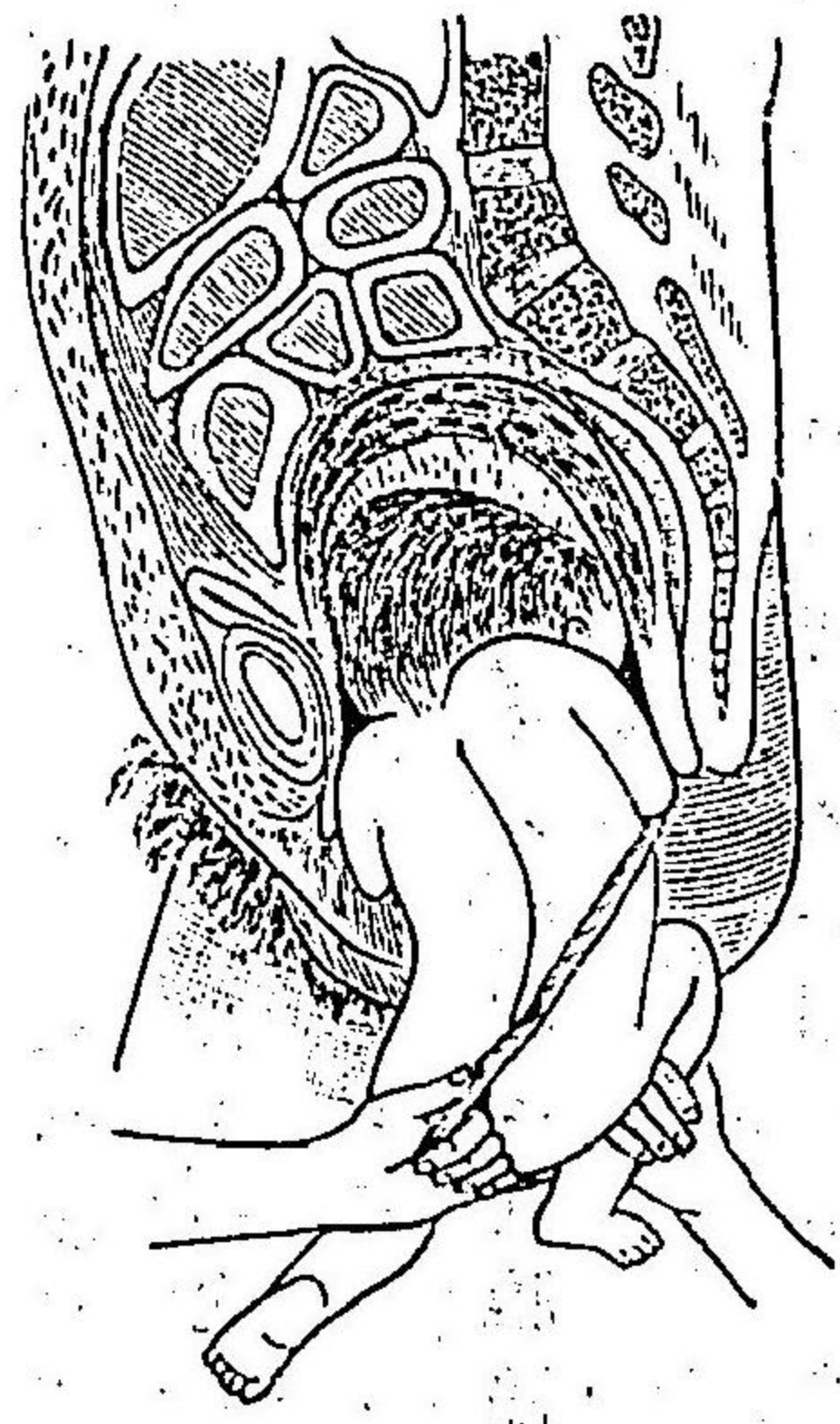
〔第三六〇項〕胸部産出前ノ要件　胸部産出ニ至ルマデハ、醫師ニ在リテモ、施術スルノ要ナシ、殊ニ胎胞破裂前ナルトキハ、可及的胎胞ヲ保護シテ、長ク存セシムルコト必要ナルニヨリ、必ず無用ノ検査ヲ避ケ、努責ヲ禁ジ、産婦ヲ兒背ノ向フ所ノ側方ニ臥セシム可シ。便通ノ際ニハ、決シテ蹲踞セシムルコトナク、必ず差込ノ便器ヲ用ユルヲ要ス。

〔第三六一項〕胎胞破開セルトキハ、防腐法ニヨリテ、子宮口開大ノ程度、並ニ臀部果シテ先進セルヤ否ヤ、腰部廣徑ノ方向及び臍帶脱ノ

存セザルヤ否ヤヲ檢知ス可シ。胎胞破裂スト雖モ、産婦ニ努責スルヲ禁ジ、其力ヲ蓄エテ、臀部露出ノ後ニ至リ、大ニ努責ヲ營マシムルヲ要ス。産科醫若シ適當ノ時期ニ來着セバ、産婆ハ小兒分娩後ニ至ルマデ、一モ自ラ主トシテ行フ可キモノナク、唯、醫師ノ命ニ從テ、之レヲ補助ス可キモノトス。

〔第三六二項〕然レドモ、醫若シ適當ノ時期ニ來着セザルモ、キハ、産婦ニ適當ノ臥位ヲ與ヘ、臀部ヲ高クシテ仰臥セシメ、若シクハ横床位ヲ與ヘ、經産婦ニ於テハ、小兒ノ臀部、既ニ陰裂間ニ産出スルノ際、初

第九十圖 小兒ノ臍帶ヲ解除スル圖



寛ヤカニ臍帶ノ胎盤端ヲ牽キ兒ノ右脚ヲ超エテ脱セシムルヲ示ス

産婦ナルトキハ、臀部少シク現ハル、ヲ見バ、豫ジメ其手ヲ防腐シ、一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ、他手ニ兒ノ臀部ヲ支持シ、稍之レヲ舉上ス可シ。之レニヨリテ、兒體ヲ前方ニ彎曲セシメ、大ニ娩出シ易カラシムルモノナリ。次ニ臍帶ヲ檢シ、若シ強キ緊張ヲ現ハサバ、緩和ニ其胎盤端ヲ牽キ、之レヲ寛クセンコトヲ務ム可シ。

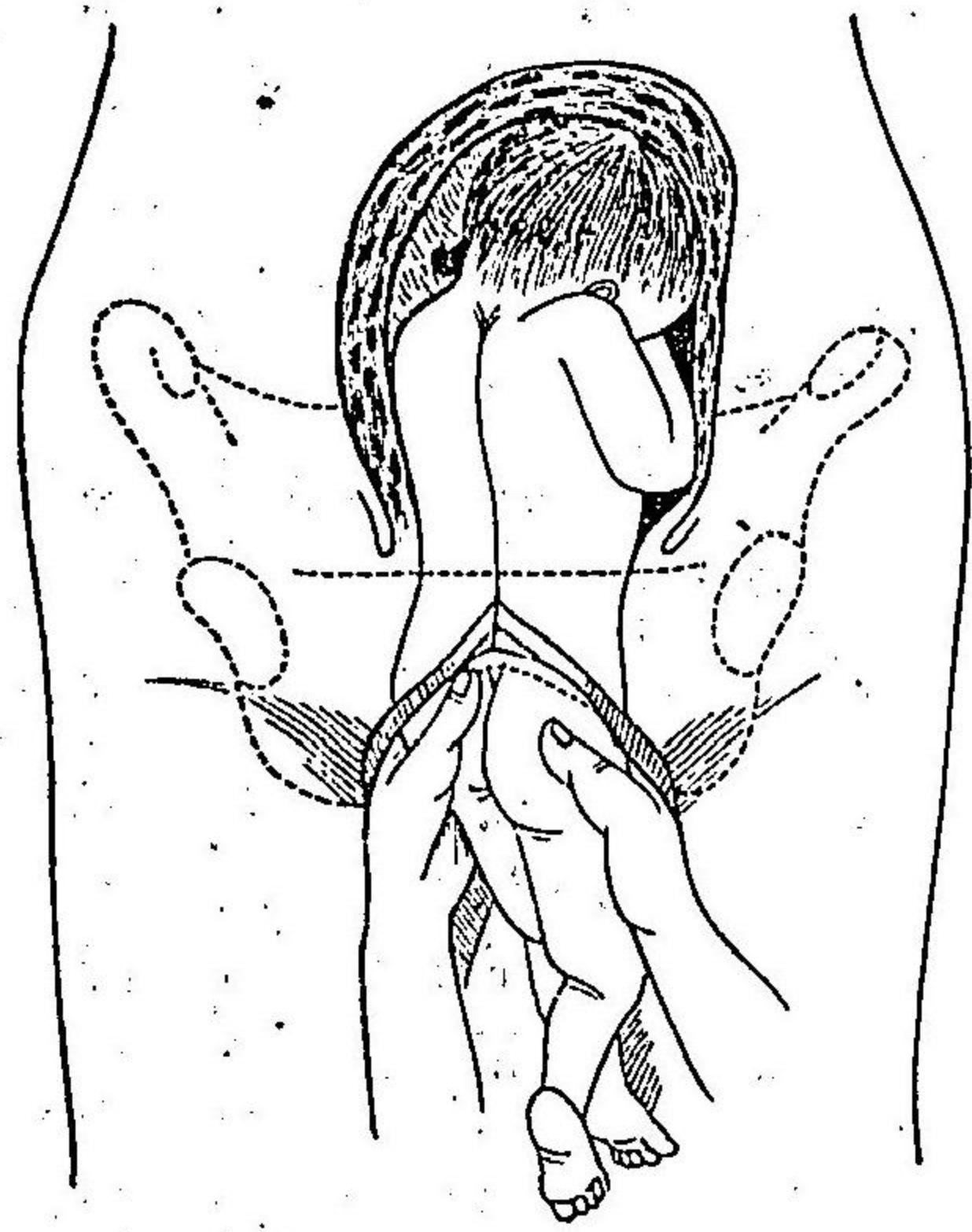
若シ又、小兒臍帶ニ跨リ居ラバ、背部ノ一端ヲ牽キテ之レヲ緩メ、後チ後方ノ足ヲ踰エテ脱セシムルヲ法トス。

〔第二六三項〕既ニ胸部ニ至ルマデ産出セバ、若シ介者アルトキハ、子宮ヲ輪狀ニ摩擦シ、陣痛ヲ催起シ、而シテ後チ、子宮ヲ骨盤内ニ壓セシム。又産婦ニハ、陣痛ノ起ルニ乗ジ、強ク努責ヲ命ジ、次ニ小兒ノ肩胛會陰部ニ來ラバ、兒體ヲ腹上ニ向テ舉上シ、以テ會陰ノ裂傷ヲ防ギ、次ニ肩胛部ヲ把持シ、注意シテ舉上シ、頭部ノ産出ヲ助ク可シ。此ノ如クスルモ尙ホ産出セズ、且ツ醫師ノ到ラザルトキハ、即チ娩出術ヲ行ハザル可カラズ。即チ次章ニ於テ之レヲ述ブ可シ。

第八十五章 骨盤端位娩出術

〔第二六四項〕骨盤端位娩出術 此娩出術ヲ行フニハ、豫ジメ坐側ニ二%石炭酸水ヲ備ヘ、之レヲ以テ更ニ其手ヲ洗滌シ、兒ノ體部ハ、同ジク石炭酸水中ニ浸漬セル布片ヲ以テ包被シ、足部ナルトキハ、拇指及ビ示中二指ヲ以テ之レヲ執持シ、下脚ノ露ハレタルモノハ、可及的兩手ヲ用キ、拇指ヲ其後側ニ貼シテ之レヲ把握シ、臀部ノ既ニ娩出セルトキハ、兩手ノ拇指ヲ薦骨上ニ貼シ、以テ骨盤部ヲ把持シ、同時ニ介者ヲシテ腹上ヨリ子宮ヲ骨盤内ニ壓セシメ、以テ牽引ヲ施シ、傍ラ兒體ヲ廻旋シ、肩胛ノ下角マデ娩出セバ、肩胛ノ廣徑ト骨盤下口ノ直徑線ト相一致スルニ至ラシム。此時期ニ至レバ上方ニ舉上セル兒足ハ、自ラ脱下スルモノナリ。次デ術者ノ手ヲ胸部ニ進メ、兩拇指ヲ背椎ノ兩側ニ貼シテ胸廓ヲ把持シ、牽引ス可シ。腹部ハ、内臟ヲ損傷スルノ恐アルニヨリ、必ズ之レヲ把握ス可カラズ。○娩出ノ間、兒背、後方ニ向フカ、若クハ向ハントセバ、前方ノ臍部ヲ頗ル強ク牽引

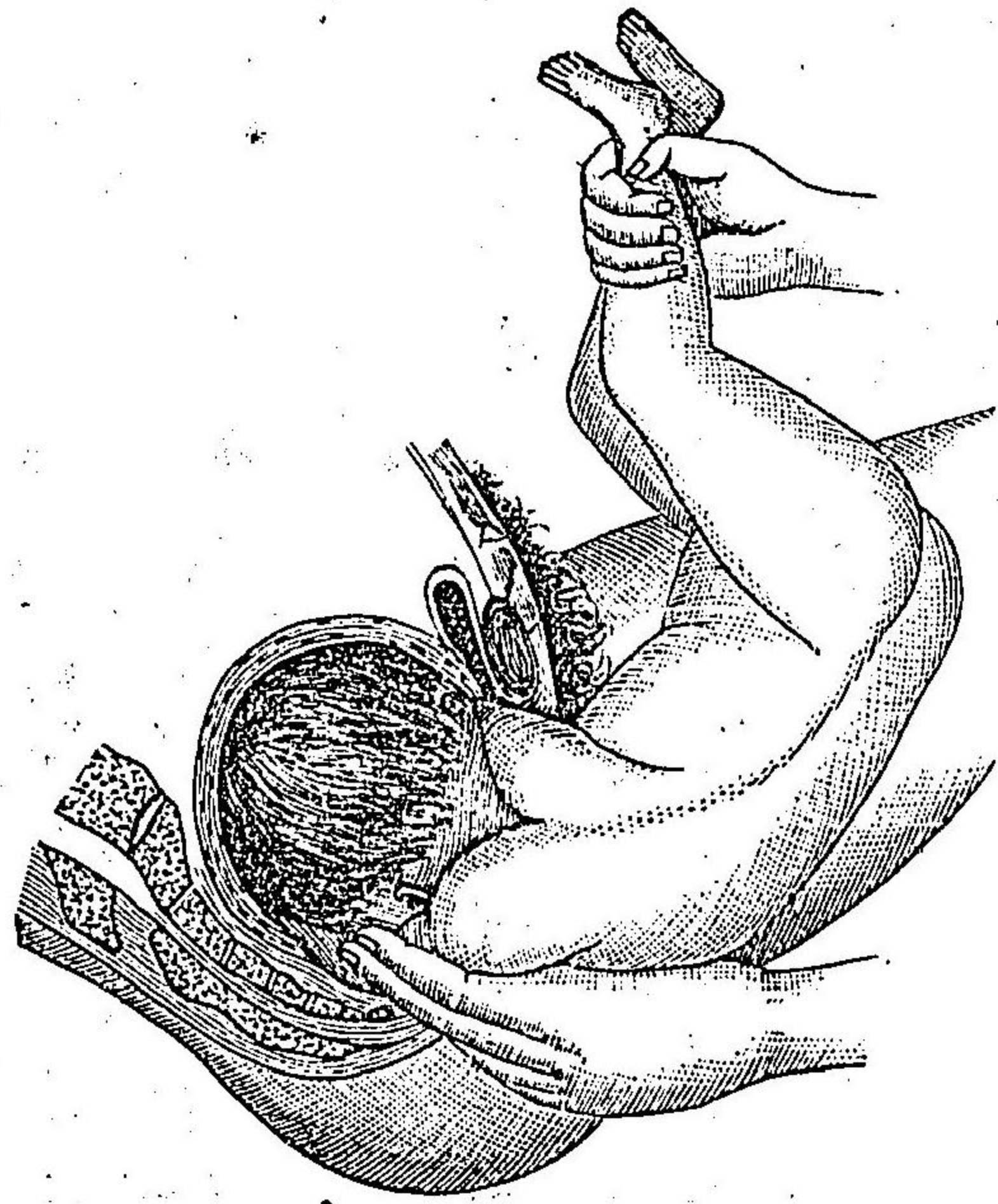
第九圖 骨盤端位挽出術中臀部ヲ把持スルヲ示ス



實際ハ布片ヲ兒體ニ纏フテ其上ヨリ把持スルヲ可トス圖中之レヲ省ク

シ、且ツ兒體ヲ廻旋シテ、其背ヲ前方ニ對向セシメンコトヲ要ス。兒背若シ後方ニ向フトキハ、上肢ハ耻骨ニ抗止セラレ、之レヲ牽出スルコト難ク、頭部ノ挽出モ亦容易ナラザルモノナリ。此ノ如クニシテ胸部ヲ挽出シ、肩胛ヲ前後ニ向ハシムルトキハ、則チ上肢ヲ牽下セザル可カラズ、而シテ、之レニ三個ノ緊要ナル規則アリ。

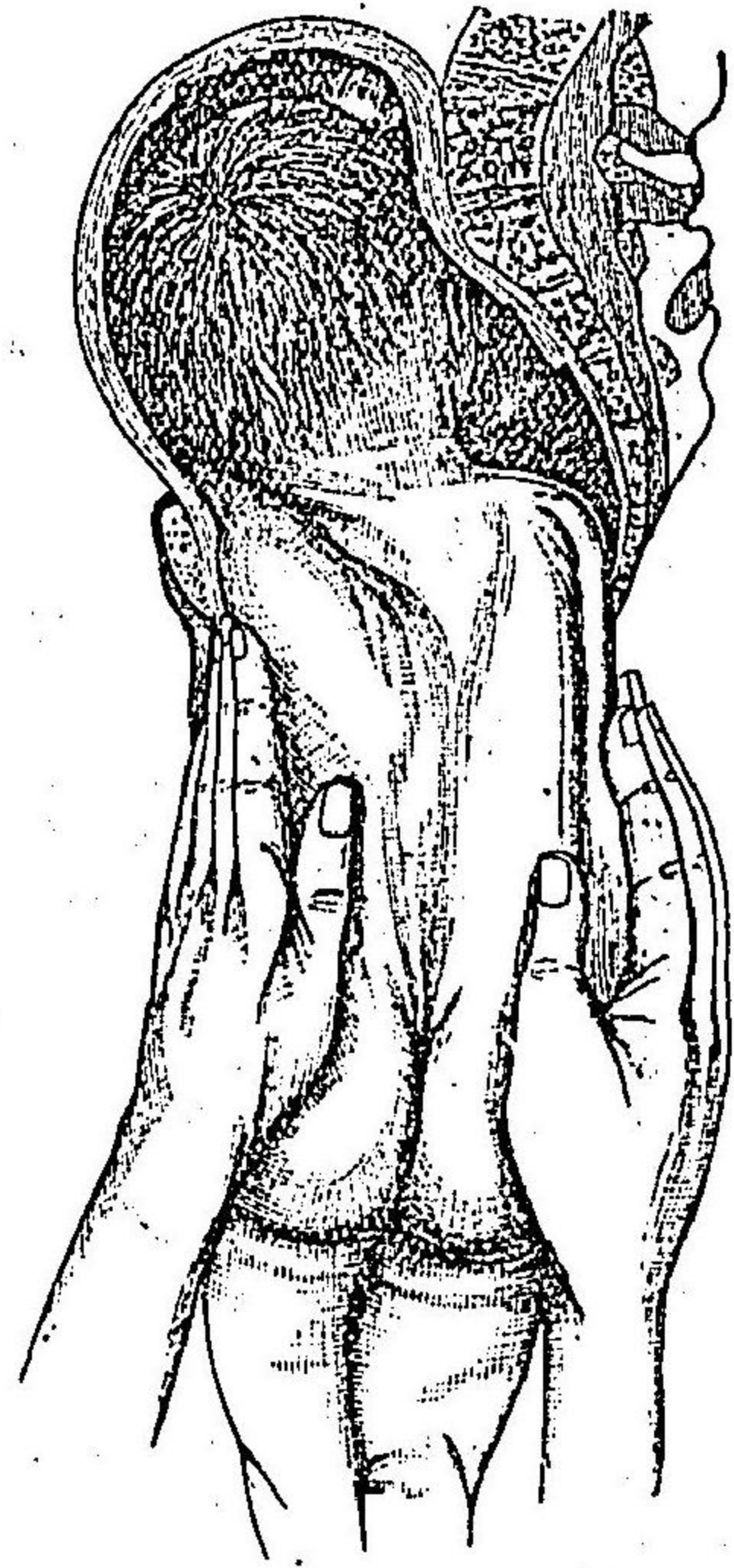
第十九圖 後方ノ上肢ヲ牽下スルヲ示ス



前圖ニ同シク足部ニハ布片ヲ纏フテ之レヲ把持ス可シ圖中之レヲ省ク

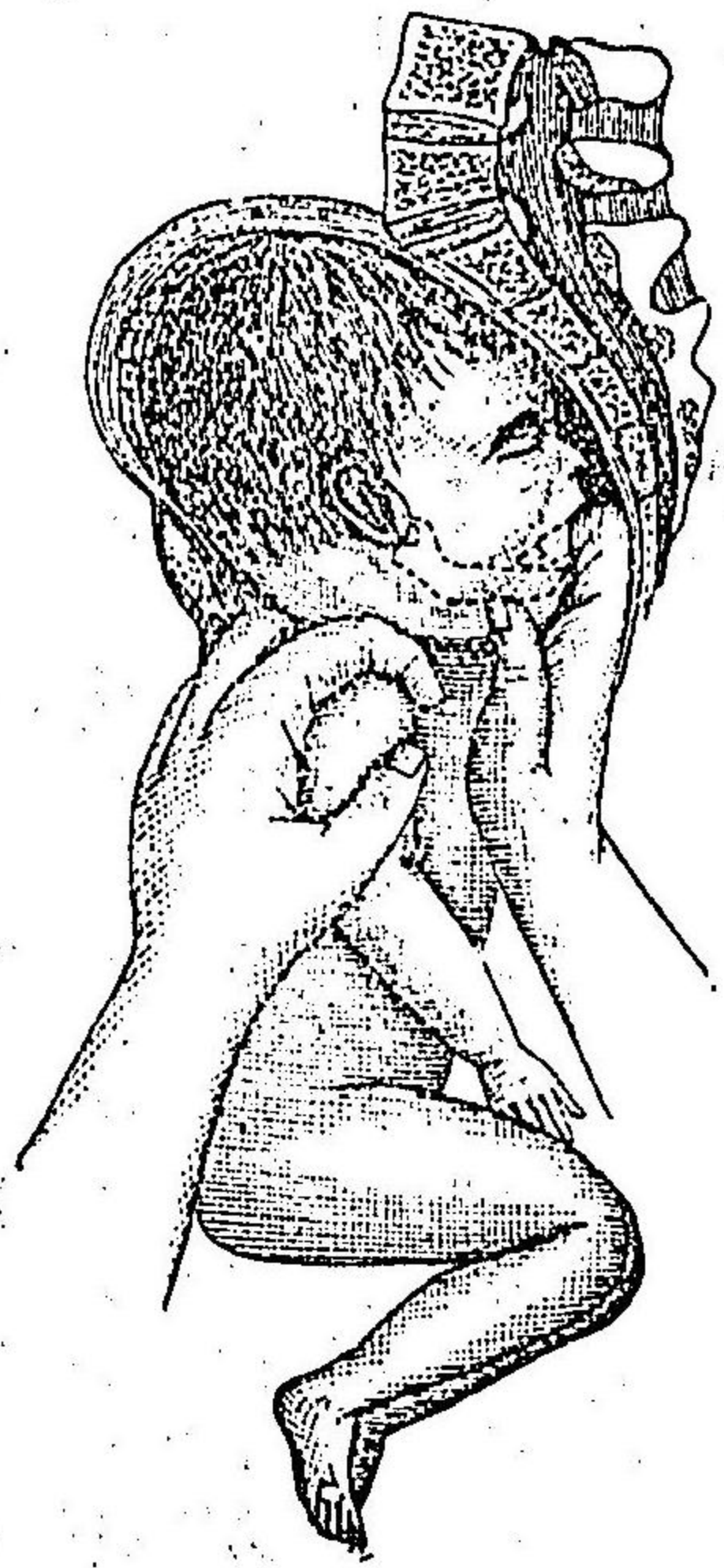
一 各上肢ハ、常ニ同名手ヲ用ユ。即チ兒ノ右手ハ、産婆ノ右手ヲ用キ、兒ノ左手ハ、産婆ノ左手ヲ用キテ牽下スルコト。
二 薦骨側ニ位セル上肢ヲ最初ニ牽下スルコト。

第九十圖 前方ノ上肢ヲ牽下センガ爲メニ其手ヲ後方ニ廻送セントスルヲ示ス



三前方ニ位セル上肢ハ先ツ後方ニ廻送シ而シテ後チ之レヲ牽下スルコト是レナリ。
例之第一臀位ニ施術スルトキハ先ツ左手ヲ以テ兒ノ臀部ヲ握リ之ヲ舉上シ且ツ強ク右側ニ(母體ノ)送り而シテ術者ハ右手ノ四指ヲ伸展シ産道ノ後側ニ沿ヒ其手ヲ兒ノ腕關節又ハ前膊ノ中央ニ送ル可シ此ノ如クニシテ兒ノ上肢ハ其顔面ヲ摩スルガ如クニシテ右下方(母體ノ)ニ壓下シ同

第九十三圖 兒頭ヲ挽出スルヲ示ス



時ニ兒ノ臀部ヲ強ク母體ノ左側ニ來シ上肢ヲシテ肘關節ヲ屈シ脛ノ前側ニ出デシム次ニ前方ノ上肢ヲ牽下センニハ右手ヲ以テ腕部ヲ握リ左手ヲ前在上肢ト兒頭トノ間ニ就キ深ク之レヲ送入シ兩手ヲ併セテ兒體ヲ廻旋シ其背ヲ全ク右方ニ對向セシメ而シテ後チ術者ノ左手ヲ以テ前記ノ方法ニヨリ上肢ヲ牽下セシム此ノ如クニシテ上肢ヲ牽下シ終ラバ術者ハ直チニ左手ノ示指及ビ中指ヲ兒ノ口内ニ送り其下顎線上ニ置キ

或ハ該兩指ヲ鼻ノ兩側ニ貼シ、而シテ其ノ餘ノ諸指ヲ以テ胸部ヲ把握シ、同時ニ他手ノ示指及び中指ヲ以テ背側ヨリ頸部ヲ挟ミテ兒ノ肩胛ニ掛ケ、以テ兒ノ後頭ヲ正シク恥骨弓下ニ來シ、次デ兒頭ヲ前上方ニ牽引シ、顔面ヲ會陰外ニ脱出セシム。○此際、注意シテ會陰ヲ破裂セザラシムルコトヲ務ム可シ、其他、妄リニ胎兒ニ強力ヲ加フ可カラズ、否ラザレバ、上肢、鎖骨等ノ骨折ヲ致ス可アリ。

〔第三六五項〕異常ナル手及び頭ノ挽出法 後方ニ位セル兒ノ一手ハ、時トシテ初メニ牽下シ難キコトアリ、殊ニ其手、兒ノ項下ニ存スル時ヲ然リトス、此ノ如キ場合ニ於テハ、先ヅ、兒體ト共ニ前方ノ手ヲ後方ニ廻旋シテ之レヲ牽下シ、而シテ更ニ復タ、兒體ト共ニ前方ノ手ヲ後方ニ廻ラシメ、以テ之レヲ牽出ス可シ。又、兒ノ後頭前方ニ向ハズシテ、後方ニ廻旋シ、之レヲ正シクスルヲ能ハザルトキハ、先ヅ、兒體ヲ強ク舉上シ、以テ後頭ヲ會陰部ヨリ挽出センコトヲ要ス。

〔第三六六項〕挽出甚ダ困難ナル場合 挽出困難ニシテ、上記ノ

法ヲ施コスモ、上肢又ハ頭ヲ挽出スルコト能ハズ、以テ五分間以上ヲ經過セバ、小兒ハ此間、既ニ死ニ陥ルモノナルガ故ニ、母體ヲ損傷セザランガ爲メニ、挽出法ヲ停止シ、醫師ノ到ルヲ待ツ可シ。

〔第三六七項〕挽出後 ハ産婦ヲ通常ノ如ク臥セシメ、且ツ、正規分娩後産期ノ處置ニ從テ處置ス可シ。

〔第三六八項〕足位分娩ノ處置 足位分娩ニ在リテハ、其處置、全ク臀位ト異ナルコトナシ、殊ニ、足ヲ執リテ牽引ヲ試ムルコトナク、臀部産出スルニ至ラバ、臀位ト同一ニ處置センコトヲ要ス。

〔第三六九項〕骨盤端位ニ於テ母兒兩體ニ危険ナルモノノ處置 小兒ノ危険ナル徴候ハ陣痛休歇時ニ於テ、心音緩徐(凡ソ八十搏)ニシテ不規則トナリ、若クハ疾數(凡ソ百八十搏)トナリ、臍帶ノ搏動モ亦緩慢若クハ幽微トナルヲ見ル可シ。但シ、胎尿ノ漏泄ハ、臀位ニ於テハ危険ノ徴候トナスコト能ハズ。此ノ如ク、胎兒危險ノ徴ヲ現ハスカ、又ハ母體ノ危険アリテ速カニ挽出セシム可キトキハ、臀部ノ産出ヲ待タズ、直チニ挽

出セザル可カラズ。而シテ臀位ニ有リテハ、一手ノ示指ヲ鉤狀トナシ、前方ニ位セル股ノ屈曲部ニ掛ケ、先、下方ニ向テ牽出シ、次デ上方ニ向ハシメ、以テ臀部ヲ把握シ得可カラシム。足位ナルトキハ、兩手ヲ以テ、先進セル一足ヲ把持シ、挽出術ヲ施コス可シ。兒體ヲ挽出スルノ法ハ、既ニ第三百六十四項ニ述ブル所ノ如シ。

第八十六章 雙胎ノ分娩

〔第三七〇項〕**双胎** 雙胎ノ胎兒ハ、成熟スルモ、單胎胎兒ヨリ小ニシテ、分娩モ亦、一、二週早ク發スルヲ常トス。但シ、雙胎ノ分娩ハ、他ニ異常ナキトキハ、敢テ不良ノ經過ヲ取ルモノニアラズ。

〔第三七一項〕**双胎分娩ノ狀況** 分娩ノ際ニハ、初メニ第一兒ノ胎胞ヲ現ハシ、通常ノ如ク産出シ、次ニ第二兒ノ胎胞出デ、同ジク分娩ヲ終ヘ、後チ、胎盤ヲ出ス可シ。稀ニハ、第一兒ニ次ギテ、其胎盤産出スルコトアリ。○兩兒分娩ノ間時ハ、時トシテ甚ダ短カキコトアリト雖ドモ、十五分乃至育不良ニシテ、小ナルニヨルモノトス。

〔第三七二項〕**双胎分娩ノ豫後** 双胎ニアリテハ、母體ハ過度ナル腹部ノ膨大ニヨリテ、呼吸又ハ消化ヲ妨ゲラレ、種々ノ疾病ヲ生ズ可ク、分娩時ニ在リテハ、陣痛微弱ヲ起シ、又ハ、骨盤端位、横位等、不良ノ胎位ヲ致ス。多シ小兒ハ、發育不良ナルガ爲メニ、死ニ至ルコト甚ダ多シ。

〔第三七三項〕**双胎分娩ノ處置** 此分娩ノ處置ニ就キテハ、固ヨリ醫師ニ託センコトヲ要ス。各胎兒分娩ノ處置ニ就キテハ、概シテ通常分娩ト異ナルコトナシ。而シテ第一兒分娩セバ、其臍帶ノ胎盤端ハ、殊ニ緊シク結紮ス可シ。是レ、兩兒、一胎盤ヲ有スルトキハ、臍帶ノ胎盤端ヨリ出血シテ、第二兒ノ血液ヲ失ハシムルコトアルヲ以テナリ。而シテ、胎盤、早期剝離ノ爲メニ、第二兒ヲ危険ナラシムルコトアルガ故ニ、注意シテ心音ヲ聽診ス可シ。産

出セル小兒ハ、發育不良ナルガ故ニ、殊ニ注意シテ温カナラシム可シ。然ラザレバ、容易ク死亡スルモノナリ。
双胎分娩ニ在リテハ、第一兒ト第二兒トハ、適宜ノ目標ヲ付シテ區別ス可シ。是レ、兄弟又ハ姉妹ノ順序ヲ定ムルニ必要ナルモノナリ。即チ、其目標ハ、小綱帶ヲ手若クハ足ノ關節ニ纏結シ、若クハ臍帶結紮ヲ以テ、之レヲ作ルヲ便ナリトス。

第八十七章 三胎以上ノ分娩

第三七四項 三胎四胎等ノ分娩
ト雖ドモ、其狀況概シテ、双胎ト異ナルヲナク、只漸次ニ早期産出ノ度ヲ高ムルヲ見ル可シ。○處置ハ、概シテ双胎ノ分娩ニ準ズ可キ者トス。

第八十八章 分娩中、胎兒生活及ヒ死亡ノ診斷

第三七五項 分娩中、胎兒死亡
スト雖ドモ、毫モ分娩ノ作用ニ際害ナシ。而シテ、實際上ニハ、胎兒ノ生死ヲ知ルコト、甚ダ緊要ナリト雖ドモ、時トシテハ、之レヲ知了スルコト最モ難ク、或ハ全ク、之レヲ判定スルト能ハザルモノアリ。

第三七六項 分娩中、胎兒生活セルトキ
一、心音ヲ聴取スルヲ得、二、胎動ヲ觸知ス可ク、三、分娩遲延スルトキハ、産瘤増大シ、四、若シ臍帶脫アルトキハ、直チニ其搏動ヲ觸レ得可シ。但シ、此等ノ徵候ハ、兒背ノ方向胎動ノ停休其他種々ノ事情ニヨリ、之レヲ認知シ難キコト屢々之レアリ。

第三七七項 分娩中、胎兒死亡セルモノ
既ニ妊娠中ニ於テ死亡セルトキハ、第二〇三項中ニ記セル死亡ノ徵ヲ現ハス可シ。分娩時ニ於ケル徵候ハ、二、漏泄セル胎水、緑色ヲナシテ一様ニ混濁シ、胎兒ノ生活セル際ニ混ズル胎尿ノ緑色性小片ヲナセルモノト異レリ。二、頭部先進スルトキハ、頭蓋骨ノ縫合弛緩シ、甚ダシク動搖シ、髻位ナレバ、肛門、唇開セルヲ見ル。三、先進部ノ表皮、殊ニ手足ノ表皮ハ、片狀ヲナシテ剝離スルヲアリ。但

シ、梅毒ニ於テハ、生兒ト雖ドモ、此ノ如キ表皮ノ剝離ヲ現ハスコトアリトス。

〔第三七八項〕胎水漏泄後ノ死胎兒 死亡セル胎兒ニシテ、殊ニ胎水漏泄後、長時ヲ經ルモノニ在リテハ、微菌ノ侵入ニヨリ、子宮内ニ於テ腐敗ヲ起シ、母體ニ傳染症ヲ發スルノ危険アルヲ以テ、速カニ醫治ヲ求ム可シ。

第八十九章 縦位分娩胎兒ノ死亡數

〔第三七九項〕此章ニ於テハ、縦位ノ中、後頭位、前頭位、顔面位、骨盤端位ニ就キ之レヲ説述ス可シ、即チ其死亡數、大凡ソ次ノ如シ、(獨乙ウイ)ンケル氏ニ據ル)

後頭位ノ胎兒 ハ豫後最モ佳良ニシテ、其死亡數、即チ死産數ハ百人中、二人五分即チ二、五%ナリトス。
顔面位ノ胎兒 ノ死産數ハ凡ソ十三%トナス。

前頭位ノ胎兒 ノ死産數ハ凡ソ十五%ヲ有ス。
骨盤端位ノ胎兒 ノ死産數ハ凡ソ十六%ヲ占ムト云フ。

第九十章 初生兒ノ徵候

〔第三八〇項〕初生兒 ハ數日間、次ノ徵ヲ有ス、(一)臍帶ノ斷端又ハ其離脱セル痕ヲ有ス、(二)胎尿ヲ泄ス、(三)時トシテハ、尙ホ、皮膚垢又ハ産瘤ノ痕ヲ現ハスコト、是レナリ、故ニ一小兒アリテ、右ノ徵候アルヲ見バ、初生兒ナルヲ判知ス可シ。

第四編 正規産褥及び其取扱法

第九十一章 誘導篇

〔第三八一項〕此篇ニ於テハ、産褥トハ如何ナルモノナルカ、婦人ノ生殖器及ビ全身體中ニハ如何ナル變狀ヲ現ハスカ、婦人及ビ小兒ノ看護法ハ如何ニス可キカ、小兒ノ人工營養法ハ如何ナル方法ヲ施コス可キモノナルカラ説キ、終リニ實際ノ必要アルガ爲メニ、婦人ノ營養法ヲ附説ス可シ。

第九十二章 産褥

〔第三八二項〕産褥トハ、全ク分娩ヲ終レル時ヨリ、生殖器及ビ全身ノ變狀回復シ、概テ妊娠前ト同一ナルニ至ルノ間ニシテ、凡ソ七週日間トナス。而シテ授乳セザルモノニ在リテハ、産褥ノ終期ニ至リ、再び月經ヲ現ハスモノナリ。但シ、授乳セル婦人ニ在リテハ、凡ソ第九ヶ月ニ至ルマデ月

經閉止ス可シ。

第九十三章 産褥婦ノ生殖器ニ現ハル、狀況

此章ニ説ク可キモノハ、子宮ノ状態、惡露ノ性質、産道ノ變化、後陣痛、乳汁ノ分泌等トナス。

〔第三八三項〕子宮ノ状態 子宮ハ分娩ヲ終レバ、其底、恥骨縫際ノ

上方、四五指横徑ニ位スト、雖ドモ、爾後漸次ニ縮小シ、凡ソ第十二日早キハ八九日ニ至レバ、小骨盤内ニ入り、之レヲ觸ルコト能ハザルニ至ルモノナリ。此ノ如ク子宮ノ縮小スルハ、妊娠中ニ變大増殖セル筋質ノ著シク收縮シ、且ツ其數ヲ減ズルニ基クモノトス。又子宮ノ收縮ニヨリ胎盤部血管ノ斷口、大ニ縮小シ、且ツ凝血ヲ生ズルニヨリテ、全ク閉塞シ、止血スルニ至ル。

子宮頸 ハ分娩直後、自由ニ一手ヲ通過セシム可キモ、四五日ヲ經レバ、

僅カニ一指ヲ通ズ可ク、第八日ノ後チ、子宮内口ハ全ク手指ヲ通過セシムルコトナシ。

子宮口 ハ分娩ノ際、多クノ裂傷ヲ生ズルガ故ニ、産婦中ニ治療スト雖ドモ、爾後ハ大ナル横裂痕ヲ現ハシ、以テ前後ノ二唇トナス、各唇モ亦、小裂痕ノ存スルニヨリテ、突隆不平ヲ呈スルモノナリ。

第三八四項「腔及ビ外陰部」ノ状態 腔ハ漸次ニ収縮スト雖ドモ、分娩前ニ比スレバ頗ル潤ク、處女膜根ハ、断裂缺损シテミルチ状、肉阜トナリ、陰唇、繫帶ハ破裂ヲ止ムルヲ常トス。

第三八五項「惡露」 ハ主モニ子宮ノ内面ニ於ケル脱落膜及ビ胎盤ノ剝離セル創面ヨリ生ズル分泌物ニシテ、脱落膜ノ細片ヲ含ム、最初二日間ハ純血様ニシテ流動性ナリ、凝血ヲ雜ユルハ異常ニ屬ス、第三日ヨリ血水状ヲナシ、第六日乃至第八日ニ至レバ、子宮内ノ膿様分泌物ニヨリテ、帶黄白色ヲナシ、第三週ニ至リ、其量甚ダシク減少シ、第五週ノ頃ニ及ビ、全ク盡クルモノナリ、惡露ハ通常、子宮内ニ於テハ毒性ナキモ、此ヨリ腔内ニ至

レバ、多クハ數多ノ微菌ヲ混ジ、創面ニ附着スレバ、化膿ヲ生ゼシムルノ性アリ。

第三八六項「後陣痛」 トハ産後二三日間ニ發スル弱キ陣痛ニシテ、子宮ノ収縮ニヨリテ發ス、此後陣痛ハ分娩ノ時間短ク、其陣痛多カラザルトキハ、之レヲ發スルヲ強キモノナルガ故ニ、經産婦ニ於テハ甚ダシキヲ常トス、又、凝血胎盤片等ノ子宮内ニ存在スルトキハ、同ジク強劇ナリ、故ニ初産婦ニシテ、後陣痛強キモノハ、凝血若クハ胎盤ノ殘片ナキヤ否ヤヲ檢知ス可シ。

第三八七項「乳汁」ノ分泌 乳房ハ妊娠中ヨリ、既ニ少シク分泌初乳ヲ現ハスト雖ドモ、分娩後、二日又ハ三日(稀ニハ第一日)ヨリ乳汁ノ分泌ヲ始メ、乳房腫脹シ、知覺過敏ヲ發シ、甚ダシキハ、腋窩ノ水脈腺ニ腫脹ヲ發シ、疼痛ヲ現ハシ、同側ノ上肢ヲ運動セシメ能ハザルコトアリ、此際三十八度以内ノ微熱ヲ發シ、二日間持續ス可シ、所謂乳熱是レナリ、乳汁ノ始メテ分泌セララル、モノヲ初乳ト名ク。

「第三八八項」初乳

ハ既ニ妊娠中ニ其分泌ヲ始メ乳汁分泌ノ初日ニハ多量ニ排出セラレ、モノニシテ稍々粘液狀ヲ帶ビ半透明ヲナシ、點狀若クハ線狀物ヲ含ム。初乳小體是レナリ。又、多量ノ蛋白質ヲ有シ、煮沸スレバ凝固ス可シ。小兒ニ飲マシムルトキハ、通利ヲ催サシムルノ性アリ。此初乳ハ、分泌後、二乃至四日間ニ漸次ニ通常ノ乳質ニ移行シ、遂ニ全ク初乳小體ヲ失フニ至ルモノトス。

「第三八九項」常乳ノ成分

水

今常乳ノ成分ヲ示セバ、次ノ如シ。
凡ソ八九〇

脂肪	凡ソ三〇
乾酪	凡ソ四〇
乳糖	凡ソ四〇
鹽類	凡ソ〇・一五
固形分	凡ソ一一〇

「第三九〇項」乳汁分泌ノ持續并ニ乳量乳成分ノ變化

乳汁ノ分泌ハ九乃至十ヶ月間持續スレバ、著シク減少シ、後チ漸次ニ止ム

ヲ常トス。然レドモ又、時トシテハ、三四年以上、乳汁ヲ出スモノアリ。〇乳量ハ食物中、飲料及ビ蛋白質ノ增多ニヨリテ増加ス可シ。殊ニ蛋白質類多キトキハ、脂肪量モ亦加ハリ、乳性良好ナリトス。〇又乳汁ノ分泌久シキヲ經ルトキハ、其成分中、蛋白質類増加シ、脂肪及ビ糖分ハ其量ヲ減ズルモノトス。

「第三九一項」乳汁ノ變狀ヲ呈スル場合

乳汁ハ種々ノ事情ニ

ヨリ變狀ヲ呈スルモノニシテ、精神ノ感動アルトキハ其量ヲ減ジ、時トシテハ性質不良トナリ、小兒ニ害ヲ及ボスコトアリ。又、結核、梅毒等ノ毒質ハ、乳汁中ニ移リ行クアルガ故ニ、此等患者ノ乳汁ハ之レヲ小兒ニ與フ可カラズ。多クノ醫藥モ亦乳汁中ニ分泌セラレ、善ク、小兒ニ其効力ヲ現ハス可シ。其母下痢ヲ用ユレバ、小兒モ亦下痢シ、母體ニ梅毒ノ藥ヲ與フレバ、小兒ニモ亦藥効ヲ呈スルガ如キ是レナリ。但シ通常量ノ藥品ヲ母體ニ投ズルモ、通例ハ敢テ害ナキモノトス。一ヶ月經中、時トシテ乳汁變質シ、乳兒ハ不安、啼泣等ヲ致スコトアリ。此ノ如キアラバ、暫ク授乳セシメザルヲ良トス。

第九十四章 産婦ノ全身ニ現ハル、變狀

〔第三九二項〕**産婦ノ自覺** 既ニ分娩ヲ終ルトキハ、筋運動ノ止ムト、身體ノ冷却サル、トニヨリ、産婦ハ概テ惡寒ヲ覺ユルモノナリ。然レドモ、次デ溫暖トナリ、發汗ヲ催フシ、爽快ヲ生ズルニ至ルモノトス。

〔第三九三項〕**體温上昇** 前項記スルガ如ク、産婦温暖ヲ感ズルノ際、即チ十二時間以内ニ於テ、三十八度以下ノ微熱ヲ發シ、更ニ十二時ヲ經過スルトキハ、消退ス可シ。此熱候ハ、分娩時ニ於ケル身體ノ働作ト、精神ノ興奮ニヨリテ生ズルモノトス。次ニ、第三日頃ニ至リテ、乳汁ノ分泌増進スルトキハ、再ビ三十八度以内ノ熱候ヲ現ハシ、前章中ニ述ブル如ク、一二日ニシテ下降スルモノナリ。若シ、熱候、此程度以上ニ昇ルモノハ、是レ傳染症ニ屬セシム可キモノトス。産科ノ未開ナル地ニ在リテハ、産婦ノ防腐法不十分ナルガ故ニ、産婦ハ多少ノ傳染症ヲ患ヒ、四十度ニ近キ高熱ヲ現ハスモノ甚ダ多シ。

〔第三九四項〕**食事** ハ最初三日間、不進ナルヲ見ルト雖ドモ、爾後甚ダシク増進スルモノトス。

〔第三九五項〕**便通** ハ腹壓ノ減少、運動ノ休止ニヨリテ、最初一週間ハ秘結シ易キモノナリ。

〔第三九六項〕**尿** ハ産褥ノ初メ、著シク増進ス可シ。又、腹壓ノ減スルト尿道ノ腫脹若クハ屈曲スルコトアルニヨリ、一二日間、自ら排泄シ能ハザルヲアリ。

〔第三九七項〕**皮膚** ニ於テハ、汗ノ分泌増進シ、最初八日間ハ甚ダシク發汗シ易キモノナリ。或ハ、汗ノ分泌、尿及ビ惡露ノ分泌ヲ産褥中三種ノ分泌増進ト稱ス。○毛髮ハ、産後、脱落スルヲ常トス。

第九十五章 産婦ノ看護法(即チ攝生法)

〔第三九八項〕**産婦看護法(攝生法)ノ要領** 産褥ノ初メ八日間ハ、毎日朝夕二回、産婦ヲ訪ヒ、其看護ニ注意ス可シ。小兒ノ處置ヲナスノ際

ハ、必ズ之レヲ先キニスルヲ要ス。而シテ褥婦ニ就キテハ、先ヅ精神ノ状態、苦惱ノ有無ヲ問ヒ、次ニ脈搏、體温、乳房、腹部及ビ子宮ノ状態ヲ檢シ、正規ノ分娩ヲ營メル者ニ在リテハ、敢テ腔内ヲ洗滌スルヲ要セズ、自ラ利尿シ能ハザル者ハ、カテーテルヲ用ユ。外陰部ハ、最初朝夕一回宛、後ニハ一日一回、防腐藥ヲ用キテ清洗シ、法ニ從テ丁字綑帶ヲ施コシ、惡露ノ多量ナルモノニ在リテハ、屢々綑帶ヲ交換セシム可シ。又、精神、身體ヲ安靜ニシ、來訪者ヲ避ケシメ、第四日ニ至ラバ、灌腸ヲ施コシ、便器ヲ用キテ通利セシム。後、陣痛強キモノハ、冷浴法ヲ施コシ、其ノ甚ダシキモノハ、醫治ヲ求メシメ、食事ハ、最初流動性ノ滋養物ヲ與ヘ、後チ漸次ニ通常ノ食ニ就シメン事ヲ要ス。就薛ハ、最初九日間、必ズ之レヲ守ラシメ、後チ徐々ニ起床ニ慣レシム可シ。小兒ニ授乳スルハ、分娩後、七八時間ヨリ之レヲ初メ、其時間ヲ一定シ、授乳ノ前後ハ、必ズ乳頭ヲ清潔ナラシメザル可カラス。初メ、乳汁ノ分泌十分ナラザルモノハ、牛乳ヲ與フ可シ。此余、異常ヲ現ハセルモノハ、速カニ醫治ヲ求ム可キモノトス。以上ハ、其大要ニ過ギザルガ故ニ、次ニ各項ニ就キ、其詳

細ヲ論述セント欲ス。

「第三九項」毎日ノ回訪

産褥ノ初メ八日間ハ、毎日朝夕二回、爾

後、第二週ノ終リニ至ルマデハ、毎日一回宛、褥婦ヲ訪ヒ、褥婦及ビ小兒ノ看護ニ注意ス可シ。而シテ褥婦ニ就キ、先ヅ之レニ必要ノ事項ヲ訊問シ、後チ親シク各事項ヲ檢査センコトヲ要ス。即チ次ノ如シ。

「第四〇〇項」褥婦ニ就キ注意ス可キ事項

ハ二褥婦ノ自覺

徵候、發熱ノ有無、二乳房、腹部及ビ子宮ノ状態、三惡露ノ性状ニ在リトス。次ニ各事項ヲ細説ス可シ。

「一」先ヅ褥婦ニ就キ、睡眠佳良ナリヤ、食欲善良ナリヤ、渴ハ存セザルヤヲ問ヒ、次ニ脈ヲ診シテ、其疾キカ徐カナルカヲ檢シ、又、胸部ノ皮膚ニ觸レ、其熱ナキヤ否ヤヲ知り、後チ、檢温器ニヨリ、其體温ノ度ヲ測定ス可シ。

「二」乳房ニ就キ、先ヅ、乳頭ニ損傷ノ存スルコトナキカヲ檢シ、次ニ腹部ヲ按シ、疼痛及ビ膨滿(産褥熱若クハ便秘ノ徵)ノ存スルコトナキカ、及ビ子宮底ノ高サヲ知ル可シ。膀胱充滿スレバ、子宮ハ屢々高ク、側方ニ壓推セラル、

「一」アリ。其他子宮及び子宮廣鞞帶(子宮ノ兩側部)ヲ輕ク押壓シ、其疼痛ヲ訴フルコトナキヤヲ察ス可シ。

「三」壓抵布及び敷布ニ就キテハ、出血ノ有無及び多少、惡露ハ純血ナルカ、血水様ナルカ、又ハ膿汁様ナルカヲ視、且ツ其臭氣ノ有無ヲ檢センコトヲ要ス。

「第四〇一項」壓抵布及び敷布ノ交換。壓抵布ハ、最初屢々交換ス可キモ、爾後ハ、一日凡ソ二回ナル可シ。又、壓抵布及び敷布ハ、發汗若クハ出血ニヨリ濕潤セラル、トキハ、毎回、速カニ交換スルヲ要ス。

「第四〇二項」精神身體ノ安靜並ニ褥室。褥婦ハ精神身體ヲ安靜ナラシムルヲ以テ、極メテ緊要ナリトス。故ニ、最初ハ、精神ノ感動ヲ避ケシメ、悲哀ハ勿論、過劇ノ喜悅モ亦之レヲ遠ザケ、他人ノ來訪ヲ停メ、近親者ト雖ドモ、可及的、褥室ニ入ラシムルコトナク、且ツ各種ノ運動ヲ禁ジ、談話モ亦、可及的之レヲ營マシム可カラズ、而シテ產褥室ハ、喧鬧ニ遠カリ、中等大ニシテ乾燥シ、善ク光線ヲ通入セシム可ク、加之、必要アラバ、之レヲ曇暗トナシ、得可カラシムルヲ佳トス。此ノ如クニシテ、褥婦ヲ安眠セシムルト

キハ、大ニ其精カヲ回復セシム。但シ、熟眠ノ間ハ、顔色、四肢ノ溫度等ニ注意シ、出血氣絶等ノ發スルコトナキヲ察ス可シ。

「第四〇三項」褥婦ノ就褥。褥婦ハ、最初九日間ハ、必ず褥中ニ臥サシメ、交番ニ、左右側臥及び仰臥ニ居ラシムルヲ要ス。若シ過早ニ起床スルトキハ、創傷ノ治癒ヲ妨ゲ、出血ヲ發シ、又ハ子宮及び膀胱ノ脱出等ヲ生ズルノ害アリ。第十日ニ至ラバ、初メ一二時間、褥中ヲ出デシメ、日々其時間ヲ長クシ、裁縫ノ如キ平易ノ業務ヲ試マシメ、強健ノ婦人ニ在リテハ、三週間、冬時ハ五六週間ヲ經レバ、慎重ニシテ外出ヲ許ス可シ。虛弱ノ婦人ニ在リテハ、適宜ニ就褥靜居ノ時日ヲ長カラシムルヲ要ス。一、褥婦全ク臥床ヲ離ルハ、ノ際ハ、丁寧ニ内檢査ヲ施コシ、子宮或ハ扁鞞帶部ニ疼痛存在セザルヤ、及ビ子宮口ハ、既ニ指ヲ通ジ得ザルヤヲ檢知ス可シ。

「第四〇四項」被衾。ハ褥婦ノ求メニヨリ、之レヲ加フ可シ。産褥ノ初期ニハ、甚ダシク發汗ヲ催フスノ傾アルニヨリ、被衾ノ厚キニ過グルハ却テ不良ナリ。但シ注意シテ、感冒セシメザルヲ緊要ナリトス。

「第四〇五項」外陰部ノ清潔法

外陰部ハ初メ毎日二回爾後ハ一回宛一%石炭酸水若クハ二%硼酸水ノ微温液ヲ用キテ洗滌シ創傷アラバ硼酸末又ハヨードフォルムヲ撒布シ而シテ外陰部ニハ三%石炭酸水ニ蘸セル瓦設ヲ置キ其上ニハ乾燥セル敷重ノ布片ヲ壓抵シ丁字綑帶ヲ施コシ以テ惡露ヲ吸收スルノ用ニ供ス可シ又布片及ビ綑帶ハ洗滌消毒シテ再ビ使用スルヲ良トス。

布片ノ單筒ナル消毒法

布片ヲ單筒ニ消毒センニハ普通ノ蒸飯器ヲ用キ恰モ冷飯ヲ蒸スガ如ク消毒ス可キモノヲ片巾ニ包ミ之レヲ器中ニ容レ蒸熱スルコト三十分間ナル可シ此ノ如クスレバ其消毒ノ効十分ナルモノトス。

「第四〇六項」産内ノ洗滌

ハ順正ノ經過ヲ取レルモノニ在リテハ敢テ必要ナラズ却テ不完全ノ洗滌ヲ施コストキハ損傷又ハ傳染症ヲ生ゼシムルノ害アリ故ニ醫師ノ命アルニアラザレバ之レヲ行フ可カラズ。

「第四〇七項」尿利

ハ産婦初期ノ間殊ニ之レニ注意シ若シ七八時間ヲ經テ自ラ排泄スルコトナケレバカテールヲ用ユ可シ其送入法ハ正規分娩處置第二九三項ニ詳カナリ又初メ七日間ハ便器ヲ用キテ排尿セシム可シ。

「第四〇八項」便通

ハ初メ三日間休止シ後毎日一回之レアルヲ佳トス第四日ニ至リ自ラ通利スルコトナケレバ微温ノ石礮水(石礮凡ソ二匁ヲ入ル)又ハ稀薄ノ葛湯五六匁ヲ用キ灌腸ス可シ又便通ノ際最初七日間ハ毎度便器ヲ用キ決シテ固ニ往カシム可カラズ否ラザレバ眩暈出血等ヲ發スルコトアリ○灌腸ヲ施コスモ便通ナキカ若クハ腹部甚ダシク膨滿スルトキハ速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

「第四〇九項」後陣痛

ハ強劇ナリト雖ドモ發熱ナキトキハ通例疾病ニヨルモノニアラズ若シ頻回強ク發起スルトキハ下腹ニ氷罨法ヲ施コシ第三日以後ハ濕布罨法ヲ以テ交換ス可シ此法ニヨリ後陣痛緩解セザルトキハ速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

〔第四一〇項〕食事 ハ其食欲ニ應ジ適度ニ與ハ、飢餓若クハ飽滿セシム可カラズ。而シテ初メ三日間ハ流動性ノ食物、即チ牛乳稀粥肉蒸汁、半熟卵等ヲ與ヘ、食欲亢進セル者ニハ少量ノ柔軟ナル良肉ヲ與フルモ亦可ナリ。第四日ヨリ漸次ニ固形ノ食物ヲ取ラシメ、二三週間ニシテ徐々ニ常食ニ復セシムルヲ要ス。〇産婦授乳セザルトキハ、最初十日間ハ少シク食量ヲ減ズルヲ良トス。又、虚弱ナル婦人ニ在リテハ、臥床ヲ離ル、ノ時期ニ至レバ、良好ノ酒類ヲ飲マシムルモ亦可ナリ。其他、産婦ノ食料ニ就キ、其詳細ヲ知ラント欲セバ、該篇末ニ附録トセル、第百章産婦ノ營養法ヲ參看ス可シ。

〔第四一一項〕最初ノ授乳

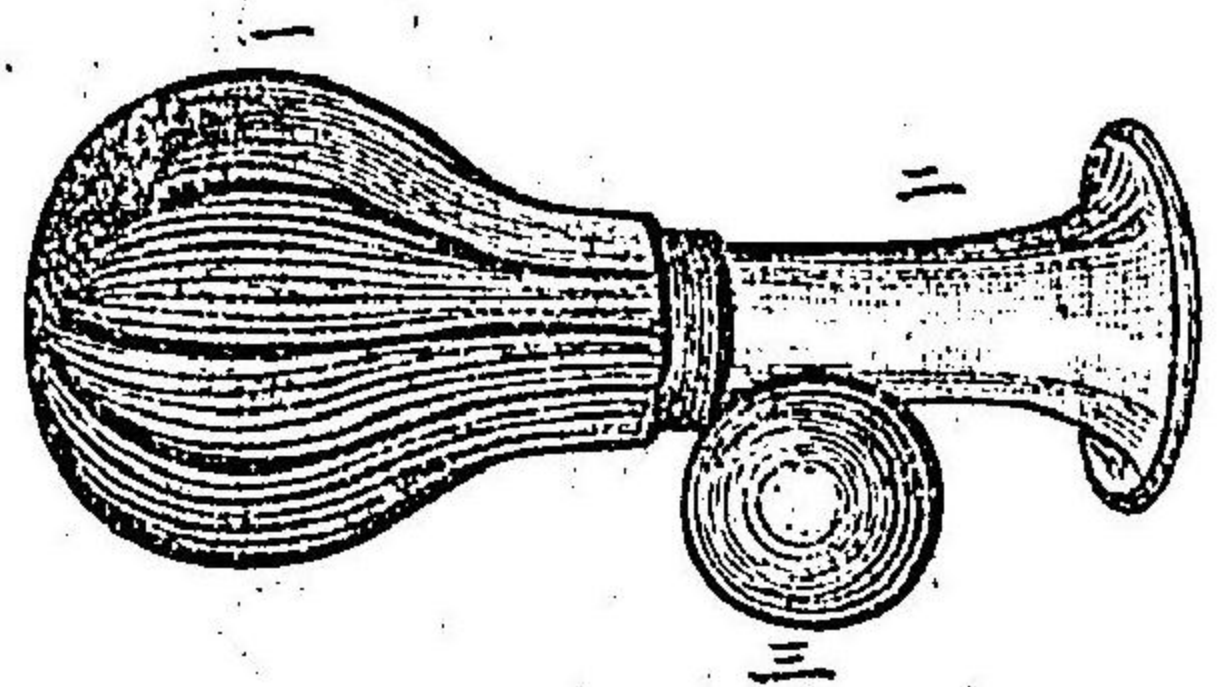
産婦及ビ小兒ノ一タビ安眠セルノ後、即チ分娩後七八時間ヲ經レバ、第一回ノ授乳ヲナス可シ。或ハ一二日間、乳房ニ就カシメザルガ如キハ、甚ダ不可ナリ。若シ此ノ如クスレバ、小兒ハ衰弱シテ哺乳ノ力ヲ減ジ、乳房ハ刺戟ヲ受ケザルガ故ニ、分泌増進スルコトナク、若シ或ハ之レニ反シ、乳房緊滿スルコトアルトキハ、爲メニ乳頭短小

トナリ、小兒ハ之レヲ含ミ難キニ至ルノ害アリ。又、一回ノ授乳ニハ、一側ノ乳房ニ就カシムルヲ良トス。

〔第四一二項〕授乳ノ困難ナル場合

時トシテハ、授乳困難ナルコトアリ。殊ニ乳頭ノ甚ダ短キモノ、乳房ノ扁平ニシテ、緊滿シタルモノ等、是レナリ。此ノ如キモノニ在リテハ、圖ノ如キ吸乳器ヲ用キテ、乳頭ヲ吸出センコトヲ務ム可シ。小兒、乳房ニ附ザルトキハ、指ヲ以テ靜カニ下顎ヲ押シ下ゲ、口ヲ開

第九十四圖
吸乳器ノ圖



一、防護球
二、喇叭形チナセ
ルモノニシテ
硝子ヨリ成リ
乳房ニ貼シ吸
引セシム
三、同ク硝子ヨリ
成リ、二三附
屬シ吸出セル
乳汁ヲ受容ス
ルモノ

キテ乳頭ヲ含マシメ、温カキ砂糖水二三滴ヲ乳頭ヨリ兒ノ舌上ニ流入セシメ、以テ哺乳ヲ促ガス可シ。或ハ初メ、小指ヲ兒ノ口内ニ挿入シ、砂糖水ヲ

舌上ニ滴入セシメ、之レヲ嚙下スルニ至リ、乳頭ヲ啣マシムルモ、亦可ナリ。
〔第四一三項〕授乳ノ時間　ハ一定シ、晝ハ凡ソ毎二時間トナスヲ

良トス。此ノ如クナルトキハ、小兒モ亦之レニ慣レ、消化善良ニシテ、發育宜シク、且ツ、甚ダ看護ニ便ナルノ益アリ。又夜間ハ、毎四時ニ授乳ス可シ。

〔第四一四項〕授乳時、乳房ノ處置　總テ授乳スルノ際ハ、先ヅ清潔ナル布巾ニ清水ヲ浸シ、乳頭及ビ乳暈ノ部ヲ拭ヒ、而シテ既ニ授乳シ終ラバ、再ビ同前ノ法ヲ行ヒ、後チ清潔ナル布巾ヲ以テ乳房ヲ被ヒ、温カニ保

タシメンコトヲ要ス。若シ乳房ヲ不潔ナラシムルトキハ、小兒ニ口内ノ疾患ヲ發セシメ、且ツ、乳頭ノ糜爛、乳管ノ閉塞、乳腺炎等ヲ生ゼシムルニ至ル。

〔第四一五項〕乳量僅少及ビ乳汁緊滿ノ處置　泌乳僅少ナルモ、直チニ授乳ヲ廢スルコトナク、牛乳等ノ滋養物ヲ進メ、多量ノ飲料ヲ與フ可シ。殊ニ麥酒ヲ飲マシムルヲ良トス。泌乳劑ハ、必ズシモ確効ナシト雖

ドモ、尙ホ之レヲ醫師ニ請フテ服セシムルヲ可トス。若シ又、乳量過多ニシテ緊滿シ、悉ク排泄シ、能ハズ、且ツ苦痛ヲ訴フルトキハ、少シク食量ヲ減ジ、

且ツ殊ニ飲料ヲ制限シ、乳房ヲ提舉シ、胸上ニ繃帶ヲ施コシ、醫師ヨリ緩和ナル下劑ヲ請ヒ、用キシム可シ。一産婦若シ授乳セザルニヨリテ、乳汁蓄積セル際ニモ亦、同様ニ處置ス可シ。妄リニ搾リ出ダスハ、却テ分泌ヲ増サシメ、苦痛ヲ加フルモノナリ。

〔第四一六項〕乳管閉塞及ビ乳頭損傷ノ豫防法　乳管ハ時トシテ、乾固セル乳汁若クハ表皮ニヨリテ閉塞シ、乳汁ハ乳腺中ニ蓄積シ、遂ニ時トシテハ乳腺ノ炎症ヲ來スコトアリ。故ニ、此ノ如キ場合ニ於テハ、注

意シテ乳頭ヲ檢シ、附着物ヲ除キ、且ツ之レヲ洗淨スルヲ要ス。又、乳頭赤色トナリテ、糜爛ヲ呈セントスルモノハ、授乳ノ直後、十倍ノ硼酸ワセリン(若クハ單グリセリン)ヲ塗布シ、授乳ノ際ハ、善ク之レヲ洗去ス可シ。其他表皮

剝脱、糜爛、裂創等ヲ發セルモノ、處置ハ、第七篇、異常産褥中ニ於テ之レヲ説明ス可シ。

〔第四一七項〕其兒ニ授乳ス可カラザル場合　母若シ重症疾患、精神病、癩痢、肺癆、梅毒、慢性ノ皮膚病等アルカ、若クハ其身體甚ダ虚弱ナ

ルトキハ、醫師ノ診察ヲ求メ、其兒ニ授乳ス可カラザル者トス、但シ慢性ノ梅毒ニ在リテハ、醫師ノ診断ニヨリ、梅毒療法ヲ施コシ、其兒ニ授乳シ得ルコトアリ。是レ、醫藥ハ乳汁中ニ混ジ、兒體ニ奏効スルニヨル。

〔第四一八項〕**乳腺炎ノ豫防法** 乳腺炎ハ、褥婦ニ屢發スル所ノ疾患ニシテ、微菌ノ乳頭部ヨリ、乳腺ニ進入スルニヨリテ發シ、大ニ婦人ヲ苦マシムルモノナリ。故ニ、時トシテ、之レガ豫防法ヲ必要トスルコトアリ。之レヲ次ニ記ス可シ。●新タニ分娩セル婦人ニ就キ、温湯、石鹼及ビ刷毛ヲ用キ、五分時間、乳房ヲ洗滌シ、次ニ四千倍昇汞水ヲ以テ消毒シ、更ニ亞爾僑保兒ヲ以テ昇汞ヲ洗去シ、消毒性布片ヲ以テ被覆ス可シ。爾後、産褥中ハ、常に二箇ノ鉢ヲ備ヒ、一箇ニハ昇汞水ヲ盛リ、一箇ニハ煮沸ヲ經タル清水ヲ容レ、之レヲ傍ラニ置キ、授乳終ラバ、昇汞水ヲ以テ乳房ヲ洗ヒ、消毒セル布片ヲ以テ之レヲ被ヒ、授乳ノ前ニ至ラバ、清水ヲ以テ、善ク附着セル昇汞ヲ洗去スルヲ要ス。○或ハ、此法ヲ行ヒ難キ場合ニ於テハ、温湯、石鹼及ビ刷毛ヲ以テ、乳房ヲ洗滌セルノ後チ、二%硼酸水ヲ以テ消毒シ、爾後授乳後、毎回單

ニ硼酸水ヲ以テ洗ヒ、清潔ナル布片ニヨリ、之レヲ被覆ス可シ。一總テ、乳頭ヲ不潔大ラシメ、乾固セル乳渣ヲ附着セシムルガ如キハ、乳腺炎ノ原因ヲナスモノナリ。

第九十六章 初生兒ノ狀態

〔第四一九項〕**初生兒ノ體温** ハ分娩後、二時間ニシテ速カニ下降シ、三十五度ニ至リ、二十四時間ヲ經テ三十七度ニ達ス可シ。直腸ニ於テハ、平均凡ソ三十七度五分トナス。

〔第四二〇項〕**初生兒ノ體量** ハ分娩後、三四日間ハ必ず減少スルモノニシテ、其量凡ソ二百瓦トナス。是レ胎尿等ノ排泄物多量ナルニ係ラズ、身體ノ冷却セラル、ト、哺乳ノ未ダ十分ナルヲ能ハザルガ爲メニ、營養不良ヲ致スニ基ツクモノトス。而シテ、第七乃至第九日ニシテ最初ノ體量ニ復シ、第四ヶ月ニシテ倍量トナリ、第十二ヶ月ニシテ三倍ニ達ス可シ。又、毎日ノ増量ヲ示セバ、大凡ソ次ノ如シ。

●小兒各月中、毎日ノ體重増量

第一ヶ月	廿五瓦	第七ヶ月	十五瓦
第二ヶ月	廿三瓦	第八ヶ月	十三瓦
第三ヶ月	廿二瓦	第九ヶ月	十二瓦
第四ヶ月	二十瓦	第十ヶ月	十瓦
第五ヶ月	十八瓦	第十一ヶ月	八瓦
第六ヶ月	十七瓦	第十二ヶ月	六瓦

〔第四二二項〕臍帶斷端ノ變化

臍帶ノ斷端ハ、體温ノ爲メニ漸次ニ乾固シ、所謂木乃伊變性ヲナシ、通例五六日早キハ三日遅キハ十日ニシテ、腹壁ノ接際即チ臍輪ヨリ離斷シ、濕潤セル肉芽面ヲ遺シ、第十一乃至第十五日ニシテ癒合シ、臍ヲ形成ス可シ。但シワルドン氏酸肉ノ多クシテ、臍帶ノ大ナルモノ又ハ、虛弱ナル小兒ニ在リテハ、斷端ノ離脫スルコト遅キヲ常トス。○若シ又斷端腐敗シ、臍部化膿ヲ呈スルガ如キコトアルトキハ、種々ノ病變ヲ呈ス可ク、臍輪潤大ナルモノニ在リテハ、努力ニヨリテ、所謂

臍脫腸ヲ致スモノトス。其詳細ニ至リテハ、第七篇初生児ノ疾患ニ就イテ之レヲ論ズ可シ。

〔第四二二項〕胎尿

ハ主ニ大腸内ニ充積セラレタルモノニシテ、青色ノ軟泥ヲナシ、凡ソ三日ニ亘リテ、排泄セラレ、後漸次ニ淡黄色、卵黄様ノ糞便ニ移行シ、一日ノ便通凡ソ三四回トナス。而シテ其卵黄様ヲナセル糞便ハ、全哺乳期間持續スルモノニシテ、綠色ニ變ジ、若クハ白色ノ小片ヲ混ズルモノハ、皆ナ疾患ニ屬スルモノトス。

〔第四二三項〕初生児ノ尿

初生児ハ膀胱内ニ尿ヲ蓄フルコト甚ダ少ナキガ故ニ、第一日中ニ排尿スルモノハ、初生児全數ノ三分ノ一ニ過ギズ。其餘ハ、第二日ノ終リニ至ルマデ、排尿セザル者モ亦之アリ。爾後ハ、一日ノ尿利十乃至十五回トナス。○又初生児ノ尿ハ多量ノ尿酸ヲ含ミ、時トシテハ混濁ヲ呈シ、襟襤等ニ附着スレバ、乾固シテ、白點ヲ遺スコトアリ。

〔第四二四項〕初生児ノ消化器

凡ソ消化液ノ主要ナルモノニ就キ、唾液ハ澱粉質ノ消化ヲ營ミ、胃液ハ蛋白質ノ消化ヲ司ドリ、胆汁ハ蛋

白澱粉、脂肪ノ三者ヲ消化セシムルノ作用ヲ有スルモノトス。而シテ小兒ハ最初ヨリ、蛋白、脂肪ノ消化作用ヲ完備スト雖ドモ、澱粉ノ消化、即チ澱粉ヲシテ葡萄糖ニ變ゼシムルノ作用ハ、唾液、脾液共ニ第十乃至第十二週ニ至ラザレバ、之レヲ有スルコトナシ。故ニ、此期日前ニ在リテハ小兒ヲシテ、澱粉質ノ食餌ヲ取ラシム可カラズ。

第九十七章 初生児ノ看護法

〔第四二五項〕第一回ノ温浴 臍帯ノ切離ヲ終ラバ、攝氏三十六度

(日本ニ在リテハ、三十八度乃至四十度ヲ適當トス)ノ温湯ヲ取り初生児ヲシテ第一回ノ温浴ニ入ラシメ、血液、粘液等ヲ洗除ス可シ。眼ハ、決シテ浴湯ニ觸レシムルコトナク、別ニ清水ヲ器中ニ盛り、軟カキ布片ヲ以テ之レニ浸シ、拭ハンコトヲ要ス。胎脂ハ、時トシテ硬固トナリ夥シク皮上ニ附着スルコトアリ。此ノ如キ場合ニ於テハ、阿列布油若クハ卵黄ヲ塗布シ、之レヲ洗除スルヲ良トス。又、浴湯ノ温度ハ、檢温器ヲ用キテ、之レヲ定ムルヲ佳ト

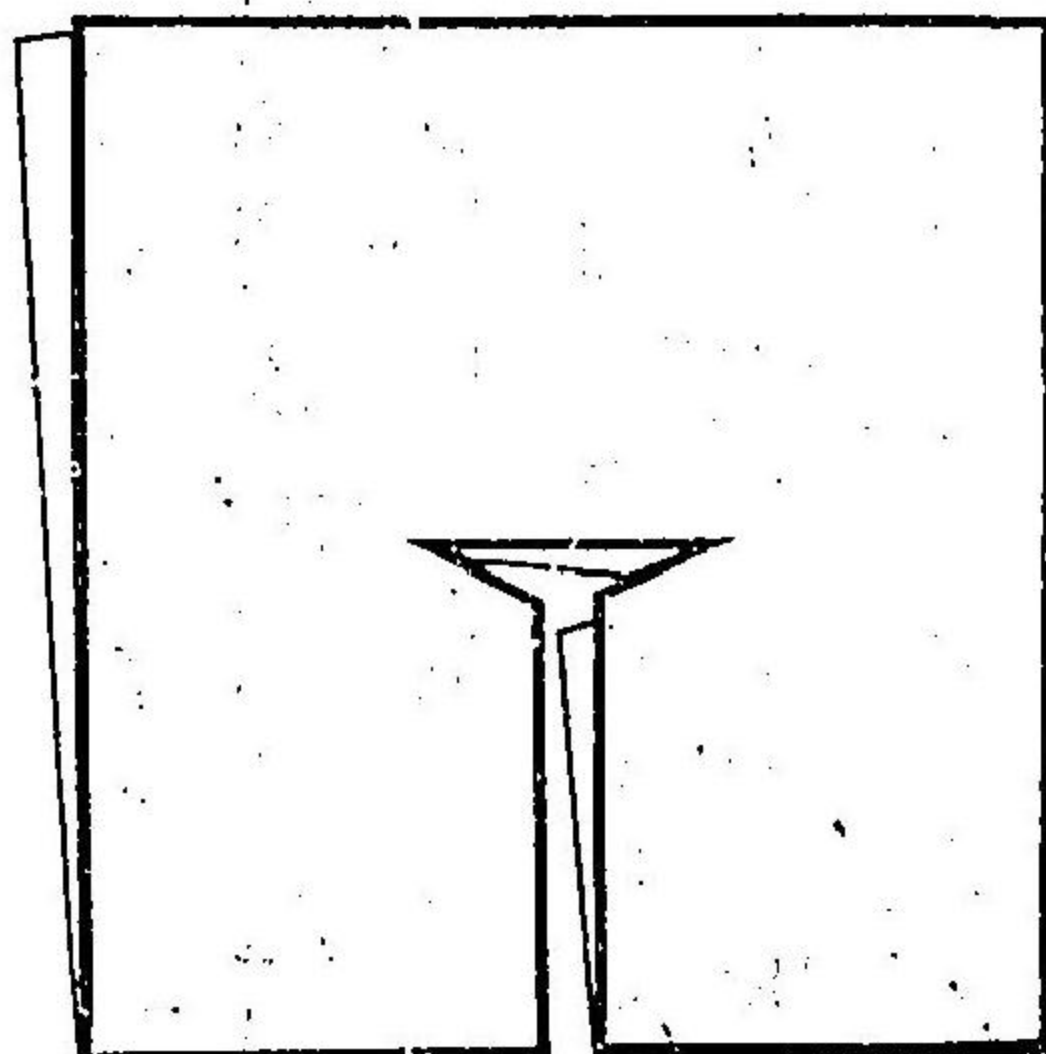
ス。否ラザレバ、多クハ熱キニ失シ、皮膚ニ損傷ヲ發シ、臍ノ治癒ヲ妨害シ、又ハ、神經ヲ刺戟シ、甚ダシキハ痙攣ヲ發セシムルコトアリ。〇既ニ小兒ヲ浴セシメ終ラバ、之レヲ柔軟ナル布巾ノ上ニ受ケテ、丁寧ニ、皮膚及ビ皺襞間ノ濕潤ヲ去ル可シ。否ラザレバ、損傷ヲ發スルコトアリ。早産セル小兒、又ハ甚ダ肥滿セルモノハ、之レヲ致シ易キガ故ニ、注意セザル可カラズ。其他、浴湯ニ入ラシムルノ際ハ、善ク兒體ヲ檢シ、兔唇、鎖肛、駝指、腔口閉鎖等ノ畸形ナキヤ否ヤヲ見ル可シ。若シ之レアラバ、直チニ其母ニ知ラシムルコトナク、之レヲ家人ニ告ゲ、以テ醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ。

〔第四二六項〕臍帯斷端ノ處置 臍帯ノ斷端ヲ處置スルニハ、殊ニ

防腐ニ注意ス可シ。即チ、小兒ヲ浴セシメタル後チ、産婆ハ、其手ヲ清潔ニシ、先ヅ臍帯ノ結紮部ヲ檢シ、若シ出血アラバ、更ニ緊シク結紮ヲ施シ、硼酸末(若シクハ沃度仿)ヲ臍帯ノ斷端ニ撒布シ、消毒セル瓦設ヲ以テ、上圖ニ示セルガ如ク、方三寸ノ切片ヲ造リ、之レヲ包被シ、又ハ、消毒綿ヲ以テ之レヲ包ムモ亦可ナリ)而シテ巾四指横徑ニノ長サ五十仙迷ヲ有スル二片ノ繻帶

第九十五圖

臍帶ヲ包スル瓦片ノ圖



瓦片ニ
重ニ折リ
中央ヲ丁
字形ニ剪
リテ造レ
ルモノヲ
示ス

ヲ重積シ其中央部ヲ、
兒ノ背下ニ置キ、臍帶
ノ斷端ヲ上方ニ向ケ、
少シク左方兒ノ右方
ニ偏セシメ、綳帶ノ兩
端ヲ交互ニ閉合シ、以
テ之レヲ胸部ニ綳帶

帶ヲ交換スルニハ、毎回必ズ其母ノ處置ヨリモ先キニスルヲ良トス。否ラ
ザレバ、惡露ノ病毒ヲ臍ニ傳へ、其癒合スルコト遅ク、或ハ糜爛ヲ呈シ、遂ニ
潰瘍トナリ、甚ダシキハ發熱シテ壞疽ニ陥ルコトアリ。此ノ如キモノアル
トキハ、産婆ハ其罪ヲ免ルハ、コト能ハズ。一殊ニ臍ノ甚ダシキ病變ハ、母體
ニ產褥熱アルノ際ニ發スルコト多キガ故ニ、注意スルヲ要ス。
母體ニ淋毒性疾患アルトキ
第四二七項「初生児眼炎ノ豫防」

ハ、小兒産出ノ際其毒ヲ受ケ、眼病即チ膿漏性結膜炎ヲ發シ、甚ダシキモノ
ハ、角膜炎ヲ來シ、遂ニ失明スルコトアリ、甚ダ恐ルベキモノトス。故ニ産婦
ノ陰部ヨリ、多量ノ膿性分泌物ヲ生ズルモノハ、淋疾ノ疑アルガ故ニ、分娩
中ニハ、既ニ記スルガ如ク、防腐液ノ腔内灌注法(第二八九項)ヲ施コシ、其産
兒ハ、速カニ醫治ニ託シ、眼炎ノ豫防法ヲ請ハシム可シ。但シ此眼炎ノ豫
防法ハ、一眼中ニ二%硝酸銀水各々一滴ヲ點眼スルモノナルガ故ニ、産婆
ニシテ此法ヲ學ビ之レニ習熟スルモノハ、自ラ此法ヲ行フヲ得ヘシ。而シ
テ、若シ尙ホ炎症ヲ發スルノ徵アルヲ見バ、速カニ醫治ヲ求メシムコトヲ要
ス。

第四二八項「毎日ノ温浴」 小兒ハ、清潔ナラシムルヲ要スルガ故
ニ、毎日一回、浴湯ニ入ラシム可シ。温浴ノ際、臍帶ノ斷端ハ、毎回、上記ノ法(第
四二六項)ニヨリ處置ス可シ。

第四二九項「小兒ニ授乳スルノ方法」 既ニ第四一一項乃至
第四一八項ニ詳論セリ。就テ之レヲ看ル可シ。

〔第四三〇項〕小兒ノ吐乳

小兒ハ、一時ニ多量ノ乳汁ヲ飲マシムルトキハ、往々ニシテ吐乳スルモノナリ是レ、主トシテ、小兒ノ胃ノ比較的ニ小ナルト、胃ノ彎曲少ナキ(胃底小ナリ)ニヨル。而シテ小兒吐乳スルト雖ドモ、疾病ナキモノハ、敢テ其成育ニ害アルモノニアラズ。只其煩ラハシキガ爲メニ、一時ニ過多ノ乳汁ヲ飲マシメザルヤウ注意ス可シ。

〔第四三一項〕小兒ノ衣服及ビ臥床

衣服ハ少ナクモ朝夕ニ回交換ス可シ。襪、襪ハ柔軟ナル綿布若クハ使用ヲ經タル布片ヲ用ユルヲ佳トス。而シテ此等ノ物品ハ、濕潤スレバ體温ヲ導キ易キガ故ニ、速カニ交換スルヲ要ス。敷布團ハ甚ダシク輕軟ニシテ、其身體ヲ埋没セシムルガ如キモノハ不可ナリ。而シテ布團ハ、屢々日光ニ晒ラス可シ。搖籃及ビ鞦韆ヲ用キ、劇シク小兒ヲ振搖セシムルハ、極メテ不良ナリ。之レニヨリテ、小兒ノ體温ヲ失ハシメ、甚ダシキハ、眩暈ヲ來タシ嘔吐、腦症等ヲ生ズルコトアリ。

〔第四三二項〕坐位

ハ頸部尙ホ薄弱ニシテ正シク頸部ヲ支エ能

ハザルノ間ハ、之レヲ致サシム可カラズ。

〔第四三三項〕小兒ヲ温暖ナラシムルノ必要并ニ特別ナル

温槽 小兒ハ體温ヲ失ヒ易キガ故ニ、温婆其他ノ器具ヲ用キ、注意シテ温暖ナラシムルヲ必要ナリトス。早産兒ノ如キ虛弱ナル小兒ニ在リテハ、身體温暖ナラザルトキハ、容易ク死亡スルガ故ニ、最モ注意ヲ加ヘザル可カラズ。殊ニ特別ノ温槽ヲ用ユルヲ良トス。即チ四壁及ビ底ノ重複セル金屬製ノ一槽ヲ造リ、兩壁間ニ攝氏四十度ノ温湯ヲ充テ、火力ヲ用キテ、斷エズ其温度ヲ均一ナラシメ、以テ槽内ニ小兒ヲ安臥セシム可シ。此ノ如クナラシムルトキハ、頗ル虛弱ナル小兒ト雖ドモ、能ク發育シ得ルモノトス。

〔第四三四項〕小兒ヲ愛慰シ又ハ接吻スルコト

手或ハ詞ヲ

以テ初生兒ヲ愛慰スルモ、感覺ナキヲ以テ無益ナリトス。殊ニ、人ヲシテ、妄リニ小兒ノ唇頭ニ接吻セシムルハ、甚ダ不可ナリ。是レ、容易ク梅毒等ヲ感染セシムルノ恐アルニヨル。高聲ヲ以テ歌ビ、又ハ、小兒ヲ呼ブ可カラズ。小兒ノ聽官ハ尙ホ高聲ヲ聞クニ耐エズシテ、爲メニ容易ク喫驚

スルモノナリ。

〔第四三五項〕小児ノ啼泣 小児ヲ健全ニ發育セシムルニハ、靜居セシムルヲ以テ緊要トナス。小児若シ少シク號泣スル時ハ、直チニ之ヲ抱舉シ、忙シク振搖シ、數々滋養物ヲ與ヘ、遂ニ小児ヲ疾病ニ陥ラシムルモノアリ。更ニ愚ナルハ、其小児ヲ安靜ナラシメンガ爲メニ、砂糖其他ノ物品ヲ包メル。小囊ヲ口内ニ含マシメ、或ハ茶等ノ飲料ヲ與フルニ在リ。此ノ如クニシテ、安靜ナラシムヲ得ルモ、少時ニシテ、再ビ更ニ之レヲ用キザルヲ得ザルニ至ル可シ。○凡ソ、小児ハ、飽滿シ、濕潤スルコトナク、佳良ニ眠リ、便通適度ニシテ、體量減ズルコトナキモノハ、少シク號泣スト雖ドモ、敢テ顧慮スルコトヲ要セス。却テ、體操ヲ營ムガ如ク、其運動ニヨリ、肺ヲ強壯ナラシムルノ効アリ。只一、襪襪ノ濕レルトキハ、啼泣スルコトアルガ故ニ、之レヲ交換ス可シ。其他二、蚤刺又ハ針等ノ刺傷ニヨリ三、腹痛、苦惱等ニヨリ四、習慣ノ不良ナルニヨリテ、不穩ナルコトアルガ故ニ、之レニ注意センコトヲ要ス。

〔第四三六項〕小児ノ離乳并ニ乳齒 小児第九ヶ月ニ至レバ、乳房ヨリ離レシム可シ。但シ、第八ヶ月ヨリ、徐々ニ之レニ習慣セシムルヲ要ス。即チ、始メハ、授乳スルノ傍ラ、牛乳、肉煮汁、稀粥、鶏卵等ヲ與ヘ、漸次ニ其量ヲ多クシ、徐カニ習慣セシメ、後チ、全ク乳房ヲ離レシムルヲ良トス。但シ、其時期、夏時ニ際スルトキハ、離乳ヲ猶豫セシム可シ。○肉類ヲ食セシムルハ、第一年ヲ經過シ、乳齒ノ一部生ゼルノ時期ニ於テス可シ。而シテ、乳齒ナル者ハ、全數二十個ニシテ、第六ヶ月ヨリ發生シ、第二年ノ終リニ至リ完成シ、第八年以後ニ至リ、漸次ニ久性齒ト交換スルモノナリ。

〔第四三七項〕初生児ノ損傷疾病等 二就キテハ、第七編、異常産褥中ニ記述ス可シ。

第九十八章 乳母ノ検査

〔第四三八項〕生母若シ乳汁乏シキカ又ハ疾病アルトキハ、乳母ヲ撰ビテ、小児ヲ養育セシム可シ。而シテ、乳母ヲ撰定スルハ、固ヨリ

醫師ノ任ズル所ナレドモ、産婆ハ豫カジメ乳母ニ適スルヤ否ヤヲ視然ル後ニ之レヲ醫師ノ許ニ送ル可キモノトス。即チ茲ニ産婆ノ檢知ス可キモノハ、乳母ノ資質及ビ乳房ノ状態ノ二トナス。

〔第四三九項〕乳母ノ資質 乳母ハ年齢凡ソ二十乃至三十五年ニシテ、二三回分娩セルモノ、殊ニ田舎ノ婦人ヲ佳トス。又乳母ハ敢テ生母ト同時ニ分娩セルモノナルヲ要セズ、甚ダシク時期ヲ異ニセザレバ可ナリ。然レドモ、乳母ノ分娩時ハ、生母ニ比シテ一二月早キヲ以テ最モ良トス。

〔第四四〇項〕乳房ノ性質 一就キテハ、乳房ノ形状ヲ緊要ナリトス。即チ乳房ハ脂肪過多ナラズシテ、圓錐形ヲナシ、壓搾スレバ、乳汁ハ線ヲナシテ射出セザル可カラズ、甚ダシク肥大セル乳房ハ、却テ多量ノ乳汁ヲ出ササルコト多シ。又乳房ニ糜爛裂傷、癩痕、皮膚病等アルトキハ不可ナリ。○善良ナル乳汁ハ、白色ニシテ、少シク青色ヲ帶ビ、其一滴ヲ爪上ニ取リ、稍速カニ動カスモ、容易ニ散流ス可カラズ。其他、可及的乳母ノ産兒ヲ檢ス可シ。産兒健康ナルトキハ、其乳汁ノ性質、大概善良ナルヲ推知シ得可シ。

〔第四四一項〕乳母ノ攝生法 ハ可及的慣レタル肉類ヲ適度ニ與ヘ、慣レタル業務ニ就ケ、襦袢ノ洗濯等ヲ擔任セシメ、又ハ、毎日屋外ニ運動セシムルヲ佳トス。而シテ、起臥、飲食ハ必ず規律ヲ正シクセシム可シ。

第九十九章 小兒人工營養法

〔第四四二項〕適當ナル人工營養品 母乳又ハ乳母ヲ以テ、小兒ヲ養育スルコト能ハザルトキハ、牛乳ヲ以テ、代用スルヲ最モ適當ナリトス。但シ、牛乳ハ固形分ノ量多クシテ、百分中固形分凡ソ十四分且ッ人乳固形分十一分ニ比スレバ、頗ル消化シ難キ性質ヲ有スルガ故ニ、却テ驢馬ノ乳又ハ山羊ノ乳、此二者ハ、固形分ノ量、人乳ト牛乳ノ間ニアリヲ以テ勝レリトナス。然レドモ、此二種ノ乳汁ハ、通例之レヲ得ルコト難キヲ以テ、一般ニ牛乳ヲ用ユルヲ適當ナリトス。總テ乳汁ハ、胃中ニ入レバ、胃酸(鹽酸)ニヨリテ、一タビ凝固シ、次デ消化シ溶解スルモノトス。而シテ、人乳ノ凝固ハ、細小ニシテ柔軟ナレドモ、牛乳ナル

トキハ、大ニシテ頗ル硬キヲ常トス。是レ主トシテ、牛乳ノ消化不良ナル所
以ナリ。

〔第四四三項〕牛乳ハ稀釋スルヲ要ス。上ニ述ブルガ如ク、牛乳
ハ濃厚ニシテ、且ツ頗ル不消化ナルガ故ニ、之ヲ初生兒ニ與フルニハ、水ヲ
和シテ稀釋ス可シ。今、其分量及ビ稀釋ノ方法ヲ記スレバ、次ノ如シ。

牛乳稀釋表	
第一月中	第二週後
第一週	牛乳 一
第二週	水 四
第三月	牛乳 一
第四月	水 二
第五月	全 一
第六月後	全 〇

〔第四四四項〕牛乳ヲ稀釋スルノ法并ニ其程度ハ各人ノ見

ル所ニヨリテ、多少ノ異ナル所アリ。而シテ間々、精細ノ稀釋法ヲ示ス者アリト雖、モ精細ナルトキハ、之レヲ記憶スルコト能ハズシテ、實地ニ當リ、混雜ヲ免レズ。且ツ小兒ニ在リテモ、其稟賦ノ強弱ニ從ヒ、既ニ初月ヨリ強壯ナルアリ、數月ノ後ニ至ルモ、却テ之レニ劣レルモノアリ。爲メニ實地上ニ於テハ、月數ニヨリ、固ク稀釋法ヲ守ルコト能ハズ。故ニ上表ニ示スガ如ク、牛乳一ニ對シ、第一月中第一週ニハ水四、第二週以後第四週マデハ水三、第二月及ビ第三月ハ水二、第四月及ビ第五月ハ水一ヲ加ヘ、第六月以後ハ純粹ノ牛乳ヲ用ユ可シト定ムルヲ以テ最良トナス。然レドモ、小兒ノ状態ニヨリ、時トシテ多ク稀釋ス可キコトアリ。即チ小兒ノ便中ニ白色ナル不消化性ノ乾酪小片ヲ多ク混ズルカ、又ハ綠色ノ便ヲ下痢スルトキハ、更ニ幾分ノ水ヲ増加ス可キモノトス。

〔第四四五項〕牛乳ヲ用ル法 先ヅ、乳商ヨリ得タル牛乳ニハ、上記ノ牛乳稀釋表ニ從ヒテ水ヲ混ジ、其混和シタル乳汁液二〇〇ニ就キ砂糖又ハ乳糖六〇ヲ加フルカ、水ヲ和スルガ爲メニ其甘味ヲ失フニヨル、或

ハ又二十倍ノ砂糖水ヲ作り、前記ノ表ニ從ヒ、牛乳ニ混和スルヲ良トス。其
他、乳汁ノ凝固ヲ防ガンガ爲メニ、炭酸曹達又ハ石灰水ノ少量ヲ加フル
アリ。此ノ如クニシテ調製セル乳汁ヲ、凡ソ一回ノ哺乳量ヲ容ル可キ數箇

第九十六圖
スキント氏乳裝置ノ圖



甲、内ニハ水ヲ盛ル
ル一、二寸ニシテ、
シテ、
ル蓋ヲ容レ火
上ニ煮沸スル
モノ
乙、洗淨セル壺ヲ
倒ニ樹ツル蓋
ニシテ引出中
ニハ吸子等ノ
物品ヲ納ム
丙、乳汁水等ヲ計
ルニ用ユル液
量計
丁、授乳時ニ乳壺
ノ糊ヲナス鐵
葉ノ鏝

ノ乳壺ニ分チ容
レ、各壺ニハ、綿花
ヲ挿入シテ、栓子
トナシ、此各壺ヲ
少許ノ湯ヲ盛り
タル釜中ニ樹テ、
三十分間煮沸ス
可シ、(或ハ乳壺ヲ
直チニ炭火上ニ
テ沸騰セシムル
モ亦可ナリ)若シ

圖ニ示スガ如キスキント氏ノ養乳器ヲ用ユルハ最モ佳ナリトス。一
總テ牛乳ハ一回煮沸セルモノニアラザレバ、之ヲ用ユ可カラズ。然ラザ
レバ時トシテハ、母牛ニ結核病アルカ又ハ、運搬ノ際ニ種々ノ微菌ヲ混ズ
ルニヨリ、恐ル可キ疾病ヲ生ズルコトアリ。但シ精確ノ注意ヲ以テ自家
ニ搾取セル牛乳ハ、煮沸セザルモ亦可ナリ。
此ノ如ク準備セルノ後チ、之ヲ小兒ニ與フルニハ、綿花栓子ヲ施コセル
儘、之ヲ火上ニ温メ、體温度ニ至ラシメ、直チニ吸子ヲ壺中ニ挿ミ、哺乳セ
シム可シ。但シ其温度ハ、乳壺ヲ頬上ニ抵テ、之ヲ試ミ、以テ適當ナラシ
ムルヲ良トス。

「第四四六項」小兒ノ飲用ス可キ乳量 今、健全ニシテ強壯ナ
ル小兒ノ哺乳量、每一日ノ全量ヲ舉グレバ、大約次ノ如シ。但シ、毎日授乳
ノ回數ハ、凡ソ六回乃至八回トナス。

第一日	五〇瓦	第三日	二〇〇瓦
第二日	一五〇瓦	第四日	二五〇瓦

第五日	三二五瓦	第二十五日	五二〇瓦
第六日	三六〇瓦	第四十日	六五〇瓦
第七日	三九〇瓦	第七十日	八〇〇瓦
第八日	四一五瓦	第三ヶ月	九一五瓦
第九日	四三〇瓦	第七ヶ月	九七五瓦
第十日	四三五瓦	第九ヶ月	一、一〇〇瓦

小兒ハ概テ上記ノ如ク哺乳スルモノナルガ故ニ、哺乳ノ前及ビ後ニ於テ、其體量ヲ秤量スルトキハ、直チニ充分ノ乳汁ヲ取レルヤ否ヤヲ知ル可シ。又、母乳若シクハ乳母ニ就ケルモノト雖ドモ、此法ヲ施コストキハ、其乳量ノ多寡ヲ確證スルコトヲ得ルモノトス。

〔第四四七項〕牛乳ノ良否 牛乳ハ、枯草ヲ以テ飼養セル乳牛ヨリ取レルモノヲ良トス。青草ヲ用ユルトキハ、小兒ヲシテ下痢及ビ腹痛ヲ發セシム。又一牛ノ乳成分ハ、時ニ隨テ其量不同アルガ故ニ、數牛ノ乳汁ヲ混和スルヲ佳トス。乳商ハ盛大ニシテ正直ナルモノヲ擇ビ、之レヲ

購求ス可シ。然ラザレバ、稀薄シ、又ハ不良ノ乳汁ヲ與ヘラル、トアリ。

〔第四四八項〕コンデンスミルク ハ牛乳ニ砂糖ヲ加ヘ、蒸發セシメテ製セルモノニシテ、凡ソ八十分ノ固形分ヲ含ミ、其中、砂糖及ビ乳糖ハ、合シテ凡ソ四十一分。概テ固形分ノ半量ヲ占ムニ達ス。此ノ如ク糖分多量ナルガ故ニ、之レヲ用ユルトキハ、消化器中ニ甚ダシク酸敗ヲ生ズルノ害アリ。但シ、コンデンスミルクハ、牛乳ヲ得ル能ハザル地方ニ於テ、或ハ止ムヲ得ズ之レヲ用キザル可カラズ。然ルトキハ、大約次ノ法ニヨリ稀釋スルヲ良トス。

コンデンスミルク稀釋表

第一 月	コンデンスミルク	一	水	二五
第二及ビ三月	全	一	水	二〇
第四及ビ五月	全	一	水	一五
第六月以後	全	一	水	一〇

〔第四四九項〕米粥又ハ各種ノ小兒粉 ハ第三月以後ニアラザ

レバ、之レヲ與フ可カラズ。何トナレバ、此ノ以前ニ在リテハ、小兒ノ唾液及ビ胆汁ハ、殆ト澱粉質ヲ消化スルノ力ナキニヨル。而シテ、之レヲ與フルコトヲ必要トナスニ至レバ、必ズ醫師ノ命ヲ請フ可シ。但シ、此等ノ物品ヲ以テ、乳兒ヲ養育セシムルハ、害アルコトヲ免レザルガ故ニ、寧ロ全ク廢棄スルヲ良トス。

第百章 附録 產婦ノ營養法 (參考用トナス)

「第四五〇項」產褥婦ノ食物ニ注意ス可キ理由 產婦ハ、身體中ニ頗ル甚ダシキ變狀ヲ有スルニヨリ、事物ノ害ヲ被リ易ク、僅少ノ感動又ハ便秘等ニヨリテモ、直チニ熱度ノ上昇ヲ致スコトアルモノナリ。原ト產褥ハ疾病ナラズト雖ドモ、時トシテ、產婦ハ病者ヨリモ、害ヲ發シ易キコトアリ。故ニ其營養法ニ至リテハ、最モ注意シ、食物ハ甚ダ消化シ易キモノヲ與フルヲ緊要ナリトス。又食物ハ各種ノ營養物ヲ具フルコト緊要ナリ。而シテ、其營養物トハ水、食鹽、蛋白質、脂肪及ビ澱粉是レナリ。但シ、澱粉ハ、消化スレバ糖類(葡萄糖)ニ變ズルモノトス。

「第四五一項」水 清潔ナル井水又ハ泉水ヲ良トス。河水ハ不潔物、殊ニ微菌ヲ含ムガ故ニ、一タビ煮沸シテ與フ可シ。但シ、之レヲ煮ルトキハ、炭酸氣ヲ失ヒ、良味ヲ損ズルガ故ニ、少許ノ炭酸水(ラムネ)ノ類ヲ加フレ

バ大ニ佳ナリ。純粹ノ炭酸水ヲ與フルトキハ、嗜酸又ハ放屁ニ苦シムコトアルガ故ニ、之レヲ用ユ可カラズ。其他、麥湯ヲ造リ、飲用セシムルモ亦佳ナリ。

〔第四五二項〕**褥婦飲料ノ必要** 褥婦若シ飲料ヲ欲セザルトキハ、甚ダシク食物ノ鹹味ヲ強カラシメ、若クハ食鹽塊ヲ與ヘテ、之レヲ甜メシムルヲ良トス。凡ソ飲料少ナキ時ハ、乳量ヲ減ズルモノナリ。

〔第四五三項〕**鶏卵ノ調理法** 蛋白質ノ緊要ナルモノハ、鶏卵及ビ肉類ナリ。鶏卵ハ、生卵又ハ、軟カク煮タル半熟ノモノヲ與フ。鶏卵ヲ煮ルニハ、直チニ沸湯中ニ入ル可カラズ。若シ然ルトキハ、卵殼破裂スルモノナリ。依テ、水ノ沸騰セザルニ先チテ、鶏卵ヲ入ル可シ。而シテ、後チ煮沸スルヲ三分間ナルトキハ、軟カニ煮ヘ、四分間ナルトキハ、稍堅ク蠟ノ如ク五分間ナルレバ、甚ダ堅ギニ至ル。然レドモ、更ニ長ク煮ルコト三十分間ナルトキハ、脆クシテ、容易ニ破碎スルニ至ルモノナリ。

〔第四五四項〕**鶏卵ヲ肉煮汁中ニ加フルトキハ** 大ニ滋養

ノ力ヲ増ス。之レニ二法アリ、一ハ肉煮汁ヲ熱シ、卵黃ヲ其中ニ落シ、卵黃外圍ノ凝固スルニヨリ、圓形ヲ保タシムルモノ、一ハ肉煮汁ヲ温タメ、卵黃及ビ卵白ヲ共ニ攪和スルモノ是レナリ。

〔第四五五項〕**肉ノ良否** 肉ハ、筋肉ト稱シ、筋纖維ト名クル赤色柔軟ナル細線ノ集合セルニヨリナレルモノニシテ、人ノ食物トシテ緊要ナル蛋白質ナリ。又筋纖維ノ間ニハ、結締織ト名クルモノアリテ、老獸ノ肉ニ於テハ、甚ダ多ク且ツ強クシテ、大ニ消化ヲ妨グルモノナリ。故ニ、肉類ハ結締織ハ柔軟ナル幼獸ノ肉ヲ最良トス。又獸類ノ種類ニヨリテモ、相違アリ、豚肉ハ其齡若キモ結締織多シ。其他、鴨、雁ノ如キハ、筋纖維間ニ多量ノ脂肪アリテ、消化宜シカラザルガ故ニ、産褥婦ノ食料ニ適セズ。

〔第四五六項〕**諸肉類消化ノ難易** 今、肉類ニ就キ、消化シ易キモノヨリ始メ、其難キモノヲ漸次ニ數フレバ、次ノ如シ。(右端ハ最モ消化シ易キモノ、左端ハ最モ難キモノトス)

犢牛ノ肝臟

牝鶏肉及ヒ鳩肉

野獸ノ肉

羊肉

柔軟ナル牛肉及ヒ鱈、鯛、比目魚等ノ魚肉

豚肉

但シ各種ノ肉類ハ調理法ニヨリテモ大ニ消化ノ難易ヲ生ズルモノニシテ老ヒ且ツ韌キ肉ト雖ドモ打チ若シクハ搗ルカ或ハ酢又ハ重炭酸曹達ヲ加ヘ結締織ヲ軟化セシムルトキハ大ニ柔軟ニシテ消化シ易キニ至ル可シ其他肉類ヲ煮ルトキハ結締織柔軟トナルト雖ドモ生肉ハ尙ホ韌ク醃肉ニ至リテハ甚ダ硬キガ故ニ婦科ニ食セシム可カラズ

「第四五七項」肉煮汁ノ製法 凡テ肉ヲ煮ルノ法ハ肉煮汁ヲ得

ントスルモノト肉質ヲ目的トナスニヨリテ異ナリ若シ良肉煮汁ヲ製セント欲セバ肉凡ソ五十匁ヲ五百匁ノ冷水中ニ浸スコト一乃至二時間ニシテ後チ徐々ニ煮沸セシメ肉ノ柔軟トナルニ至ル煮沸ノ際旱芹

菜若シクハ塘蒿ノ一束ヲ直チニ肉煮汁中ニ容レ置クトキハ其液汁ヲ清澄ナラシムルノ益アリ此ノ如クスレバ肉煮汁凡ソ五百匁ヲ得肉モ亦大ニ滋養力ニ富ムモノナリ肉中ニアル骨ハ横斷スルコトナク長徑ニ截割ス可キモノトス

肉煮汁ノ味ヲ佳良ナラシメンニハ米若シクハ麥ヲ浸漬

シ後チ少時間煮沸ス可シ又牛肉煮汁ハ便通ヲ促ガスノ性ヲ有シ煮肉煮汁ハ之レニ反シ便秘セシムルノ傾アルガ故ニ各相當ノ場合ニ撰用スルヲ佳トス凡テ肉煮汁ハ營養ノ力ヲ有セズ興奮ノ作用アルモノトス

若シ肉質ヲ目的トナストキハ直チニ之レヲ煮沸セル湯

中ニ入ル可シ然ルトキハ肉ノ表面ニ凝固物ノ薄層ヲ生ジ質内ノ肉汁ヲ漏出シ能ハザラシム而シテ煮熟セル後ハ肉ヲ其液中ヨリ取り去ルコトナク之レヲ調理ニ用ユルニ至ルマデハ其中ニ蓄フ可シ然ルトキハ頗ル肉汁ニ富ムモノナリ

〔第四五八項〕**焦肉ヲ製セント欲セバ** 新鮮ノ乳脂凡ソ三十瓦(二食匙)ヲ強熱シ之レニ肉五百瓦(凡ソ一斤)ヲ加フ可シ然ルトキハ直チニ肉ノ表面ニ焦皮ヲ生ジ肉汁ヲ漏出セザラン且ツ佳香ヲ發スルモノナリ又肉片ハ可及的大ニシテ比較的ニ少量ノ脂肪ヲ以テ足ラシムルヲ佳トス其他初メ肉片ニ穀粉ヲ撒布スルトキハ迅速且ツ確實ニ焦皮ヲ生ズルモノナリ

〔第四五九項〕**不良ナル脂肪性肉及ビ良好ナル魚類** 脂肪ニ富メル鳥肉及ビ魚肉即チ家鴨雁鱈鱒等ノ如キハ消化不良ナルガ故ニ之レヲ婦人ニ與フ可カラズ之レニ反シ鱈比目魚鯛等脂肪少ナキ魚肉ノ煮熟セルモノハ大ニ佳良ナリ特ニ我邦ニ於テ普ク行ハル鯉若シクハ鮎ノ味噌汁ハ可及的其脂肪ヲ除去シテ食用セシムルトキハ兼テ乳汁ノ分泌ヲ進ムルノ良効アリ但シ總テノ魚肉ハ獸肉ニ比スルニ水分多量ナルモノトス

〔第四六〇項〕**食用ニ供ス可キ脂肪** 脂肪ハ新鮮ノ乳脂若シクハ阿列布油ヲ佳トス陳舊ナルハ腸胃加答兒ヲ起スノ恐レアルガ故ニ用ユ可カラズ又肉質ノ脂肪組織ハ甚ダ消化シ難キヲ以テ之レヲ婦人ニ與フルコトナク肉類ト雖ドモ綿密ニ脂肪組織ヲ除去シテ之レヲ食セシム可シ

〔第四六一項〕**澱粉質類** 澱粉質類ハ中米粥ヲ以テ最モ消化シ易シトス之レヲ製スルニハ米ヲ冷水中ニ入レ徐々ニ加熱シ煮沸スルノ半乃至一時間ヲ費ヤシ柔軟ニシテ平等ナル粥汁ヲ得ルニ至ル又麵包ナルトキハ白色ニシテ細微ノ粉末ヲ以テ製セル輕疎ノ品ヲ撰ブ可シ但シ新製ノ麵包ハ咀嚼スルトキハ粘合シテ餅狀ヲナシ輕疎ノ質ヲ失フガ故ニ少シク之レヲ炮ブルトキハ粘合スルコトナク消化液ノ滲潤宜シキモノナリ

〔第四六二項〕**良好ナル野菜** 野菜類ニハ馬鈴薯ノ搗磨セルモノ百合蘿蔔花椰菜赤根菜胡蘿蔔等ノ柔軟ニ調理セルモノヲ用キシムルヲ得

〔第四六三項〕リモナーデ

熱アル者ニハ飲料トシテリモナーデヲ用キシムルヲ良トス。之レヲ橙實ヨリ製スルニハ皮ヲ去レルニ箇ノ橙實ヲ取り、縦ニ其各片ヲ割リ、水五合、砂糖二小盃ヲ加ヘ、之レヲ密蓋アル桶ニ入レ、且ツ其香氣ヲ佳良ナラシメンガ爲メニ、橙皮片少許ヲ混ジ、半時間ヲ經、布片ヲ以テ之レヲ濾過シ、毎時一小盃ヲ飲用セシム可シ。

〔第四六四項〕茶其他ノ飲料ノ良否

通例ノ茶及ビ咖啡ハ飲用セシム可カラズ。若シ之レヲ用ユルトキハ、心臟ノ悸動ヲ増シ、子宮出血ヲ發シ、且ツ腸胃症ヲ生ズルコトアリ。但シ煎餘ノ粗劣ナル茶ナルトキハ、害アルコトナシ。又上項説述セル麥湯ノ如キハ、頗ル佳ナリ。重症アル褥婦ニ赤酒ヲ與ヘント欲セバ、少量ノ桂皮丁幾及ビ砂糖ヲ加ヘ、少時煮沸シ、濾過シテ用キシム可シ。

●以上第四五〇項ヨリ本項ニ至ル迄ハ、褥婦一般ノ食料ヲ論ゼルモノナリ。次ニハ稍詳シク各種ノ褥婦ニ必要ナルモノヲ説ク可シ。

〔第四六五項〕食物ヨリスル褥婦ノ區別

食物ニ就キ褥婦

ヲ大別シテ二種トナス。授乳スルモノ、及ビ授乳セザルモノ是レナリ。授乳スルモノハ、乳汁ノ分泌ヲ多カラシメンガ爲メニ、可及的多量ノ飲料ヲ與ヘ、其量一日三四千、瓦ニ至ラシム。之レニ反シ、授乳セザルモノハ、飲料多ケレバ、乳汁ノ分泌ヲ増シテ乳房ノ腫張、疼痛ヲ起シ、尿利、發汗ヲ夥多ナラシメ、大ニ褥婦ヲ困難ナラシムルガ故ニ、可及的飲料ヲ制限シ、一日凡ソ一千瓦ヲ越エシメザルヲ佳トス。

〔第四六六項〕授乳スル褥婦

モ亦分ケテ、甲多血強壯ナルモノ、及ビ乙貧血虛弱ナルモノ、二類トナス。

〔第四六七項〕第一類、多血強壯ナル褥婦

ハ最初三日間液狀ノ食餌即チ稀粥、牛乳等ヲ與ヘ、全ク固形食物ヲ禁ジ、第四日ニハ鶏卵肉、蒸汁又ハ魚肉ノ味噌汁ヲ添テ食セシメ、第五日ニ至リ柔軟ノ米飯、肉類ヲ取ラシム可シ。此ノ如ク最初三日間固形食ヲ禁ズル所以ハ、褥婦腸胃未ダ靜臥ニ慣レズ、爲メニ、腸胃ノ運動弱ク、消化液ノ分泌モ亦稀少ナルガ故ニ、固形食ヲ與フルハ、容易ニ腸管内ニ堆積シ、發熱若シクハ

腸加答兒ヲ惹起スルコトアリ。且ツ分娩前、幾何カ腸管内ニ存スル食餌モ、亦産褥初期ノ便秘ニヨリテ、滯積シ居ル可キニヨル。斯ノ如ク、分娩前ヨリ滯積セル糞便ハ、時トシテ、甚ダ多量ニ達シ、爲メニ産褥ノ第一日ニ灌腸ヲ施コサル可カラザルコトアリ。

第四六八項 第二類 貧血、虛弱ナル褥婦ハ、之レト異ニシテ、若シ飢餓ヲ感ゼシムルトキ、身體ノ虛弱ヲ増シ、乳汁ノ分泌ヲ減少セシム。且ツ此種ノ婦人ハ、幾分カ静臥ニ慣ルハ、ガ故ニ、既ニ第二日ニハ米粥ノ外、肉蒸汁、鶏卵又ハ魚肉ノ味噌汁ヲ與ヘ、第三日ニ至リ、若シ食欲ノ佳良ナルモノニハ、二三箇ノ鶏卵、肉類ヲ食セシムルヲ良トス。通例、健康ナル褥婦ハ、最初二日間食欲佳良ナルヲ以テ、食欲ヲ節セシムルコト甚ダ困難ナリ。故ニ此ノ如キモノハ、可及的過度ニ至ラシムルコトナキヲ務ム可シ。第三日以後ハ、食欲自ラ減却ス可シ。第五日以後ハ、肉類、魚肉、蔬菜等、上記ノ方法ニヨリ、食用セシメ、第三週以後、第三週ニ至ルノ間、漸次ニ通常ノ食餌ニ復セシム。但シ辛辣ナルモノ及ビ腹内ノ膨滿ヲ起ス可キモノハ、食セシム可カラズ。

第四六九項 褥婦ニ許容ス可キモノト禁忌ス可キモノヲ擧グレバ次ノ如シ。

〔甲〕許容ス可キモノ

一、葉實 煮タル葉物、酸味ナキ熟シタル葉物。

二、魚肉 鮎、鱈、白魚、比目魚、鯛、鱈等。

三、蔬菜 煮タル豌豆、菠菜、大根、百合等。

四、穀類 總テノ穀粉、麵包。

五、肉類 兔、牝雞、犢牛肉、牛肉、羊肉等。

〔乙〕禁忌ス可キモノ

一、菓實 新鮮ノ林檎、梨子、杏ノ類。

二、魚肉 鰻、牡蠣、蟹、星比目魚、鮭、鱈ノ類。

三、總テノ香料 芥子、胡椒ノ類。

四、蔬菜 青菜、塘蒿、旱芹、菜、剝皮セザル莢豆ノ類。

五、肉類 燒肉、豚、鴨、雁、醃肉ノ類

「第四七〇項」價レタル食物及ビ麥酒 大畧ハ以上掲グル所ノ如シト雖ドモ概シテ、掃婦ナルモノハ、可及的平常習慣セル食料ヲ與フルヲ良トス之レニヨリテ乳汁ヲ出ス、最モ多キモノナリ。唯過食スルヲ戒ム可シ。ホップ(葎草)ヲ加ヘザル麥酒ヲ飲マシムルトキハ、乳汁ノ分泌ヲ増加ス可シ。若シ麥酒中ニホップヲ含ムトキハ、却テ乳汁ヲ減ジ、且ツ小兒ノ腹部ヲ膨滿セシム。

新訂 產婆學講本 上卷終

新訂 產婆學講本 下卷

醫學士 千葉稔次郎校訂

高橋辰五郎著述

第五篇 異常ノ妊娠及ビ其取扱法

第一百一章 誘導篇

「第四七一項」此編ニ於テハ、初メニ、妊娠生理的徵候ノ増劇セルモノ即チ妊娠性嘔吐、便秘、靜脈瘤等ヲ論ジ、次ニ妊娠中ニ併發スル諸種ノ白帶下、出血若シクハ腔及ビ子宮ノ異狀ヲ述ベ、胎兒ニ屬スル疾患即チ葡萄狀胎、羊膜水腫、流產、早產等ヲ記シ、終リニ異常部位ノ妊娠即チ子宮外妊娠ヲ説キ且ツ附録トシテ、花柳諸病ヲ論述セント欲ス。

第百二章 妊娠性嘔吐

〔第四七二項〕妊娠性嘔吐及ビ惡咀 妊婦ノ凡ソ五%ハ其第一月中ヨリ慢性嘔吐ヲ發ス可シ此嘔吐ハ空腹時殊ニ早朝ニ發スルヲ特異ナリトス而シテ多クハ第三ヶ月ノ終リ若シクハ其以前ニ於テ止ム可シト雖ドモ時トシテハ更ニ長ク持續シ妊娠ノ後半期ニ至ルモ治スルヲナク或ハ總テノ飲食物ヲ吐出シ空腹時ニ於テハ烈シキ乾嘔ヲ發シ甚ダシク衰弱シ或ハ流産シ或ハ死ニ歸スルコトアリ此ノ如ク重症ニシテ容易ニ鎮靜ス可カラザル所ノ嘔吐ヲ惡咀ト稱ス

〔第四七三項〕惡咀ノ原因 妊娠ニヨリ子宮周圍ノ神經機能亢進スルノ際子宮ニ障害アリテ胎兒ノ増大ニ抵抗ヲ感ズル時ハ大ニ子宮ノ神經系ニ壓迫若クハ牽引ノ作用ヲ起シ其刺激ヲ胃ニ反射シ以テ嘔吐ヲ發ス可シ而シテ其子宮ノ障害ニ屬スルモノハ子宮外膜炎ニ因スル瘴着子宮後屈子宮前屈子宮壁又ハ頸管ノ強硬ニシテ延長シ難キモ

ノ子宮實質炎子宮内膜炎等トナス又妊娠中ニ胃ノ疾患直腸加答兒等アルトキハ著シク嘔吐ヲ發スルヲアリ其他不明ノ原因ニ基ツクモノナキニアラズ

〔第四七四項〕處置 此嘔吐ノ輕度ナルモノニシテ食機營養共ニ佳良ナルモノハ敢テ治ヲ施コスヲ要セザルモノアリ若シ嘔吐頗ル甚ダシキモノハ柔軟ニシテ消化シ易キ食物ヲ與ヘ食後ハ身體ヲ安靜ニシニ時ニ多量ノ食餌ヲ取ラシムルコトナク數回食事ニ就カシメ且ツ其時間ヲ一定ス可シ又早朝ノ嘔吐ニ苦ムモノニハ櫛中ニ在リテ牛乳肉煮汁鶏卵等ノ滋養物ヲ取ラシメ後チ一時間ヲ經テ起キ出デシムルヲ良トス其他清氣中ノ運動ヲ命ジ便秘アラバ灌腸ヲ施コス可シ(妊婦ノ攝生法參照)若シ此ノ如クスルモ尙ホ治シ難キモノ又ハ初ヨリ強劇ナルモノハ速ニ醫治ニ託スルヲ要ス

第百三章 便秘

〔第四七五項〕便秘 妊娠ノ始メ、二、三ヶ月間、子宮ノ、小骨盤内ニ在リテ増育セルノ際ニハ、直腸ヲ壓迫スルガ故ニ、甚ダ便秘ヲ發シ易シ、此便秘アルトキハ、腸内ニ風氣ヲ醸シテ鼓脹ヲ發シ、血液ハ骨盤内ニ鬱積シ、痔結節逆上、睡眠不安等ノ症ヲ致ス可シ。

〔第四七六項〕處置 ハ第四十三章、妊婦ノ攝生法中ニ示セル處置ヲ施コシ、尙ホ効ナキモノハ、醫治ヲ求メシム可シ。

第一百四章 尿利ノ困難

〔第四七七項〕尿意頻數及ビ尿失禁 妊娠中、増大セル子宮ニヨリ、膀胱及ビ尿道ノ壓迫ヲ蒙リ、爲メニ尿意頻數トナリ、通利ノ際、疼痛ヲ起シ、或ハ尿閉シテ、全ク尿ヲ利スル能ハザルコトアリ。又尿失禁ト稱スルモノアリ。此症ハ、嘻笑、咳嗽、噴嚏等ニヨリ、腹壓増劇スルトキハ、尿ハ、不隨意ニ射出スルモノヲ云フ。

〔第四七八項〕處置 尿利困難アルカ、又ハ尿閉アルトキハ、可及的、早ク

醫治ヲ求ム可シ。而シテ醫師ノ來診スルニ至ルマデハ、尿意頻數ナルモノニハ、安靜ナル位置ヲ命ジ、温ナル牛乳、葛湯等ノ飲料ヲ與エ、下腹ニ温湿布ヲ貼ス可シ。若シ又尿閉シタルトキハ、カテーテルヲ用キ、尿失禁アルトキハ、冷水ヲ以テ、屢陰部ヲ洗滌セシム可シ。其他ノ處置ハ、總テ醫師ノ命ヲ待ツ可キモノトス。

第一百五章 浮腫

〔第四七九項〕浮腫 ハ妊娠セル子宮ノ、骨盤管内ヲ壓スルニヨリ生ズルモノヲ多シトス。然レトモ、時トシテハ、腎臟病、貧血症ノ徵候トナリテ來ルコトアリ。其ノ腫脹セル部位ハ、白色トナリ、光澤ヲ呈シ、指ヲ以テ壓スレバ、暫時ノ間、淺キ窩ヲ留ム可シ。浮腫ノ、腰部以下ニミ存スルハ、血管壓迫ノ徵ナレドモ、上肢、顔面等ニ現ルハ、多クハ腎臟病又ハ貧血症ニ基クモノトス。

〔第四八〇項〕處置 下肢ノ少シク浮腫アルモノハ、可及的、起立ヲ誠メ

莫大小ノ股引及ビ足袋ヲ着ケシムルヲ佳トス然レドモ下肢陰部等ニ甚ダシク浮腫シ歩行ヲ妨グルニ至ラバ常ニ下肢ヲ伸バシテ臥セシメ少シク其位置ヲ高クシ且ツ足ノ末端ヨリ大腿ニ至ルマデフランネル縞帶ヲ施コスカ若クハ莫大小ノ股引ヲ着ケシメ陰唇ノ浮腫ハ温水ヲ以テ罌法ヲ施コス可シ又全身ニ著シキ浮腫ヲ發シ頭痛ヲ起スモノハ即チ全身ノ痙攣症(子痙)ヲ來スノ恐アルガ故ニ必ズ醫師ノ診察ヲ受シム可シ

第一百六章 靜脈瘤

〔第四八一項〕靜脈瘤 ハ靜脈管ノ甚ダシク擴張シタルモノニシテ皮下ニ蠟々タル青色ノ索狀若クハ連續セル結節ヲナシ上腿足踝腓腸部膝脛陰唇等ニ之レヲ現ハス之レニ觸ルレバ軟カニシテ壓ニ應ズルカ又ハ時トシテ固キコトアリ此靜脈瘤ハ身體ノ運動若クハ努力ニヨリテ緊張ノ感覺又ハ疼痛ヲ發シ時トシテハ甚ダシク増大シ其外皮菲薄トナリ摩擦衝突若クハ努力ニヨリテ破開シ危險ノ大出血ヲ求スコトアリ

〔第四八二項〕處置 靜脈瘤アルトキハ久シク起立シ又ハ脚ヲ下垂スルコトヲ禁ジ莫大小ノ股引ヲ穿ガタシメ若シ其大ニシテ障害アルモノハ綿花ヲ貼シテフランネルノ如キ弾力性ヲ具フル縞帶ヲ施コシ以テ其増大破裂等ノ危險ヲ防止ス可シ若シ又赤色ヲ呈シ疼痛スルコトアラバ安臥ヲ命ジ冷水罌法ヲ行ヒ且ツ醫治ヲ求ムルヲ要ス若シ又突然破裂セルモノハ直チニ壓抵止血セシメ次デ綿花若シクハ瓦設ニ石炭酸水ヲ蘸シテ貼シ縞帶ヲ施コシ速カニ醫治ヲ請フ可シ

第一百七章 白帶下

〔第四八三項〕白帶下トハ膈内ヨリ白色又ハ水様若クハ膿様液ノ漏泄セルモノ、總稱ニシテ子宮頸癌腫子宮内膜炎淋毒症腫加答兒葡萄狀胎等種々ノ疾病ニヨリテ此症ヲ發スト雖ドモ亦妊娠中ハ疾病ニアラザル分泌増進即チ單性分泌過多ニヨリテ之レヲ現ハスコトアリ次ノ五項ニ於テ更ニ之レヲ詳説ス可シ

「第四八四項」單性分泌過多 ハ單ニ清淨ナル温湯若クハ一%微温石炭酸水ヲ以テ屢洗浄ス可シ疑ハシキモノアラバ醫治ニ託スルヲ要ス。

「第四八五項」子宮頸癌腫 癌腫ハ最モ恐ル可キ疾病ナリ。此病ニ罹リ適當ノ治療ヲ施コスコト能ハザルトキハ數月若クハ一二年ノ後必ズ死ニ至ルモノナリ。而シテ此病ヲ發スルトキハ腔内ヨリ初メハ粘液水樣液後ニハ臭氣アル膿液及ビ多量ノ血液ヲ漏ラシ其病變子宮ノ周圍ニ蔓延スルトキハ劇シキ腰痛尿意緊急等ヲ發ス。而シテ検査ヲ施コストキハ癌腫ニ在リテハ子宮口ノ周圍ニ潰瘍ヲ造リ若シクハ腔部一般ニ増大シ凹凸不平ヲ呈シ後チ中部ヨリ漸次ニ破壞シテ同ジク潰瘍トナリ此潰瘍ヨリ血液膿液等ヲ夥シク漏泄セレム。又癌腫ハ漸次ニ子宮ノ周圍ニ蔓延ノ硬結ヲ造リ膀胱直腸ニ及ボシ遂ニ時トシテハ茲ニ破壞穿孔シ尿及ビ糞便ハ其ニ腔内ヨリ出ヅルニ至リ衰弱ニヨリ斃レ或ハ此間一時ニ多量ノ出血ヲ發スルトキハ忽チ急性貧血ニヨリテ死ニ至ル可シ又分娩

時ニ於テハ患部硬結ヲナシ延長シ難キニヨリ子宮口狹窄ノ症狀ヲ發ス。處置 癌腫ノ疑アルモノハ速カニ醫治ヲ求メシムルヲ要ス。

「第四八六項」子宮内膜炎 ハ淋毒若クハ自餘ノ微菌ノ傳染ニヨリテ發シ又ハ卵巢等ノ疾患ニヨリ反射症狀トナリテ之レヲ現ハスコトアリ。而シテ子宮口及ビ腔内ニハ異常ヲ呈セズト雖ドモ妊娠中時々透明ノ水樣液ヲ流出セシメ或ハ又特ニ子宮口ノ糜爛ヲ伴フコトアリ。此症ハ最も多ク流産ヲ發シ又ハ前置胎盤ノ如キ異常ヲ致スコトアリ。尙ホ第百廿二章淋疾ニ因スル子宮内膜炎第五三項ニ就キテ詳説セル所アリ。參看ス可シ。處置ハ醫治ヲ求ムルニ在リ。

「第四八七項」淋毒性腔加答兒 ニ在リテハ腔粘膜赤色ニシテ腫脹シ灼熱疼痛ヲ感ジ其疼痛ハ間々劇烈ニシテ之レニ觸ルハ能ハザルモノアリ。而シテ粘膜面ニハ濾胞ノ腫脹ニヨリテ砂粒ヲ撒布スルガ如キ狀ヲ呈シ又多量ノ膿樣分泌物ヲ現ハス。分娩ノ際此ノ分泌物兒ノ眼中ニ入ルトキハ危險ナル初生兒眼炎ヲ惹起シ自己又ハ他人ノ眼中ニ此

分泌物ヲ附着セシムルモ亦、同ジク恐ル可キ膿性ノ眼炎ヲ致スモノトス
 此眼炎ニ就キテハ、第百廿二章第五三七項ニ詳論セリ。就テ見ル可シ
 處置 速カニ醫治ニ就カシメ、其分泌物ハ、自己若クハ他人ノ眼内ニ入
 ラシム可カラズ。分娩時ニ至ラバ、三十倍若クハ五十倍石炭酸水ヲ以テ、膜
 腔内ニ灌注シ、初生兒眼炎ノ豫防法(第四二七項)ヲ施コスヲ要ス。

〔第四八八項〕葡萄狀胎 第百十二章ニ別論ス可シ

第百八章 妊娠中、生殖器ノ出血

〔第四八九項〕妊娠中、生殖器ノ出血 妊娠中ニ血液、腔内ヨリ漏
 出スルハ、屢之アル所ニシテ、癌腫、ポリープ、葡萄狀胎、腔内靜脈瘤ノ破裂、子
 宮内膜炎、流産、胎盤ノ早期剝離、前置胎盤及ビ月經ニヨリテ之レヲ來ス。就
 中癌腫及ビポリープハ、妊娠ノ初期ト末期トニ係ラズ、絶エズ出血ヲ呈ス
 可ク、内膜炎ハ、時々出血シ、月經ハ、稀レニ妊娠ノ初メニ潮來スルコトアリ
 葡萄狀胎ノ出血ハ、第三、四ヶ月以後ニ現ハレ、前置胎盤ハ、妊娠ノ終末二三

ケ月ニ於テ出血ヲ現ハシ、流産、胎盤ノ早期剝離、靜脈瘤ノ破裂ハ、時ヲ定メ
 ズシテ之レヲ致ス可シ。而シテ之レガ詳細ノ説明ヲナスニ就キ、癌腫及
 ビ子宮内膜炎ハ、前章中既ニ之レヲ説キ、葡萄狀胎、流産ハ、第百十二章及ビ
 第百十六章ニ詳述ス可シ。又胎盤ノ早期剝離及ビ前置胎盤ノ出血ハ、共ニ
 分娩ヲ誘起シ若クハ分娩時ニ至ルマデ、其出血持續スルコトアルニヨリ
 之レヲ第六編、異常分娩、第百五十五章及ビ第百五十六章中ニ論述スルヲ
 適當ナリトス。故ニ、次ノ三項ニハ、ポリープ、腔内靜脈瘤ノ破裂及ビ月經ニ
 就キテ、之レヲ詳述ス可シ。

〔第四九〇項〕ポリープ トハ莖ヲ有スル梨子狀ノ腫物ニシテ、子宮
 口ヨリ垂下シ、或ハ大ニシテ稍硬キモノアリ、(筋腫性ポリープ)或ハ小ニシ
 テ柔軟ク、同時ニ數箇ヲ現ハスモノアリ、(粘膜ポリープ)各著シク出血スル
 ノ性ヲ有ス。

處置 醫療ニヨリ之レヲ切除ス可キモノナリ。

〔第四九一項〕腔内靜脈瘤ノ破裂 突然トシテ、多量ノ出血ヲ現

ハス可シ●處置ハ綿花ヲ石炭酸水ニ浸シ固ク栓塞法第六三一項ニ參照ヲ施コシ且ツ速カニ醫治ヲ請フ可シ。

〔第四九二項〕月經 ハ妊娠中閉止スルヲ常トスレドモ極メテ稀レニハ之レヲ現ハスコトアリトス但シ此ノ如キモノハ月經ニアラズト云フモノモ亦之レアリ。

第百九章 子宮脱及ビ陰脱

〔第四九三項〕子宮脱トハ 子宮下垂シテ其子宮腔部陰唇間ニ現ハル、モノヲ云フ而シテ更ニ甚ダシキハ其子宮全部又は膀胱ヲ伴ヒ陰唇外ニ脱出スルモノモ亦多ク之レアリ。

原因 ハ妊娠中ニ劇シク努力スルニヨリテ新タニ發スルコトアレドモ既ニ前回ノ分娩後安胎ヲ守ラザルニヨリ生ゼルコト多シ特ニ會陰破裂アルモノニ之レヲ發シ易シトス。

症狀 此症ハ妊娠第四ヶ月ニ至レバ通例自然ニ癒ユルモノナリ是レ

子宮ノ増大シ小骨盤ヨリ大骨盤ニ移行スルガ故ナリ然レドモ時トシテハ妊娠セル所ノ子宮深ク沈降シテ所謂嵌頓症(後屈子宮妊娠ノ嵌頓症ニ同ジ)ヲ來シ甚ダシキ苦惱ヲ訴ヘ尿ノ通利ヲ妨ゲ子宮ノ嵌頓ヲ發シ終ニ流産ヲ來スニ至ルコトアリ。

處置 妊娠ノ前半期ニ於テ子宮脱出ヲ發生セルトキハ妊婦ヲシテ先ヅ兩便ヲ排泄セシメ其臀部ヲ高クシテ平臥又ハ側臥ヲ與エ消毒セル手指ヲ以テ徐カニ平常ノ位置ニ復納セシメ以テ醫師ヲ招聘ス可シ醫師ハペッサリウム又ハタンボンヲ挿入シテ子宮ノ再ビ脱出スルヲ防グコトアリ又産褥經過ノ後チ手術ニヨリ腔ノ前後壁ニ縫合術ヲ施コシ之レヲ治セシム可キモノトス。

〔第四九四項〕陰脱 ハ陰壁ノ翻轉シ腔口ヨリ挺出スルモノニシテ殊ニ前壁ノ脱出スルモノヲ多シトス陰脱ノ甚タシキハ尿利ノ障害ヲ致シ又ハ歩行ノ際殊ニ困難ヲ起スモノナリ陰脱ノ甚ダシキモノハ分娩ノ際兒體ノ壓迫ニヨリ脱出部腫脹シ娩出ノ障害ヲナス可シ又此脱出部ハ甚

ダシキ。壓迫ヲ受クルトキハ、挫傷ヲ被ムリ、若クハ壞疽ニ陥ルコトアリ。
處置 ハ外陰部ヲ清潔ニシ、排尿、便通ヲ佳良ナラシメ、丁字綑帶ヲ施コ
シ、其他ハ、速カニ醫治ヲ求ム可シ。

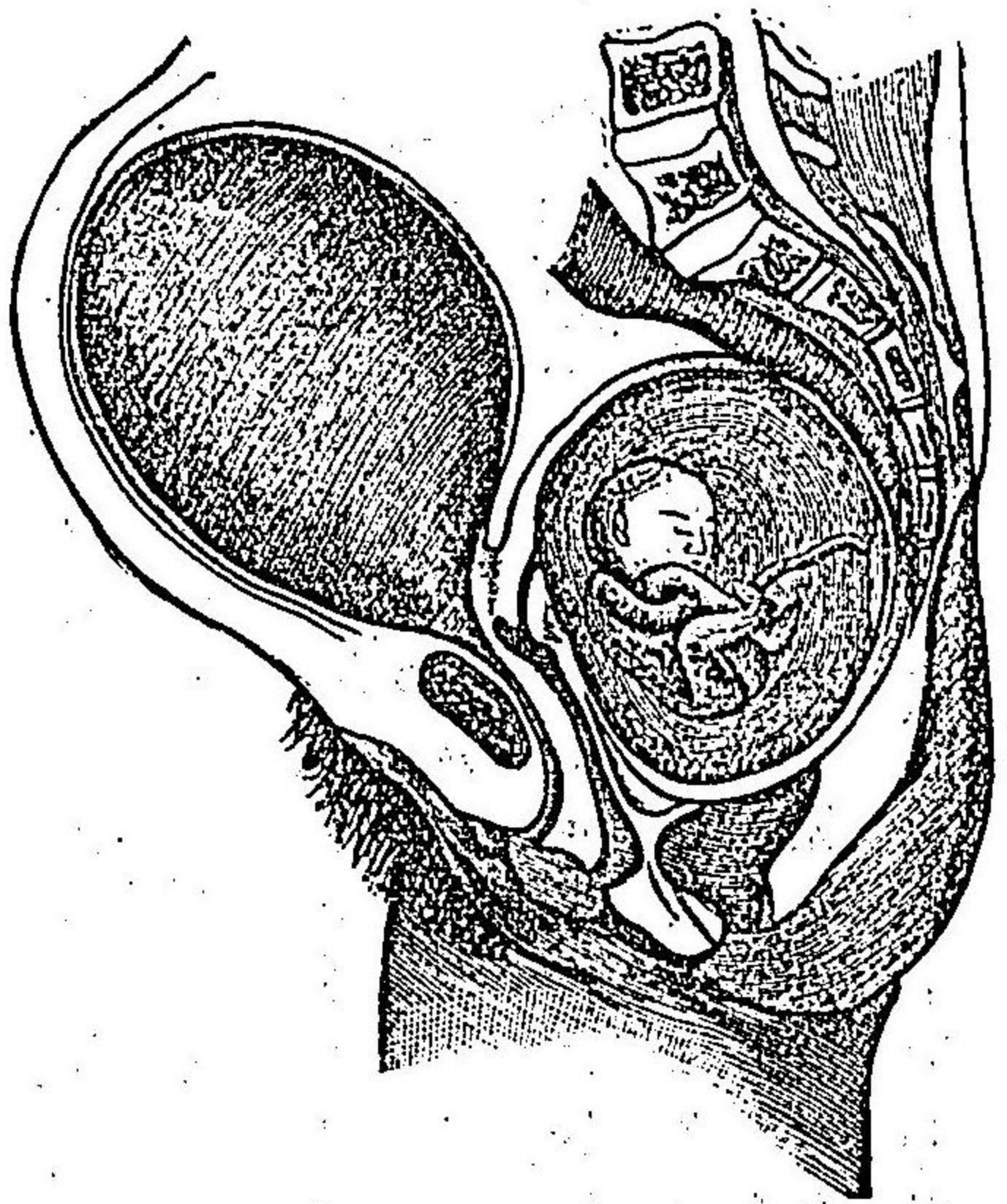
第一百十章 妊娠子宮後屈症

〔第四九五項〕子宮後屈症ニ在リテハ、子宮體ハ、子宮頸ヨリ後
方薦骨ニ向ツテ屈曲シ、正規ノ子宮體ハ、稍前方ニ屈曲ス、即チ前轉シ、且ツ
輕度ノ前屈ヲナス。子宮底ハ、薦骨窩内ニ沈降シ、子宮頸ト子宮口トハ、骨盤
前壁ニ沿ヒテ上昇ス。故ニ最高度ノ後屈症ニ於テ、後方ニアル子宮底ハ、前
方ナル子宮口ヨリモ、下方ニ位スルモノナリ。

〔第四九六項〕原因 此症ハ、妊娠前ヨリ、已ニ子宮後屈セルニヨリ、又ハ
妊娠第三四ヶ月ノ間、子宮ノ、小骨盤ヨリ大骨盤ニ昇ルノ際、薦骨岬ニ支障
セラレ、之レヲ發スルコトアリ、其他重キ物ヲ舉ゲ、或ハ甚ダシク努力ヲ營
ミテ、便通スルガ如キ、總テ腹壓ヲ強ムルコト、又ハ手ヲ高所ニ達セシメン

後屈子宮妊娠ノ圖

第九十七圖



嵌頓ニヨ
リ膀胱甚
ダシク充
盈セルヲ
示ス

ガ爲メ、強テ身
體ヲ伸張セシ
メ、或ハ後方ニ
轉倒シ、或ハ排
尿ヲ停止シテ、
甚ダシク膀胱
ヲ充滿セシム
ルガ如キコト
等ニヨリテ此
後屈症ヲ致ス
可シ。

〔第四九七項〕症狀 子宮後屈症ヲ發シ、子宮漸次ニ増大シ、小骨盤内
ニ充塞スルトキハ、所謂嵌頓症狀ヲ發ス、即チ子宮頸ハ前方ニ在リテ、強ク
膀胱及ビ尿道ヲ壓スルガ故ニ、尿意頻數ヲ發シ、毎回僅量ノ尿ヲ排泄シ、後

チ全ク尿閉ヲ致シ又子宮體ハ後方ニ位シ直腸ヲ壓迫スルガ故ニ頑固ノ便秘ヲ現ハシ爲メニ骨盤内ニ甚ダシキ痛苦ヲ訴フルニ至ルモノトス(子宮後屈症)外検査ヲ施コスニ當リ下腹ニ觸知ス可キモノハ子宮ニアラズシテ膨滿セル膀胱ナリ其大サ時トシテハ臍部ニ達スルコトアリ内検査ニヨルニ子宮腔部ハ高ク骨盤ノ前方ニ位シ之ニ達スルコト困難ナルノミナラズ後屈ノ度甚ダシキモノハ其腔部時トシテハ非常ニ高ク恥骨ノ上ニ位シ爲メニ之レヲ檢知シ難キコトアリ此症ハ屢流産ヲ發シ又ハ尿閉ニヨリテ生命ノ危害ヲ生ズルコトアリ

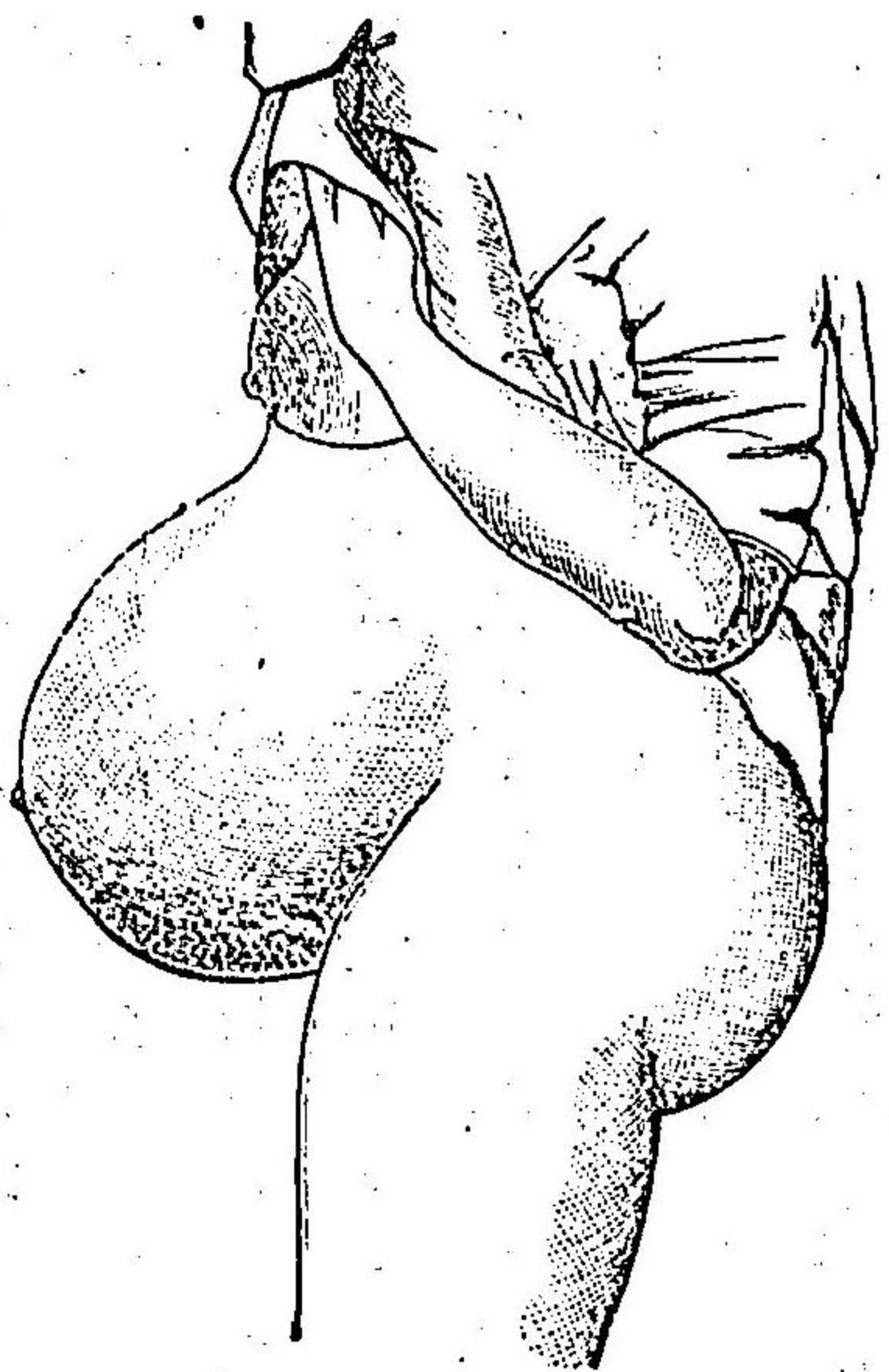
〔第四九八項〕處置 妊娠セル子宮ノ後屈シタルモノヲ認知セバ直チニ産科醫ヲ招ク可シ然レドモ其未ダ來タラザルノ間ハ妊婦尿閉ニ由リテ起ル苦痛アラバ其蓄積セル尿ヲ排泄セシムルコトヲ試ム可シ即チ妊婦ヲ膝肘位又ハ側臥トナシ而シテ示指ト中指トヲ以テ子宮頸ヲ後方ニ壓スレバ多クハ幾分カ尿ヲ漏泄ス可シ若シ之レニヨリテ目的ヲ達セザルトキハカテーテルヲ用ユ然レドモ尿道ハ壓迫セラレ其尿道口ハ上

方腔内ニ牽引セラルガ故ニ之レヲ送入スルコト甚ダ困難ナリ其他灌腸ヲ施コシ便通ヲ取ランコトヲ試ム可シ而シテ醫師ノ來診スルニ至ルマデハ患婦ヲシテ少シク其體ヲ屈セシメ伏臥又ハ側臥ニ就カシメ且ツ極メテ安靜ナラシム可シ

第百十一章 妊娠子宮ノ前轉懸垂腹

〔第四九九項〕妊娠子宮ノ前轉 腹壁弛緩シテ子宮體前方ニ傾ムキ甚ダシキハ子宮底恥骨縫際ノ下方ニ降ルコトアリ之レヲ妊娠子宮ノ前轉症トス此症ハ主ニ

第九十八圖 懸垂腹ノ圖



經産婦ニシテ骨盤狹キモノニ發ス可シ又之レヲ發スルトキハ分娩ノ際、
産出力ハ骨盤ノ後方ニ向フガ故ニ小兒ノ産出スルヲ甚ダ困難ナリトス。

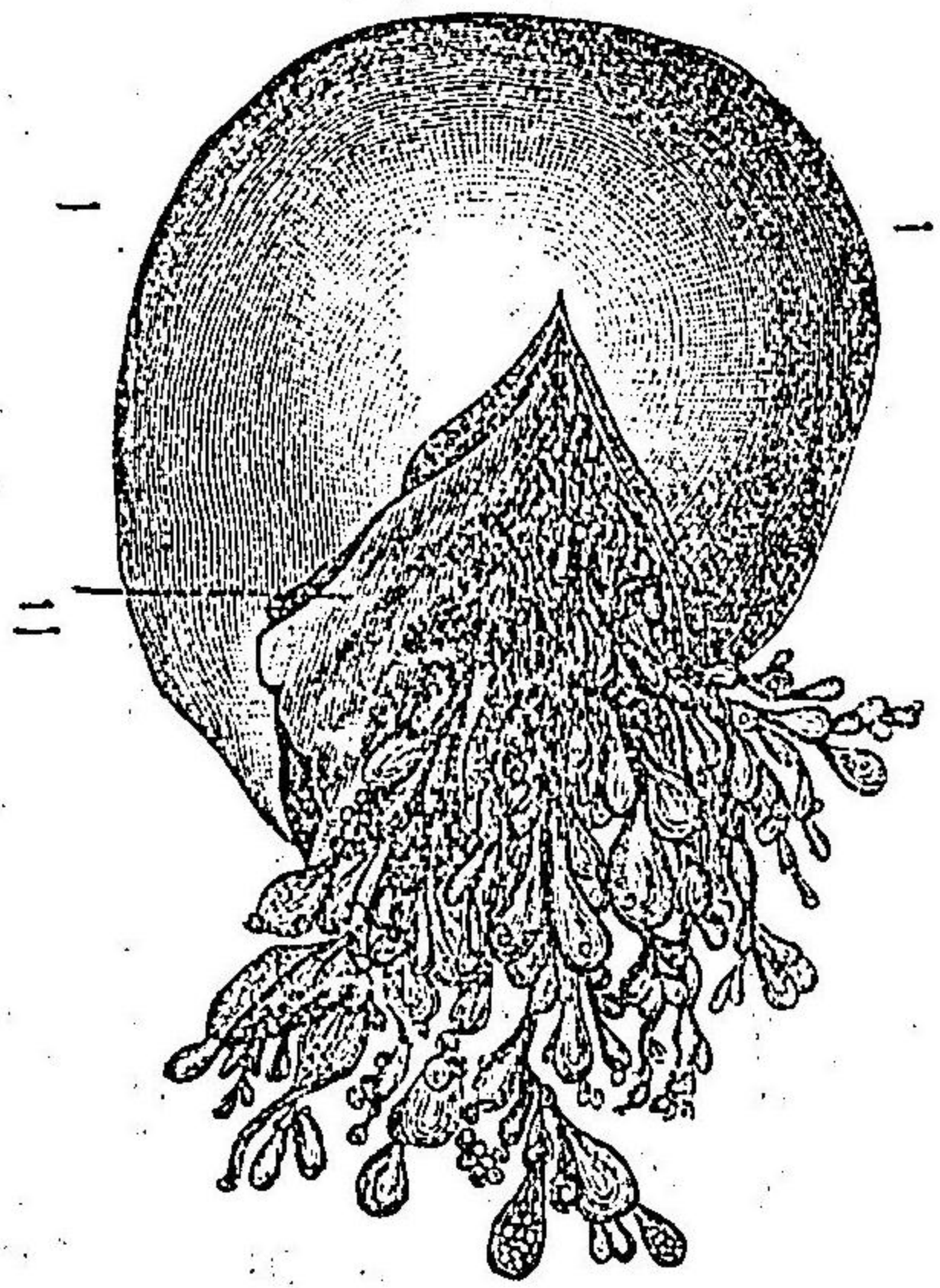
〔第五〇〇項〕處置 妊娠ノ下半期ニ至レバ殊ニ便良ノ腹帶ヲ施コ
シ子宮ノ傾斜ヲ支ヘ分娩時ニ至ラバ依然トシテ腹帶ヲ纏ヒ仰臥ノ位置
ニ就カシム可シ其他ノ處置ハ通常ノ分娩ト異ナルコトナシ困難ナル者
ハ速カニ醫治ヲ求ム可キモノトス。

第一百十二章 葡萄狀胎(胞胎)又ハ胞狀鬼胎

〔第五〇一項〕葡萄狀胎 此症ハ絨毛膜ノ疾病ニヨリ絨毛肥大シ恰
モ蠟子狀ノ水泡ヲナシ其大サ麻實大乃至蠶豆大ニシテ個々集簇シ恰モ
葡萄狀ヲ呈ス胎兒多クハ速カニ死亡シ卵膜ト共ニ消失ニ歸ス此葡萄狀
胎ハ増大スルコト甚ダ速カナルヲ以テ子宮モ亦非常ニ迅速ナル増大ヲ
ナシ極メテ稀ニハ四乃至五六週ニシテ心窩ニ達スルヲアリ而シテ第三
四ヶ月ニ至レバ水様液ヲ漏ラシ且ツ強度ノ出血ヲ呈ス(第七及ビ百八

第九十九圖

子宮壁ヲ
切割シテ
葡萄狀胎
ヲ現ハセ
ル圖



一、子宮
二、卵膜

章ヲ參看ス可シ而シテ第四五ヶ月ニ至レバ流産スルヲ常トス若シ又妊
娠ノ後半期ニ至ルモ胎兒ノ體部心音ヲ認知スルヲナク上記ノ症狀ヲ呈
スレバ略ホ葡萄狀胎ナルヲ推知ス可シ然レドモ内診ニヨリ之レヲ觸知
スルカ若クハ此胎ノ一片ヲ得ルニアラザレバ果シテ其本病タルコトヲ
確知シ能ハサルモノトス。

〔第五〇二項〕處置 出血アラバ氷罨法及ビ腔内ノ栓塞ヲ施コシ速

カニ醫治ヲ乞フ可シ。而シテ、葡萄狀胎ノ全部脱出セルガ如キモ、時トシテハ、尙ホ幾分カ遺殘シ、出血ヲ呈スルコトアルガ故ニ、善ク止血法ヲ施コスノ準備ヲナス可シ。

第一百十三章 羊膜水腫

〔第五〇三項〕羊膜水腫 此症ハ、羊水ノ非常ニ多量ナルモノヲ云フ。通例、羊水ハ千瓦乃至千五百瓦ナリト雖ドモ、二千瓦以上ニ至レバ、羊膜水腫トナス。此症ハ稀レニハ、一萬瓦以上ノ多キニ達スルコトアリ。而シテ、腹部ハ著シク膨大シ、子宮ハ圓形ヲ呈シ、著シキ波動ヲ現ハシ、胎兒ノ體部及ビ心音ヲ辨ズルコト難シ。此ノ如ク腹部ノ膨大スルガ爲メニ、妊婦ハ甚ダシク困難ヲ感ジ、而シテ、分娩ハ、數週間、早ク發スルコト多シ、又胎兒ノ移動シ易キガ爲ニ、横位、骨盤端位等ヲ現ハスコト多ク之レアリ。分娩ノ際ニハ、子宮ノ過度ニ延張セラル、ガ爲メニ陣痛微弱ヲ發シ、開口期延張シ、羊水ノ滲泄スルトキハ、四肢臍帶ノ脱出ヲ發シ易ク、後産期ニ於テハ、子宮ノ無

力性出血ヲ致スコト多キモノトス。

〔第五〇四項〕處置 適度ニ固ク腹帶ヲ施コシ、身體ヲ安靜ナラシムルトキハ、妊婦ハ輕快ヲ感ズルモノナリ。其他、分娩時ニハ醫治ヲ乞ハザル可カラズ。但シ羊水滲泄ノ際ハ、可成丈ケ陰唇ヲ閉合シ、壓迫ヲ施コシ、一噸ニ多量ヲ流出セシムルヲナク、且受水盤ヲ抵テ、羊水ヲ受納スルヲ良トス。

第一百十四章 羊水過少(羊膜糸)

〔第五〇五項〕羊水過少 前症ニ反シ、羊水著シク少量ナルモノアリ。此症ニアリテハ、羊水ノ少キガ爲メニ、胎兒ト羊膜トノ離斷スルヲ妨ゲ、胎兒ノ四肢、頭部等ヨリ、羊膜ニ、連繫セル索條即チ羊膜糸ヲ現ハス、又胎兒ハ、兔唇、其他ノ畸形ヲ呈スルヲ常トス。

第一百十五章 妊娠中、胎兒ノ死亡

〔第五〇六項〕胎兒死亡ノ原因 ニハ種々アリ、一、毒物ノ母體ヨリ

直チニ胎兒ニ移行スル者ニシテ、梅毒又ハ毒藥ニヨルモノ、二、母體熱性病ノ體温高度ナルニヨルモノ、三、臍帶血行ノ障害ニシテ、即チ甚ダシク壓迫セラル、カ又ハ緊シク纏絡若クハ轉振セルモノ、四、胎兒ノ營養不給ナルニヨルモノ、即チ母體ノ失血又ハ窒息、或ハ胎盤、卵膜及ビ子宮内膜ノ疾患等ナリ、五、死傷ニシテ、直チニ胎兒ヲ害シ、若クハ胎盤、卵膜ノ剝離ヲ生ゼシメ、爲メニ胎兒ヲ死ニ至ラシムルモノ、是レナリ。

〔第五〇七項〕死亡セル胎兒ノ變狀

妊娠中胎兒死亡スルトキ

ハ、數日間稀レニハ一二月以上ヲ經テ娩出セラレ、其死亡セル胎兒ハ軟化スルヲ常トス。而シテ、第二三ヶ月以内ノ胎兒ハ溶解シ消失ニ歸ス可キモ、其以後ノモノハ固有ノ變化ヲ呈ス。即チ其外皮ハ變色滲潤シ、水泡ヲ作り、其水泡處々ニ破開シ、表皮剝離シ、頭骨ハ甚ダシク動搖ス可ク、臍帶ハ膨腫シ、羊水ハ混濁、赤色ヲ帶ブルヲ見ル可シ。此等ノ變化ハ之レヲ發スル、甚ダシク遲速アルガ故ニ、其變狀ヲ見テ、死亡ノ期ヲ定ムルコト能ハザルヲ常トス。

時トシテ、死胎兒軟化セズシテ、乾枯縮小シ、所謂木乃伊變性ヲナシ、長ク子宮内ニ止マルヲアリ、然ルトキハ、子宮壁ノ壓迫ニヨリ、變薄シテ紙狀ヲナス。之レヲ紙狀胎兒ト云フ。此ノ如キモノハ、雙胎中ノ死セル一兒ニ之レヲ見ルコト多シ、而シテ、之レヲ發スルハ、臍帶血行ノ障害アルガ如キ場合ニ於テ、胎兒漸次ニ衰弱シ、血液、羊水共ニ減少シ、遂ニ死亡ニ歸スルノ際ニ之レアルモノトス。

〔第五〇八項〕母體ニ於ケル徵候及ビ處置

胎兒死亡スレバ、

母體ハ少シク不快ヲ感シ、倦怠、食欲缺損等ノ徵候ヲ呈スルモ、敢テ甚ダシキ害ナキ者トス。正規妊娠篇第四十一章第二百零三項參看、但シ卵膜破開スルトキハ、微菌ノ侵入ニヨリ、胎兒ハ腐敗ニ陥リ、傳染症ヲ發シ、母體ノ危険ヲ致スモノトス。微菌ニ因スル胎兒ノ死亡ハ、通例第六七ヶ月ヲ以テ發シ、同一ノ妊婦ニ數回反覆シテ之レヲ現ハスモノトス。第五二四項參照、故ニ妊婦ニ就キ、梅毒ヲ有スルノ疑アラバ、速カニ醫治ヲ受ケシムルヲ要ス。

第一百十六章 流産早産ノ區別並ニ其原因

第五〇項 流産及ビ早産ノ區別 流産トハ胎兒ノ未ダ子宮外ニ生活シ得ザルノ時期即チ滿七ヶ月以前ニ分娩スルヲ云ヒ早産トハ滿七ヶ月以後十ヶ月以前即通例滿三十八週以前ニ娩出セラルハ云フ

第五一〇項 流産及ビ早産ノ原因 流産及ビ早産ハ其ニ同一ノ原因ヨリ之レヲ發ス而シテ其原因ニ二種アリ一胎兒ノ死亡ニヨルモノ二母體並ニ胎兒ノ疾患ニ基クモノ是レナリ其

第一種 胎兒ノ死亡 ハ既ニ前章中ニ説述セリ就テ見ル可シ

第五一一項 第二種 母體並ニ胎兒ノ疾患 ハ更ニ之レヲ四種ニ小分ス可シ一母體ノ梅毒重症疾患即チ熱性病大失血等ナリ就中熱性病ハ小兒ノ死ヲ致スコトアレドモ亦死ニ至ラズシテ早期ニ産出スルコトアリ二子宮後屈卵巢囊腫等ニシテ子宮ノ増大ヲ障害スルモノ三精神感動外傷墮胎藥強劇ノ下劑過劇ノ交接冷水浴脚浴等ノ如キ障害ニ卵

膜若クハ子宮壁質ノ異常即チ子宮内膜炎羊膜水腫双胎等はレナリ

第一百七七章 流産ノ症狀及ビ處置

第五一二項 流産ヲ二期ニ區別ス 流産ハ第四ヶ月以前即チ胎盤完成前ト完成後トニヨリ症狀ニ大ナル差異アリ故ニ胎盤完成ノ前後ニヨリテ之レヲ二期ニ分ツヲ良トス即チ胎盤完成前ニハ分娩時ニ著シク出血シ完成後ニ於テハ正規分娩ニ於ケルガ如ク後産々出ノ際ニアラザレバ出血セザルモノトス

第五一三項 流産第一期ノ症狀 妊娠ノ初メ數週ニシテ流産スルモノ頗ル多シ然レドモ其狀甚ダ月經ニ似タルヲ以テ妊婦ハ之レヲ疼痛アル多量ノ月經トナスモノ少カラズ第二三ヶ月ノ間ニ於テハ流産ノ症狀頗ル著シク産婦ハ陣痛ヲ發シ脱落膜ハ子宮内面ヨリ剝離シ甚ダシキ出血ヲ呈ス此出血ハ第一期ノ流産ニ最モ固有ナルモノナリ而シテ初メ三ヶ月内ニ於テハ卵多クハ破ルコトナクシテ産出シ其以後ニ在リ

テハ、破レザルコト稀ナリ。卵若シ破裂スルトキハ、先ヅ容易ク胎兒ヲ産出セシメ、後産ハ最後ニ排出セラレ、而シテ、此ノ如ク卵ノ破ル、トキハ後産ノ殘片、多クハ子宮内ニ遺殘シ、之レヲ抽出スルニアラザレバ、産出セザルコト多シ。且ツ、若シ後産ノ殘片、子宮内ニ存スルトキハ、危險ノ後出血ヲ現ハシ、或ハ子宮内ニ腐敗ヲ醸シ、産熱ノ如キ熱症ヲ來スコトアリ。

流産ノ出血

ハ一様ナラズ、或ハ初メ僅少ニシテ、徐々ニ増加シ、一二週ノ久シキニ亘ルモノアリ、或ハ初メヨリ強度ニシテ、大ニ凝血ヲ混ジ、且ツ劇シキ腰痛若クハ陣痛ヲ伴フコトアリ、而シテ、其出血ノ多量ナルモノハ、間々、母體ヲ危ラスルニ至ル。

流産ハ停止スルコトアリ

即チ強度ノ出血、疼痛ヲ發シ、確カニ流産ノ初徴ヲ現ハセルモノト雖トモ、暫クニシテ止ミ、爾後、其妊娠ヲ全フスルコトナキニアラズ、殊ニ適當ノ治方ヲ施コセルモノヲ然リトス。

「第五一四項」第一期流産處置ノ要領

流産ノ症狀甚ダシカラザルトキハ、先ヅ流産ヲ停止セシメンコトヲ務ム可シ。即チ身體ヲ極メテ安

靜ナラシメ、飲食物ハ、寒冷ニシテ刺激ナキモノヲ與ヘ、四五日間、臥床ニ就カシム。若シ又、出血強度ニシテ陣痛ヲ現ハシ、停止シ難キモノニハ、速カニ醫治ヲ求メ、其間、二%ノ冷石炭酸水ヲ腔内ニ灌注シテ、内検査ヲ施シ、子宮口及ビ卵ノ状態ヲ檢シ、石炭酸水ヲ蘸セル綿花タンポンヲ固ク腔内ニ挿入シ、以テ出血ヲ止メシメ、下腹ニハ氷嚢ヲ貼シ、貧血ニヨリテ、血暈ヲ現サントスルモノニハ、葡萄酒等ノ興奮劑ヲ與ヘ、四肢ヲ温暖ナラシメ、醫師ノ來診ヲ待ツ可シ。卵、既ニ排出セルモノハ、之レヲ貯ヒテ醫師ノ検査ニ供セザル可カラズ。其他、流産後ハ、八日間、安靜ニ臥セシムルヲ要ス。更ニ次ノ四項ニ於テ、細目ニ亘リ、稍詳ラカニ之レヲ説述スベシ。

「第五一五項」妊婦若シ少量又ハ中等量ノ出血ヲ發セバ

安靜ニ平臥セシメ、飲食、便通時ニモ起坐セシムルコトナク、下腹ニ冷罨法ヲ施コシ、飲食物、等ハ必ズ寒冷ナルモノヲ與ヘ、小兒又ハ訪問者ハ可及的之レヲ避ケシメ、且ツ總テノ感動ヲ遠クルヲ要ス。其出血少量ニシテ、忽チ止ムモノト雖ドモ、可及的醫治ヲ求メシムルヲ要ス。而シテ、爾後

八日間ハ臥床ニ就カシメ善ク之レヲ安靜ナラシム可シ若シ之レニ反シ。

出血強度ナルカ若シクハ長ク持續スルトキハ十分ニ消毒法ヲ施コシ精密ニ検査ヲ行ヒ且ツ速カニ醫師ヲ聘ス可シ而シテ内検査ノ際ニハ子宮大ニシテ柔軟ナルカ子宮口弛緩セルカ其口内ニハ指ヲ挿入シ得ルカヲ検査シ若シ指ヲ挿入シ得ルトキハ卵ノ部分ヲ觸知シ得ルヤ否ヤヲ確メザル可カラズ且ツ此間衣服敷布等ヲ検査シ出血ノ多少血液ノ凝固若クハ流動セルヤ及ビ血液中ニ卵ヲ發見シ得ザルヤヲ検査ス可シ此ノ如クニシテ出血甚ダシカラザルトキハ醫師ノ來診ヲ待ツ可シ。

〔第五一六項〕若シ出血劇シク妊婦ハ甚ダシキ貧血ニ陥ルノ恐アルトキハ下腹ニ冷罌法ヲ施コシ攝氏十五度乃至二十度ノ二%石炭酸水ヲ以テ腔内ニ灌注シ尙ホ止血セザル者ハ數箇ノ綿花タンポンヲ取り石炭酸水ニ浸シテ絞搾シ腔内ニ送入シ緊シク之レヲ子宮口ニ壓抵ス可シ(第六三一項參照)卵未ダ排出セザルノ間ハ出血ノ爲メニ熱灌注法ヲ行フ可カラズ此ノタンポンハ醫師ノ到レル際除去ス可キモ若シ送入後十二時間ヲ經レバ産婆自ラ之レヲ除去シ石炭酸水ノ灌注ヲ行ヒ尙ホ出血アラバ再ビ之レヲ送入スルヲ要ス之レニ反シタンポンヲ除去セルノ際既ニ止血セルモノニ在リテハ其必要アルニ至ルマデ再ビ送入スルヲ要セズ。

〔第五一七項〕産出セル卵 タンポンヲ除去スルノ際卵ハ既ニ子宮内ヲ出デタンポンノ上ニ存スルヲアリ此ノ如キモノハ之レヲ採リ收メテ水中ニ貯ヘ醫師ノ検査ニ供ス可シ又卵ハ凝血中ニ包圍セラレ直チニ認識シ難キヲアルガ故ニ注意センヲ要ス或ハ卵既ニ變化シ胎兒消失ニ歸シ或ハ血塊肉塊等ヲナシ産出スルヲモ亦之レアリ而シテ血塊トハ血液ノ堅ク凝固セルモノニシテ肉塊トハ血塊ノ色素ヲ失ヘルモノヲ云フ。

〔第五一八項〕卵既ニ排出セルノ後尙ホ出血スルハ後

産。殘片ノ遺存セルニヨルガ故ニ、醫師ノ來ラザルトキハ、腔内灌注法ヲ施コシ、前ニ記セルガ如ク、タンポンヲ送入スベシ。貧血シテ虛脱ヲ發セントスルモノニハ、葡萄酒又ハホフマン液(每一回一〇)ヲ與ヘ、四肢ヲ温暖ナラシム可シ。卵、全ク排出セラレトキハ、出血セザルヲ常トス。流産後ハ、八日間平臥セシメ、通常ノ産褥ニ於ケルガ如ク處置ス可シ。

〔第五一九項〕流産第二期ノ症状及ビ處置

此症状及ビ處置ハ、早産ニ異ナルコトナキガ故ニ、次章ニ於テ之レヲ併セ説ク可シ。

第一百十八章 第二期ノ流産並ニ早産ノ症状及ビ處置

〔第五二〇項〕第二期ノ流産並ニ早産ノ症状

即チ第五ケ月乃至第十ケ月前ノ分娩ニアリテハ、漸次ニ正規ノ分娩ニ類シ、小兒ノ産出前ニ出血スルコトナキヲ常トス。而シテ、小兒ハ、既ニ分娩中ニ死亡シ、若シ

クハ生活シテ娩出セラル。但シ分娩後生活ヲ保續スルニハ、概シテ、三十週以後ニシテ、體重ハ一千五百瓦ニ達セザル可カラズ。而シテ、分娩ニ際シ、第五六ケ月ノモノハ、其胎兒卵膜ヲ被ムリテ胎盤ト共ニ産出スルコト屢之レアリ。若シ又胎盤子宮内ニ殘レルモノニ在リテハ、剝離シ難キコトナキニアラス。

〔第五二一項〕處置

ハ概シテ正規ノ分娩ニ從フ可シ。卵膜ノ遺殘セルモノハ、醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第一百十九章 子宮外妊娠

〔第五二二項〕子宮外妊娠トハ

胎兒ノ喇叭管、卵巢若クハ腹腔内ニ占居シテ發育スルヲ云フ。故ニ、子宮外妊娠ヲ喇叭管妊娠、卵巢妊娠及ビ腹腔妊娠ノ三種ニ區別ス。此ノ如ク卵ノ子宮外ニ發育スルコトアルハ、精虫ノ喇叭管ヲ通り、卵巢ニ至ルマデ進入シ得ルニヨルモノナリ。而シテ、若シ喇叭管ノ屈曲狹窄等アリテ受胎セル卵、子宮内ニ到ルヲ妨害セラ

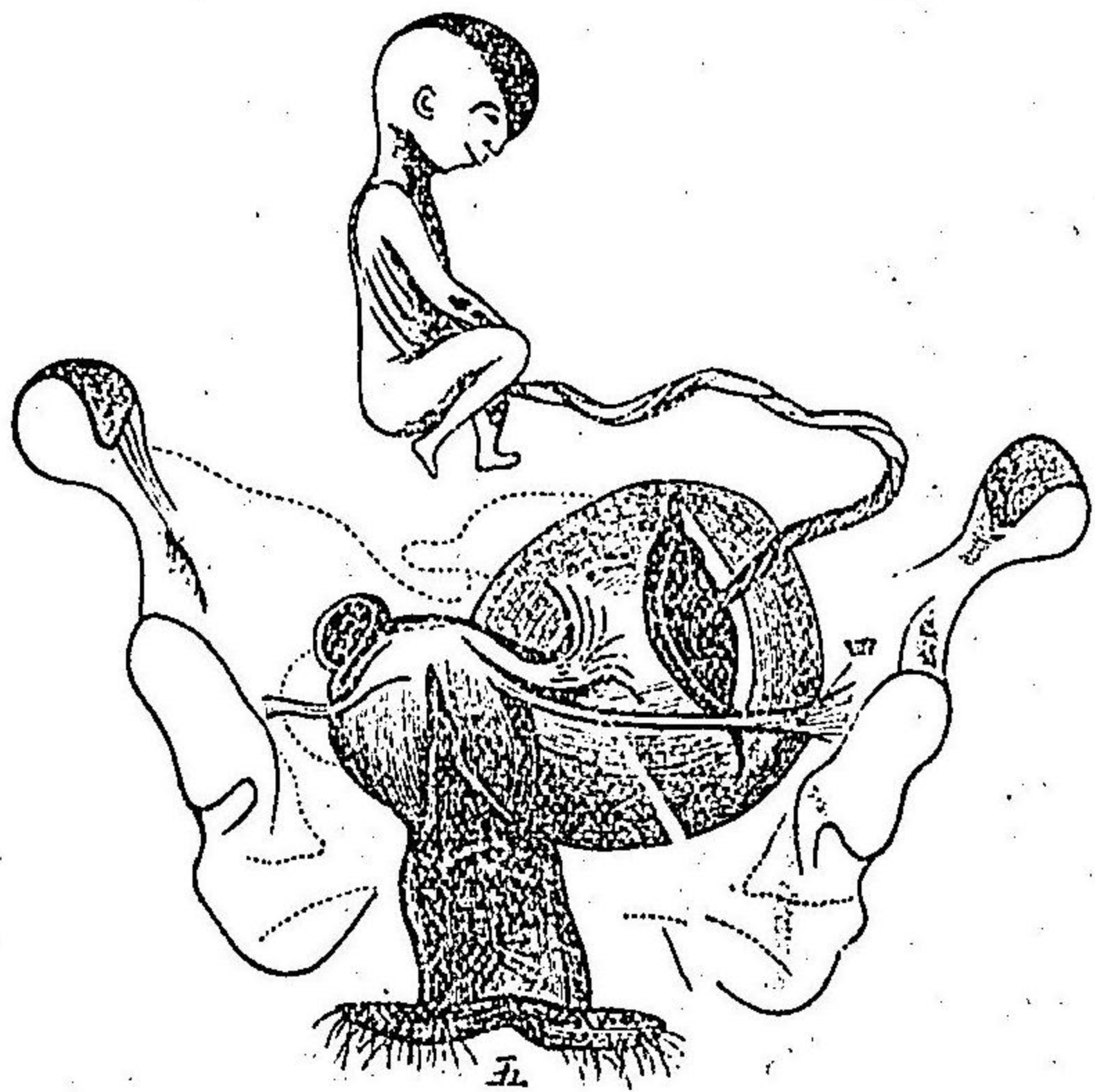
ル、時ハ此ノ異常ノ妊娠ヲ現ハス可シ。○而シテ此妊娠ニ於テハ胎兒ノ占居セル部分ニハ、脱落膜及ビ胎盤ヲ生ジ、子宮ハ増大シ、同ジク脱落膜ヲ生ズ可シ。此妊娠中、喇叭管妊娠ヲ最モ多シトス。

〔第五二二項〕子宮外妊娠ノ徵候 子宮外妊娠ハ、正規ノ妊娠ニ

於ケルガ如ク、月經閉止シ、消化器、神経系、乳房ニ固有ノ妊娠徵候ヲ呈シ、初メ子宮ハ漸次ニ増大シ柔軟トナリ、殆ント通常ノ妊娠ト區別ス可カラズ。然レモ下腹ニ不快ヲ覺エ、時々劇烈ノ腹痛發作ヲ現ハシ、熱候ヲ兼發ス可シ。或ハ不規則ノ子宮出血ヲ來シ、子宮内ニ存セル脱落膜ハ、第四ヶ月ヲ出デズシテ排出セラル、ト多ク之レアリ。

喇叭管妊娠ナルトキハ、其卵囊、小ニシテ延張シ難キガ爲メ、通例、第三四ヶ月ニシテ破裂スト雖ドモ、若シ卵巢又ハ腹腔内ノ妊娠ナルトキハ、妊娠ノ末期ニ達スルト多シ。此ノ如キ者ニアリテハ、胎兒ノ體部ヲ觸ル、ト明カニシテ、心音ハ容易ク聴取セラル。而シテ、妊娠末期ニ至ルモ固ヨリ産出ノ路ナク、且ツ胎兒ハ死ニ歸スルヲ常トス。此際、子宮ハ收縮ヲ發シ、存在セル

第 百 第
卵囊ヲ切 喇叭管ノ開シ
喇叭管ノ第四ヶ月ノ胎兒ヲ抽出シテ之レヲ示ス



- 一、子宮
- 二、喇叭管妊娠ノ囊
- 三、喇叭管ノ内端
- 四、剝離シテ左右ニ開張シ示セル面
- 五、外陰部

脱落膜ハ、産出セララル、ニ至ル。
〔第五二四項〕子宮外妊娠ノ經過

一 胎兒早ク死亡セルトキハ、

卵ノ發育停止シ、胎兒ハ其附屬物ト共ニ溶解吸收セラレ、消失ニ歸スルモノトス。

三、卵囊破裂スル時ハ、卒然トシテ劇痛ヲ發シ、胎兒ハ腹腔内ニ出デ血液、盛ンニ腹腔内ニ流出シ、所謂内出血ヲ呈スルガ故ニ、母體ハ急性貧血ヲ發シ、數時間ニシテ死ニ至ル。或ハ其卵囊、扁韌帶内若クハ腹膜ノ癒着セル囊腔内ニ破裂スルトキハ、出血ヲ呈スルモ、限局セル部内ニ滞留スルガ故ニ、其量甚ダシキニ至ラズシテ、死ヲ免ル可シ。此ノ如キ溜血ハ、腫瘍狀ヲナシテ、現ハル、モノナリ。——急性貧血トハ、患婦、非常ニ脱力シ、顔貌甚ダシク蒼白トナリ、脈細小頻數ニシテ、全身厥冷、冷汗ヲ流シ、甚ダシキハ、速カニ死ニ歸スルニ至ルモノトス。尙ホ第六編異常分娩、第六十四章ヲ參看ス可シ。

三、妊娠末期ニ達シ、卵若シ破裂セズシテ、胎兒死ニ陥ルトキハ、乾固、化石、胎兒トナリ、毫モ障害ヲ現ハスコナク、永ク體內ニ存スルコアリ。或ハ胎兒死亡ノ後、化膿ニ陥リ、母體モ亦爲メニ死ヲ致シ、或ハ幸ヒニ膀胱腸

管、腫若クハ腹壁ニ向ツテ破開シ、膿汁及ビ骨片、其他胎兒ノ遺殘物ヲ排泄シテ、治癒ニ赴クコアリ。

第五二五項處置

子宮外妊娠ハ、稀ニシテ、診斷モ亦甚ダ容易ナラズ。

而シテ、甚ダシク危險ナルモノナルガ故ニ、此妊娠ノ疑アル妊婦ハ、速カニ醫師ニ託セザル可カラズ。而シテ、速カニ卵囊ノ破裂ヲ發シ、醫師ノ未ダ到ラザルトキハ、安靜ニ臥セシメ、下腹ニ十分ノ氷罌法ヲ施コシ、四肢ヲ溫暖ナラシメ、葡萄酒、ブランデー、濃珈琲等ヲ與ヘ、ホフマン液ヲ服用セシムルガ如キ急性貧血ノ處置(第六十四章參照)ヲ施コス可シ。●卵囊ノ破裂ヲ生ゼザルニ當リ、醫師ノ許ニ送ルトキハ、其狀況ニヨリ、醫師ハ腹壁ヲ切開シ、胎兒又ハ卵囊ヲ除去シ、或ハ藥液ヲ胎兒ノ體中ニ注入シ、之レヲ治療ス可シ。

○產婆學講本第五篇附錄

第一百二十章 花柳病

〔第五二六項〕花柳病 トハ、專ラ花流社會ニ行ハル、傳染性疾患ヲ稱スルモノニシテ、之レヲ三種ニ區別ス可シ。即チ「梅毒」或ハ「微毒」ニ淋疾、或ハ淋病「三軟性下疳」是レナリ。次ノ第一百二十一章乃至第一百二十三章ニ於テ、之レヲ詳説ス可シ。

第一百二十一章 梅毒(微毒)

〔第五二七項〕原因 梅毒ノ病原ハ、現今尙ホ未ダ明確ニ檢知セラレザル。一種ノ「微有機體」ニ基ヅクモノニシテ、其「病毒」ハ、陰部ヨリ陰部ニ傳ヘ、又ハ授乳、接吻等ニヨリテ、口若シクハ乳房ニ傳染スル「アリ」而シテ、皮膚、粘膜ノ健全ナルトキハ、感染シ難シト雖ドモ、若シ「損傷」ノ存スルトキハ、大ニ「病毒」ヲシテ侵入シ易カラシムルモノトス。

又、父母ニ梅毒アルトキハ、其「病毒」ヲ胎兒ニ傳ヘ、胎兒ハ、既ニ胎生中ニ發病シ、若シクハ生後始メテ病候ヲ現ハスモノトス。此種ノ梅毒ヲ「遺傳梅毒」又ハ「先天梅毒」ト稱ス。

〔第五二八項〕症候「一」梅毒ハ、時期ニヨリ、其發症ヲ異ニスルガ故ニ、其症狀ニヨリ、之レヲ三期ニ區別ス。即チ梅毒ノ第一期、第二期及ビ第三期是レナリ。

〔二〕第一期梅毒 トハ、病毒ヲ感受セルヨリ、凡ソ二十五日ノ潜伏期ヲ經、其局部ニ於テ、多クハ「硬結」ヲ生ジ、潰瘍ヲ現ハシ、所謂「硬性下疳」ヲナシ、次デ「連續部」ノ「水脈腺」ニ「腫脹」ヲ呈スルニ至ルノ時期ヲ云フ。而シテ、此水脈腺ノ「腫脹」ハ、鼠蹊部ニ現ハル、一最モ多ク、横痃、又ハ「便毒」ト稱セラル、モノ、即チ是レナリ。

〔三〕第二期梅毒 ハ、第一期ノ症候ヲ見タルノ後チ、大凡六週間ヲ經過シ、現ハル、モノニシテ、皮膚、粘膜ニ「諸種」ノ發疹、又ハ「糜爛」ヲ生ジ、筋肉、骨膜、關節等ニ「炎性刺激」(腫脹、疼痛等)ヲ呈スルモノトス。

三三期梅毒 二期症ヲ現ハセルノ後チ長短不定ノ年月ヲ以テ隱顯スルモノニシテ骨内臟筋肉五官器等ニ或ハ腫瘍(護謨腫)ヲ造リ或ハ化膿ヲ營ミ或ハ潰瘍ヲ形成ス可ク組織ヲ荒蕪スルヲ甚ダシク其重症ナルハ爲メニ生命ヲ喪ハシムルニ至ルモノトス。

第五二九項 梅毒ノ遺傳 梅毒ハ當ニ患者自身ヲ害スルノミナラズ其父母ノ何レニ存スルヲ問ハズ之レヲ其兒ニ傳ヘ或ハ流産早産ヲ致シ或ハ病兒ヲ産ジ或ハ生後ニ病毒ヲ現ハスガ如キ各種ノ害毒ヲ致スモノトス而シテ父母ノ梅毒ハ俱ニ同一ニ其兒ニ遺傳シ得ルモノニシテ殊ニ父ノ病毒ハ時トシテ其母ニ感染セシムルヲナク單ニ小兒ニノミ之レヲ傳フルヲアリ又梅毒ノ遺傳性ハ其病毒ノ陳舊ナルニ從ヒ漸次減少スルモノナルガ故ニ遺傳梅毒ノ胎兒ハ最初ハ六七ヶ月ニシテ流産シ次ニハ八九ヶ月ニシテ死産シ其後ハ著シキ病候アル生兒ヲ産シ分娩後幾バクモナクシテ死亡シ更ニ之レニ次ギテ虛弱ナル小兒ヲ産シ適當ノ治療ト養育法ニヨリテ生育シ得ルニ至ル者トス。

但シ其遺傳性ノ滅却ヲ現ハサズシテ數回反復シ第六七ヶ月ニ流産シ所謂常習性流産ヲナスコトモ亦多ク之レアリ。此他小兒ノ梅毒症狀ニ就キテハ第七編初生兒ノ疾患中ニ之レヲ説述ス可シ。

第五三〇項 處置 梅毒ニハ病毒ニ對シ特殊ノ奏効アル特效藥ノ存スルガ故ニ速カニ治療ヲ加フルトキハ確實ニ治癒セシムルコトヲ得ルモノナリ但シ治療法ニヨリ外部ノ發症治癒セルモ病毒ハ尙ホ血液若クハ諸臟器ノ深部ニ潜伏シ存シ所謂潜伏梅毒ヲナスガ故ニ長ク持續シテ治方ヲ施コシ十分ニ病毒ヲ驅除セザル可カラザルモノトス此餘治療ノ詳細ニ至リテハ固ヨリ醫治ニ委ヌ可キモノトス。

第二百二十二章 淋疾

第五三一項 原因 淋疾ハ淋毒菌ナル微菌ノ傳染ニヨリ發スルモノニシテ好デ尿道ニ發病スト雖ドモ亦善ク外陰部膀胱腫子宮腹膜若シクハ眼ノ結膜ニ感染シ各特殊ノ疾患ヲ現ハスモノトス之レヲ次ノ

六項ニ説述ス可シ。

〔第五三二項〕尿道カタル及ビ膀胱カタル 病毒尿道ニ附着スルトキハ尿道加答兒トナリ、排尿時ノ灼痛、尿意頻數ヲ訴ヘ、膿汁ヲ漏ラシ、時トシテハ出血ヲ見ルコトアリ、而シテ病機容易ニ膀胱内ニ入り、膀胱加答兒ヲ致スコト甚ダ多シ、而シテ膀胱加答兒ヲ發スルトキハ尿意頻數、灼熱、疼痛、恥骨縫際部ノ疼痛著シク増劇シ、尿ハ混濁シ、壓出血ヲ呈スルコトアリ、而シテ尿道出血ナルトキハ、排尿ノ終リニ血液ヲ出スヲ以テ異ナリトス。●婦人ニ於ケル尿道及ビ膀胱ノ加答兒ハ、俗ニ之レヲ消渴ト稱フ。

處置 ハ安靜ニシテ、無刺戟性ノ食餌ヲ與ヘ、膀胱部ニ濕布療法ヲ施コシ、他ハ醫治ヲ請フ可シ。

〔第五三三項〕外陰部炎症(陰門炎) 大小陰唇著シク浮腫シ、膿汁ヲ被ムリ、知覺過敏、灼熱ヲ感ジ、處々ニ表皮ノ剝脫面ヲ呈ス。處置 二%石炭酸水ヲ以テ洗滌シ、清潔ナラシメ、且ツ速カニ醫治ヲ

求ム可シ。

〔第五三四項〕腫加答兒 在リテハ、腫粘膜赤色ニシテ、腫脹シ、灼熱疼痛ヲ感ジ、其疼痛ハ間々劇烈ニシテ、之レニ觸ル、コト能ハザルモノアリ、而シテ粘膜面ニハ、濾胞ノ腫脹ニヨリテ、砂粒ヲ撒布セルガ如キ狀ヲ呈シ、又多量ノ膿樣分泌物ヲ現ハス。●分娩ノ際、此ノ分泌物、兒ノ眼中ニ入ルトキハ、危險ナル初生兒眼炎ヲ惹起シ、自己又ハ他人ノ眼中ニ此分泌物ヲ附着セシムルモ亦、同ジク恐ル可キ膿性ノ眼炎ヲ致スモノトス。

〔第五三五項〕子宮内膜炎 ヲ發スルトキハ、通例、慢性症トナリ、殆ント自カラ治癒スルコトナシ、即チ其症狀ハ、膿性ノ分泌物ヲ出シ、間々出血シ、骨盤内ニハ、壓重疼痛ヲ感ジ、月經時ニ在リテハ、其疼痛著シク増劇シ、月經ハ不規則トナリ、數潮來シ、其期日、延張スルヲ見ル可シ、又他部ニ反射症狀ヲ呈シ、胃部疼痛、食欲不進、頭痛、精神壓抑等ヲ來スモノトス。其他、最モ多ク不妊症ノ原因ヲナシ、且ツ、妊娠スルモ、流産、早産、前置胎盤

等ノ異常ヲ招來スルヲ甚ダ多シ。

〔第五三六項〕骨盤腹膜炎子宮外膜炎

ハ通例淋毒ノ喇叭管

ヲ經骨盤腹膜炎ニ達スルニヨリテ生ジ子宮内膜炎ニ固有ナル各種ノ症
狀ヲ現ハシ且ツ腹膜炎ノ炎症及ビ癒着ニヨリ歩行又ハ按壓ニヨリ下腹
疼痛腰痛腸痛月經時ノ劇甚ナル腹痛ヲ來ス可シ又子宮ハ諸種ノ方向
ニ癒着シ偏倚スト雖下モ後轉若クハ後屈ヲ致スト最モ多シ。子宮外
膜炎ヲ患フルモノニシテ妊娠スルトキハ著シキ妊娠性嘔吐ヲ現ハシ
時トシテハ流產ヲ致スモノトス。

〔第五三七項〕淋毒性結膜炎膿漏性結膜炎

眼ノ結膜ハ甚

ダシク淋毒ニ侵襲セラレハノ性ヲ有スルモノニシテ本症ヲ發スルト
キハ結膜及ビ眼險甚ダシク腫脹シ多量ノ膿汁ヲ出シ大人ニ在リテハ
疼痛劇甚ニシテ多クハ失明ヲ免ル。一能ハズ俗ニ此症ヲ名ケテ風眼
ト稱フ。而シテ此淋毒性結膜炎ナルモノハ年齡ノ加ハルニ從ヒ著シク
危險ノ度ヲ甚ダシカラシムルモノニシテ初生兒ナルトキハ大ニ治癒

シ易キモノトス。初生兒ノ淋毒性結膜炎ハ初生兒眼炎又ハ初生兒膿漏
ト稱シ產婆學ニ於テハ甚ダ緊要ナルモノトス。故ニ第七編初生兒ノ疾
患中ニ於テ更ニ之レヲ詳説ス可シ。

第一百二十三章 軟性下疳

〔第五三八項〕軟性下疳

ハ陰部ニ其病毒ヲ傳染セシムルニヨリ

發病スルモノニシテ感染後二日若クハ三日ニシテ潰瘍ヲ形成シ其面
ニ汚穢黃色ノ被覆物ヲ附着セシメ多量ノ膿汁ヲ漏ラヌ時トシテハ痂
皮ヲ形成スルコトアリ而シテ此潰瘍ハ漸次ニ周圍ニ蔓延シ其大イザ
最初ノ三四倍ニ達ス可シ。此下疳ハ梅毒ニ於ケル硬性下疳ト異ニシテ
硬固ノ性ヲ有スルコトナシ又軟性下疳ハ其膿汁ノ附着ニヨリ近部ニ同
一ノ潰瘍ヲ生ジ外陰部肛門ノ周圍等同時ニ數箇ノ潰瘍ヲ現ハスコト
アリ。此軟性下疳ノ潰瘍ハ一二週若クハ三四週ヲ經レバ自カラ治癒
ノ機ヲ生ジ其周縁ヨリ癩痕ヲ形成シ數日ニシテ癒合スルモノトス。

第二百二十四章 脚氣

〔第五三九項〕脚氣ハ 東洋諸國ニノミ主ニ存スル所ノ疾患ニシテ、妊婦及ビ孱婦ハ、殊ニ此病ニ侵サレ易ク、且ツ病勢動モスレバ險惡ニ傾キ、著シク治癒シ難キノ性ヲ有ス。其他此患者ノ乳汁ヲ小兒ニ飲マシムルトキハ、其小兒ハ、乳汁中ニ分泌セラレタル脚氣毒ニヨリ、所謂乳兒脚氣症ヲ發スルヲ常トス。——乳兒脚氣症ハ、第九十四章ニ於テ別論ス可シ。

〔第五四〇項〕原因 脚氣ハ主トシテ米飯ヲ食スルモノニ之レヲ發ス。而シテ、其原因ハ未ダ明カナラズト雖ドモ、恐ラクバ一種ノ微生物體微菌ナルカ、若クハ原始蟲ナルカ、固ヨリ未ダ明カナラズアリテ人ノ腸内ニ侵入シ、好ンデ其内ニ存スル米質中ニ繁殖シ、盛ンニ毒質(脚氣毒)ヲ醸生シ、其毒質血中ニ吸收セラレ、以テ、脚氣症ヲ呈スルモノナル可シ。而シテ便秘アルトキハ、脚氣毒ノ排泄ヲ妨ゲ、其吸收ヲ催進セラレ、

ガ故ニ、症狀著シク増進ス。又貧血ナルトキハ、脚氣症ヲ現ハスヲ、殊ニ現著ナルモノトス。○又脚氣症狀ハ、一種ノ變敗セル米ヲ食スルニヨリテ、之レヲ現ハスヲアリトス。

〔第五四一項〕症狀 脚氣症ヲ發スルトキハ、身體倦怠、心悸亢進シ、下脚殊ニ疲倦シ、物ニ躓キ易ク、腓腸部ヲ把握スレバ、筋肉疼痛ヲ訴ヘ、膝蓋ノ腱反射多クハ消失スルヲ見ル。知覺麻痺ハ、脛ノ内側、外側、大腿ノ内側、下腹、指端ノ掌面、口唇、舌尖等ニ現ハレ、水腫ハ大抵之レヲ現ハシ、初メハ、脛骨ノ内面、足背等ニ生ジ、甚ダシキハ、顔面、上肢、其他、全身ニ蔓延ス可シ。運動麻痺ハ、殊ニ下脚ニ於テ著シク、全ク足部ヲ動かスヲ能ハザルニ至リ、遂ニ腓腸部ノ筋肉短縮シ、萎縮ニ陥リ、長ク歩行シ能ハザルモノアリ。●重症ナルモノハ、全身ノ筋肉多クハ麻痺シ、且ツ頗ル疼痛ヲ訴ヘ、尿利減少、水腫益加ハリ、呼吸促進、心下甚ダシク苦悶シ、嘔吐ヲ現ハシ、食欲全ク缺乏シ、終ニ衰弱ヲ以テ斃ル、モノアリ。

脚氣衝心 ト名クル者アリ、即チ横隔膜ノ急性麻痺ニシテ、呼吸ノ作

用忽チ不能トナリ、呼吸大ニ促迫シ、心悸充進シテ、胸壁躍ルガ如ク、胸内甚ダシク苦悶シ、口唇、顔面四肢ニ青紫色(チアノーゼ)ヲ現ハシ、其強劇ナルモノハ、脈搏漸次ニ減衰シ、數時間ノ後チ、心臟麻痺ヲ以テ、死ニ陥ルモノトス。

乳兒脚氣症 ニ就テハ、第七篇初生兒ノ疾患中ニ之レヲ説可シ。

〔第五四二項〕處置 本症ヲ豫防スルヲ以テ緊要ナリトス。即チ土地

高燥ニシテ、空氣及ビ水ノ清潔ナル地方ニ住シ、適宜ノ運動ヲナシ、滋養性ノ食餌ヲ取り、便通ヲ佳良ナラシムルヲ要ス。市街又ハ、脚氣症ノ流行地ニ在リテ、本症ヲ豫防センニハ、攝生ニ注意シ、全然、日本食ヲ廢シ、洋食ヲ取ルカ、又ハ、麥飯(麥三、米七、乃至、麥五、米五ノ割合)ヲ喫シ、運動及ビ便通ヲ十分ナラシム可シ。

既ニ本病ヲ發スレバ、速カニ醫治ヲ求メンコトヲ要ス。授乳セル婦人ニシテ脚氣症ヲ患フルモノハ、其症ノ輕重ヲ問ハズ、直チニ授乳ヲ禁ズルヲ良トス。時トシテハ、極メテ輕症ノ脚氣患者ニシテ、其乳兒ニ危險ノ乳兒

脚氣症ヲ發セシムルコトアリトス。○又脚氣症ハ良好ノ土地ニ轉地スルトキハ、醫療ヲ加ヘズシテ治癒スルコトアリ。

第六篇 異常分娩及其取扱法

第二百二十五章 誘導篇

〔第五四三項〕分娩ノ異常 ハ産出力産道及ビ胎位ノ正規ナラザルニヨリ(第三篇第四十五章参照)若シクハ臍帶胎盤ノ異常胎兒ノ畸形及ビ分娩時ニ發スル損傷疾病ニヨリテ之レヲ致スモノトス。次ノ各章ニ於テ順次ニ之レヲ説明ス可シ。

第二百二十六章 陣痛微弱

〔第五四四項〕陣痛微弱トハ 子宮ノ收縮スルコト弱ク且ツ短クク其休憩時延長シ分娩甚ダ遅延スルカ若クハ産機全ク停止スルモノヲ云フ。

〔第五四五項〕陣痛微弱ノ原因 陣痛微弱ノ原因ハ二種ニ大別スルヲ得ベシ。即チ初メヨリ微弱ナルモノ及ビ他ノ事情ニヨリ中ゴロ之レ

ヲ發スルモノ是レナリ而シテ其中更ニ小別アルコト次ノ如シ。

〔第一種〕初メヨリ微弱ナルモノ

- 1. 身・体・ノ・薄・弱・ナ・ル・モ・ノ、即チ生來虛弱多病ナルモノ、重病後ノモノ、營養不給ナルモノ、甚ダ若年ナルモノ。
- 2. 子・宮・ノ・變・常・ニ・ヨ・ル・モ・ノ、即チ子宮壁ノ腫瘍並ニ羊膜水腫、双胎、過大ナル胎兒等ニヨリテ、子宮壁ノ過度ニ延張セラレタルモノ。
- 3. 甚ダシキ悲哀、苦惱等ノ精神感動ニヨルモノ。

〔第二種〕他ノ事情ニヨリ中ゴロ之レヲ發スルモノ

- 1. 困・難・ナ・ル・分・娩・ノ・疲・勞・ニ・ヨ・リ・テ・發・ス、即チ過大ナル兒頭、狹窄骨盤、若クハ三十年以上ノ初産婦等ニ在リテ、子宮口又ハ腔ノ強硬ニシテ開大シ難キモノ。
- 2. 膀・胱・直・腸・ノ・充・盈・又・ハ・胃・ノ・膨・滿・セ・ル・モ・ノ。

是レナリ以上ノ他、其原因ノ明カナラザルモノモ亦之レアリ。

〔第五四六項〕症狀 開口期ニ於テ陣痛微弱ヲ發スルトキハ子宮口

ノ開大スルヲ遅ク産出期ニ之レヲ現ハストキハ先進部ノ進行スルヲ緩慢ナルカ若クハ全ク停止シ後産期ナルトキハ出血甚ダシク且ツ後産ノ産出スルヲ遅シトス。開口期ニ於ケル陣痛微弱ハ産出遅滞スルノミニシテ敢テ著ルシキ害アルヲナキモ産出期ニ至リ胎胞破裂シ兒頭小骨盤内ニ降レルノ際ニ於テハ産道内ニハ壓迫ニヨリテ挫傷ヲ生ジ且ツ羊水漏泄シ空氣ハ不潔物ヲ伴ヒ子宮内ニ竄入スルガ如キコトアルガ爲メニ子宮内ニ腐敗機ヲ生ジ發熱脈搏頻數下腹ノ知覺過敏等ノ症狀ヲ呈シ小兒ハ遂ニ死ヲ致スニ至ル後産期ニ於ケル陣痛微弱ハ最モ危險ニシテ剝離セル胎盤部ノ血管ヨリ劇甚ノ出血ヲ發シ須臾ニシテ母體ヲ死ニ致サシムルヲアリ。

【第五四七項】處置

一 豫防法ヲ以テ緊要ナリトス。即チ身體虛弱ナルモノハ陣痛微弱ヲ發スルノ恐アルガ故ニ既ニ妊娠中ニ於テ務メテ柔軟ノ肉類牛乳肉蒸汁等ノ滋食物ヲ與ヘ勉メテ運動セシメ以テ陣痛微弱ヲ豫防セズンバアル可カラズ。

二 開口期ニ在リテ陣痛微弱ヲ發スルトキハ暖カキ牛乳肉蒸汁等ヲ服セシメ務メテ膀胱直腸ヲ空虚ナラシメ每一時若クハ二時ニシテ攝氏三十八度乃至四十度ノ煮沸ヲ經タル温湯一二千瓦ヲ腔内ニ灌注シ若クハ半乃至一時間三十八度乃至四十度ノ温浴ニ入ラシム可シ其他室内ヲ暖カナラシメ少シク運動ヲ試マシムルヲ良トス。

三 産出期ノ陣痛微弱ナルトキハ屢々臥位ヲ交換セシメ葡萄酒咖啡等ヲ與ヘ子宮摩擦法ヲ施コシ疲勞著シカラザルモノニハ努責ヲ命ズ可シ此ノ如クスルモ二時間ヲ經テ陣痛増進セズ分娩ヲ遂グル能ハザルモノハ醫治ヲ求ム可シ。

四 後産期ニ於ケル陣痛微弱ハ危險ノ出血ヲ發スルモノナルガ故ニ第五十九章陣痛微弱ニ因スル後産期出血ノ處置ヲ施コサンコトヲ要ス。

第二百二十七章 陣痛過劇

【第五四八項】陣痛過劇トハ 子宮ノ收縮スルコト強ク且ツ長キ

モノヲ云フ。

〔第五四九項〕原因 著シキ原因ナクシテ之レヲ發シ、或ハ精神ノ感動ニヨリテ之ヲ致スコトアリ。

〔第五五〇項〕症狀 陣痛過劇ニシテ、産道ノ未ダ開大セザルニ當リ、胎兒ヲ産出スルトキハ、子宮口、膈、會陰等ノ深裂傷ヲ生ジ、若シ又、狹窄骨盤ナルカ、或ハ過大ノ兒頭ニシテ、骨盤内ニ進入シ能ハザルモノニ在リテハ、子宮破裂ヲ發スルコトアリ。小兒ハ陣痛ノ過劇ナルガ爲メニ、死ヲ致スコトナキニアラズ、其他、母體ノ未ダ産床ニ就カザルニ當リ、容易ニ分娩ヲ營ムトキハ、小兒ヲ地上ニ墮シ、臍帶断裂、子宮内翻等ヲ發ス。又、後産期ニ至リ、時トシテハ子宮疲勞シ、陣痛微弱ニ陥リ、出血ヲ致スコトアリ。

〔第五五一項〕處置 陣痛過劇ニシテ、急速ニ娩出セントスルモノハ、腹壓ヲ禁ジ、側臥ニ就カシメ、強力ヲ以テ、會陰ヲ防護シ、且ツ兒頭ノ前進ヲ壓抑ス可シ、後産期ニ於テ、陣痛微弱ニ陥ルノ恐アラバ、子宮按摩法ヲ行ハシムコトヲ要ス。

第二百二十八章 痙攣性陣痛

〔第五五二項〕痙攣性陣痛トハ、子宮筋ノ收縮甚ダシキモノニシテ、其收縮期ハ大ニ長ク、休憩時ハ僅カニ一少時間之レアルニ過ギザルモノヲ云フ。若シ其休憩時全ク缺クルトキハ、之レヲ子宮強直ト稱シ、回轉ヲ營ミ、産道ノ抗抵ヲ避クルヲ能ハザルガ故ニ、産出ノ作用全ク停止スルモノトス。

〔第五五三項〕原因 痙攣性陣痛ハ、子宮收縮スト雖ドモ、胎兒前進スルコトナクシテ、抗抵著シキノ際ニ之レヲ發ス。即チ横位、腦水腫、癒着セル双胎、狹窄骨盤、産道内ノ腫瘍、子宮口ノ強硬、卵膜ノ強韌ナル者等之レニ屬ス。其他、子宮ノ收縮ヲ亢進セシムルモノモ、亦此症ヲ致ス。即チ醫藥ノ誤用、不適當ナル子宮按摩法若クハ指ヲ用キテ、子宮口ノ開大ヲ試ムルモノ等是レナリ。

〔第五五四項〕處置 ハ原因ニ從テ之レヲ施コスヲ要ス。例之ハ、卵膜

ノ強硬ナルガ爲メニ此症ヲ生ズレバ、卵膜穿刺法胎胞破開法ヲ施コシ、子宮口強硬ナルモノハ、腔内灌注法ヲナスガ如キ是レナリ、其他ハ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第二百二十九章 子宮ノ位置異常

〔第五五五項〕子宮位置異常ノ區別 子宮位置異常ノ中チ、分娩ニ際シ、障害ヲナスモノニ三種アリ、前轉、左轉及ビ右轉是レナリ、就中、前轉即チ懸垂腹ハ、前篇中、第百十一章ニ記載セルヲ以テ茲ニ之レヲ省ク可シ。

〔第五五六項〕子宮左轉及ビ右轉 子宮左方若クハ右方ニ傾ムクトキハ、分娩ノ際、陣痛力ハ、右若クハ左腸骨窩ニ向ヒ、産道ノ方向ト一致セザルガ故ニ、小兒ハ、産出スルヲ能ハズ、或ハ爲メニ横位ニ變ズルコトアリ。

〔第五五七項〕處置 子宮若シ一方ニ傾キ、分娩ノ障害ヲナストキ

ハ、之レヲ矯正センガ爲メ、其傾ケル側ニ反對セル側方即チ先進部ノ位置セル側方ニ臥セシムルヲ法トス、此ノ如クスルトキハ、子宮底ハ下方ニ降り、子宮口ハ腸骨窩ヲ去リテ、骨盤ノ中線即チ産道ノ方向ニ對シ、以テ分娩ヲ營ムコトヲ得セシム、例之バ、子宮左方ニ傾クトキハ、右側ニ臥セシメ、右方ニ傾クトキハ、左側ニ臥サシム可シ。

第三百三十章 子宮ノ形状異常

〔第五五八項〕子宮ノ形状異常 子宮壁ノ長サ不同ナルガ爲メ、子宮ノ形状不正トナリ、子宮口ハ、一方ニ偏シ、高ク位シ、指ノ茲ニ達シ難キコトアリ、此ノ如キモノハ、子宮後屈又ハ後轉症ニ就キ、腔固定法、子宮體ヲ腔ノ前壁ニ縫着スルノ手術ヲ施コセル際ニ發スルヲ多シトス、此症ニ在リテハ、陣痛力ハ、子宮口ニ向ハズシテ、下方ノ壁ヲ壓スルガ故ニ、小兒ハ、産出スルコト能ハズ、處置ハ、産婦ヲ子宮口ノ存セル反對ノ側方ニ臥サシメ、子宮口ノ後上方ニ位セルモノハ、伏臥ノ位置ヲ取ラシ

ム可シ。爾餘ノ處置ニ至リテハ、醫治ニ委テシテコトヲ要ス。

第三百三十一章 卵巣腫瘍

〔第五五九項〕**卵巣腫瘍ノ中** 最も多キハ**卵巣嚢腫**ナリ。卵巣嚢腫トハ、卵巣ニ嚢ヲ生シ、嚢内ニ液質ヲ蓄ヒ、漸次ニ發育スル者ヲ云フ。此種ノ腫物ニシテ、液質ノ外、骨、毛髮、齒牙ヲ有スルモノアリ。是レヲ**皮膚様嚢腫**ト稱ス。此他、卵巣ニハ**肉腫**、**纖維腫**等ヲ生ズルヲアリ。卵巣腫瘍アルノ際、妊娠スルトキハ、腫瘍著シク増育シ、而シテ、爲メニ子宮ノ増大ヲ妨グルニ至レバ、往々、流産スルコトアリ。又嚢腫ニ在リテハ、破裂ヲ生ジ、母體ノ生命ヲ失ハシムルコトナキニアラズ。或ハ妊娠中ニ、此腫瘍アルヲ知ラズ、分娩後ニ至リ、始メテ之レヲ發見スルコトアリ。

〔第五六〇項〕**處置** 固ヨリ醫治ニ委ヌルヲ要ス。而シテ、醫師ハ、妊娠中ト雖ドモ、腹切開術ニヨリテ、卵巣腫瘍ヲ切除スルコトヲ得ベシ。又タ、分娩時ニ至リ、帝王切開術ヲ施コシ、傍ラ卵巣腫瘍ヲ除去スルコトアリ。

第三百三十二章 子宮口狹窄及閉塞

〔第五六一項〕**子宮口狹窄** ハ腔部ノ手術及ビ前分娩時ノ損傷ニ基因セル**瘢痕組織**、頑固ノ頸管加答兒、又ハ**癌腫**ニヨレル硬結若クハ三、四十歳以上ノ初産婦ニ之レヲ見ル。此症アルトキハ、子宮口ノ延張シ難キガ故ニ、分娩時間ヲ費ヤシ、**痙攣性陣痛**ヲ發シ、若シ或ハ陣痛作用強劇ナルトキハ、爲メニ子宮頸ノ破裂ヲ致ス可シ。

處置 此狹窄アルトキハ、陣痛微弱ニ於ケルガ如ク、温湯ヲ腔内ニ灌注シ、又ハ坐浴若クハ全身浴ヲ取ラシム可シ。而シテ、尙ホ子宮口ノ弛緩セザルモノハ、醫治ヲ求ムルヲ要ス。

〔第五六二項〕**子宮口ノ閉塞** アルトキハ、兒頭ノ壓迫ニヨリ、腔部甚ダシク延張膨出シ、菲薄トナリ、時トシテハ、胎胞ト誤認セラレ、トアリ、此症ハ速カニ醫治ニ託スルヲ要ス。

第三百三十三章 腔狹窄

〔第五六三項〕原因 生來、腔ノ狹窄セルモノ、及ビ疾病若クハ難産ノ後ニ癍痕ヲ生ズルモノ等ニ發シ、其甚ダシキモノハ、僅カニ細小ナル一孔ヲ遺スモノアリ、而シテ此ノ如ク細小ノ一孔アルモノモ、亦能ク妊娠シ得ルコトアルモノトス。

〔第五六四項〕症狀 狹窄ノ甚ダシカラザルモノハ、分娩ノ間、自ラ延張シ得ルコトアリ、狹窄ノ稍甚ダシキモノニ至リテハ、分娩ヲ遂ケ得ルモ、裂傷ヲ生ズルヲ免レズ、但シ、此種ノ裂傷ハ、長ク壓迫ヲ蒙ル可キガ故ニ、著シキ出血ヲ現ハササルコト多シ、又著シキ狹窄ニシテ、到底、娩出シ能ハザルガ如キ觀ヲ呈スルモノニアリテモ、長時間ノ後チ、分娩ヲ遂ゲ得ルモノモ亦之レアリ。

〔第五六五項〕處置 腔狹窄ノ著シキモノハ、固ヨリ醫治ニ託スルヲ要ス、廣大ナル癍痕アリテ、開張シ難キモノハ、帝王切開術ヲ施コサハル可カラザルモノアリ、而シテ高度ノ腔狹窄ニシテ一指ヲモ通ズルコト能ハザルモノニ在リテモ、醫治ニヨリ陣痛ヲ催進シ、溫浴、坐浴、腔内灌注法等ヲ施コシ、適當ノ處置ヲナストキハ、稀ニハ、自ラ分娩ヲ營ミ得ルコト多ク之レアリ。

第三百三十四章 外陰部ノ狹窄

〔第五六六項〕外陰部ノ狹窄 ハ陰裂ノ狹小ナルモノ、處女膜ノ現存、陰唇ノ癒着、高年ノ初産婦、大ナル血管瘤若クハ陰唇ノ浮腫等ニヨリテ之レヲ致ス。

〔第五六七項〕處置 此狹窄症ニヨリ分娩遲延スルトキハ、速カニ醫治ヲ求ム可シ、但シ、陰裂ノ少シク狹小ナルガ如キハ、先ヅ腔内溫灌注法及ビ外陰部ノ溫浴法ヲ行ヒ、其延張ヲ助クルヲ佳トス。

第三百三十五章 陰部ノ血腫

〔第五六八項〕血腫 ハ腔、陰唇、會陰等ニ於テ、其皮下血管ノ破裂セルノ際ニ發スルモノニシテ、暗紫色ノ波動アル腫物ヲナシ、速カニ増大ス。此腫物、破裂スルトキハ、生命ヲ危クスベキ出血ヲ起シ、破開セザルトキハ、産褥中ニ至リ、化膿ヲ起シ、劇シキ熱症ヲ發スルコトアリ。

〔第五六九項〕處置 分娩ノ際、血腫ヲ生ズルトキハ、直チニ冷石炭酸水ヲ布片ニ蘸シテ、平等ニ壓抵シ、綯帶ヲ施コシ、其既ニ破レタル者ハ、同ク布片ヲ貼シテ強ク壓迫シ、止血セシメ、以テ速カニ醫治ヲ求ム可シ。

第三百三十六章 腔脫

〔第五七〇項〕腔脫 トハ腔壁翻轉シテ、陰唇間ニ脫出シ、青赤色ノ腫物ヲナスモノナリ。分娩ノ際、腔脫アルトキハ、兒頭ノ壓迫ヲ受ケ、炎症ヲ發シ、時トシテハ壞疽ニ陥ルコトアリ。

〔第五七一項〕處置 ハ産婦ヲ仰臥セシメ、努力ヲ禁ジ、指ヲ以テ靜カニ復納ス可シ。困難ナルモノハ、速カニ醫治ニ託セザル可カラズ。

第三百三十七章 陰唇ノ浮腫及ビ靜脈瘤

〔第五七二項〕陰唇ノ浮腫 陰唇、浮腫アルトキハ、蒼白色トナリ、著シク腫脹ス可シ。但シ其甚ダシキモノニアラザレバ、敢テ分娩ヲ妨ゲザルモノナリ。且ツ産後、一二日ニシテ消退スルヲ常トス。●處置ハ、微温ノ石炭酸水若クハ、硼酸水ヲ布片ニ蘸シ、壓抵ス可シ。

〔第五七三項〕陰唇靜脈瘤 青色ノ結節ヲナシテ、陰唇又ハ尿道口下部ノ腔壁ニ生ジ、破裂スルトキハ、危險ノ大出血ヲナス。
處置 ハ破裂セントスルコトアラバ、産婦ヲ平臥セシメ、石炭酸水ヲ布片ニ蘸シ、壓抵シテ、之レヲ支持シ、若シ既ニ破裂セルトキハ、石炭酸水ニ浸セル布片ヲ以テ、其出血部ヲ強ク壓迫シ、以テ出血ヲ防ギ、速カニ醫治ヲ請フベシ。

第三百三十八章 直腸膀胱ノ充盈

〔第五七四項〕直腸ノ充盈 直腸内ニ糞便充盈スルトキハ、爲メニ小兒ノ産出ヲ妨ゲ、時トシテハ陣痛微弱ヲ發スルガ故ニ、分娩ノ際ニハ豫ジメ開口期中ニ灌腸ヲ施コシ、以テ直腸ノ充滿ヲ防グ可キモノトス。

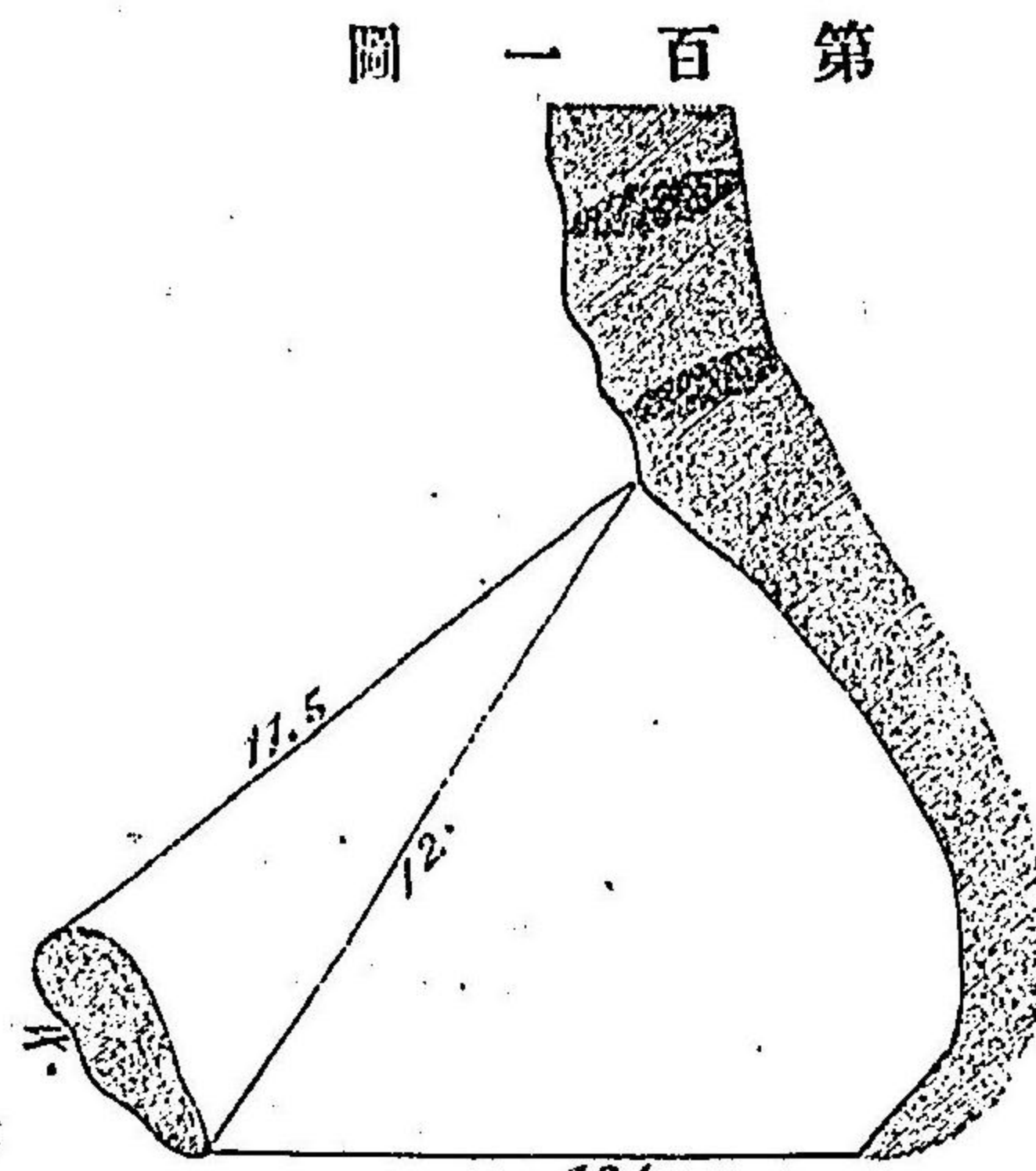
〔第五七五項〕膀胱ノ充盈 産出期ニ至リ、兒頭、小骨盤内ニ入り、尿道ヲ壓スルトキハ、容易ニ尿閉ヲ發シ、以テ膀胱ヲ充盈セシムルモノナリ。此場合ニ在リテ、膀胱ハ球形ヲナシテ恥骨縫際上ニ出テ、腹上ヨリ之レヲ觸知ス可シ、而シテ膀胱充滿スルトキハ、緊痛ヲ發シ、腹壓ヲ妨ゲ、且ツ反射作用ニヨリ、陣痛微弱ヲ發ス可シ。

處置 産婦ヲシテ、強ク前方ニ屈シ、排尿ヲ試マシメ、若シ尙ホ排泄スルヲ能ハザルトキハ、指ヲ腔内ニ送入シ、兒頭ヲ後方、薦骨ニ向ツテ壓却シ、以テ尿道ノ壓迫ヲ免レシム可シ、而シテ尙ホ排泄スルヲ能ハザルトキハ、正規分娩取扱法中〔第二九三項〕ニ示セル法式ニヨリ、弾力性カテーテルヲ送入センヲ要ス、其甚ダ困難ナルモノハ、醫治ニ託ス可シ。

第三百三十九章 狹窄骨盤

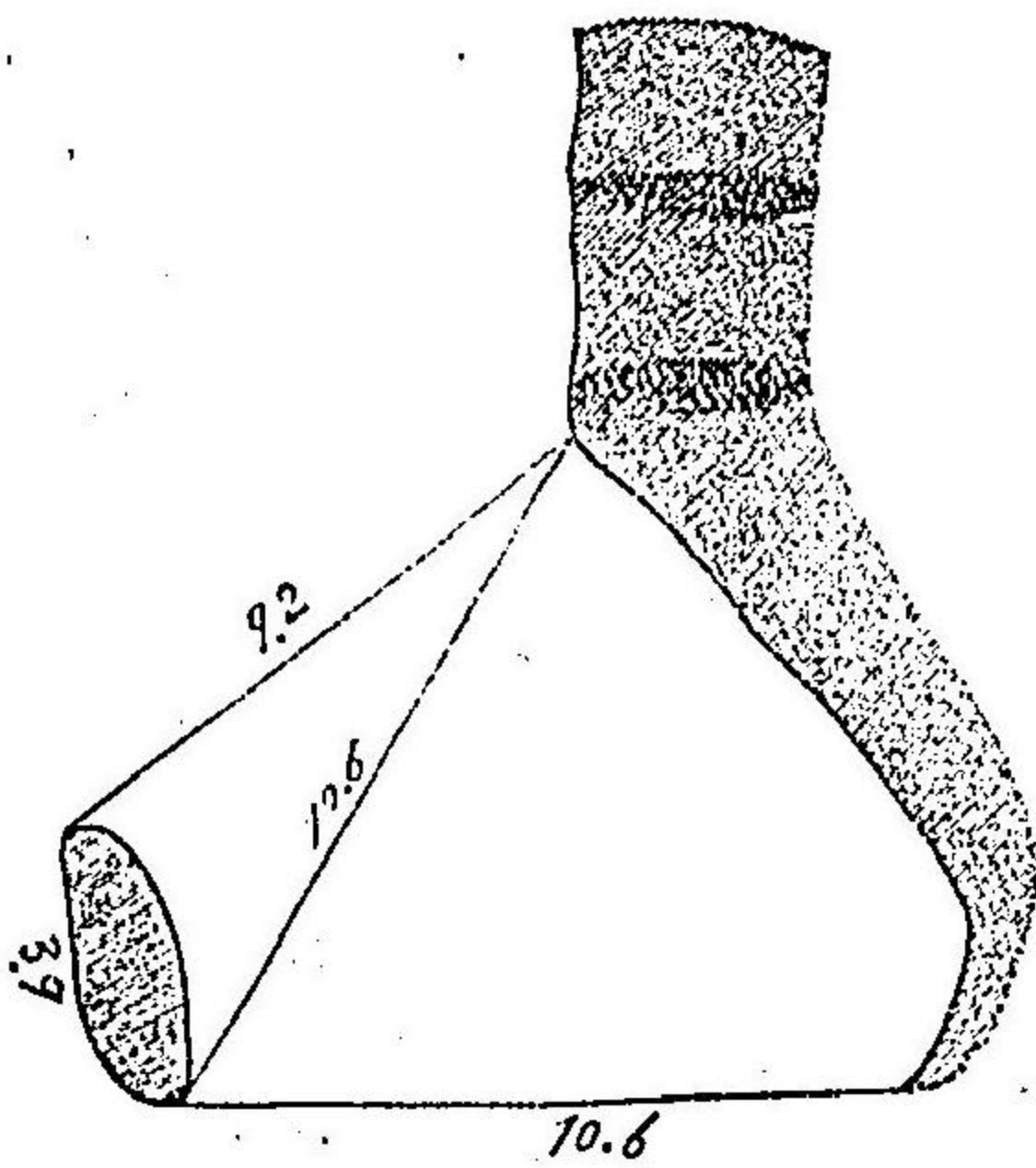
〔第五七六項〕狹窄骨盤ノ區別 骨盤ノ狹窄セルモノハ、其種類甚ダ多シト雖ドモ、之レヲ畧舉スレバ、單扁平骨盤、佝僂病性扁平骨盤、骨軟化

正規骨盤断面ノ圖



他ノ骨盤ト比較セシメ、較センガ爲メニ示ス数字ハ、仙達チ表ス

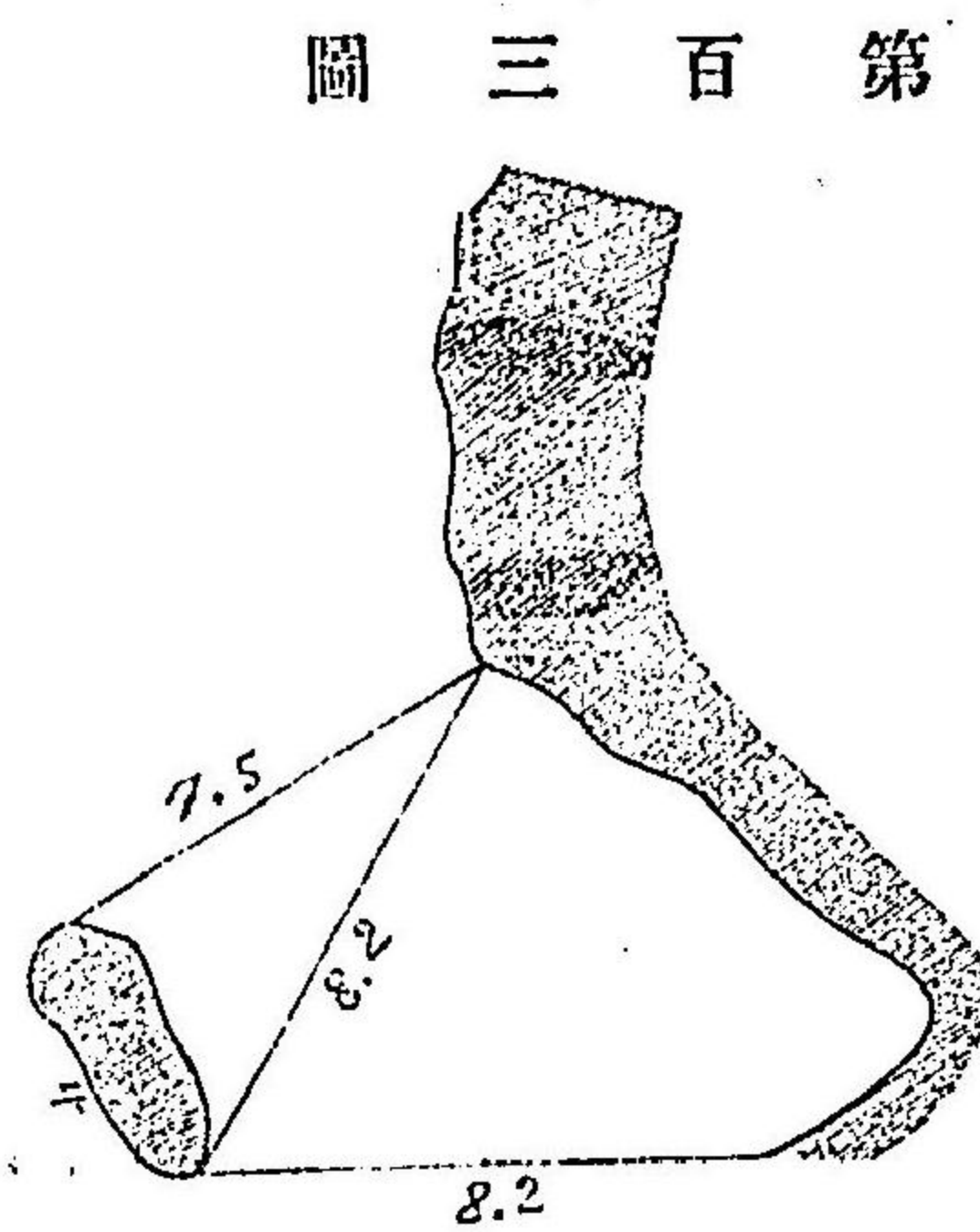
單扁平骨盤断面ノ圖



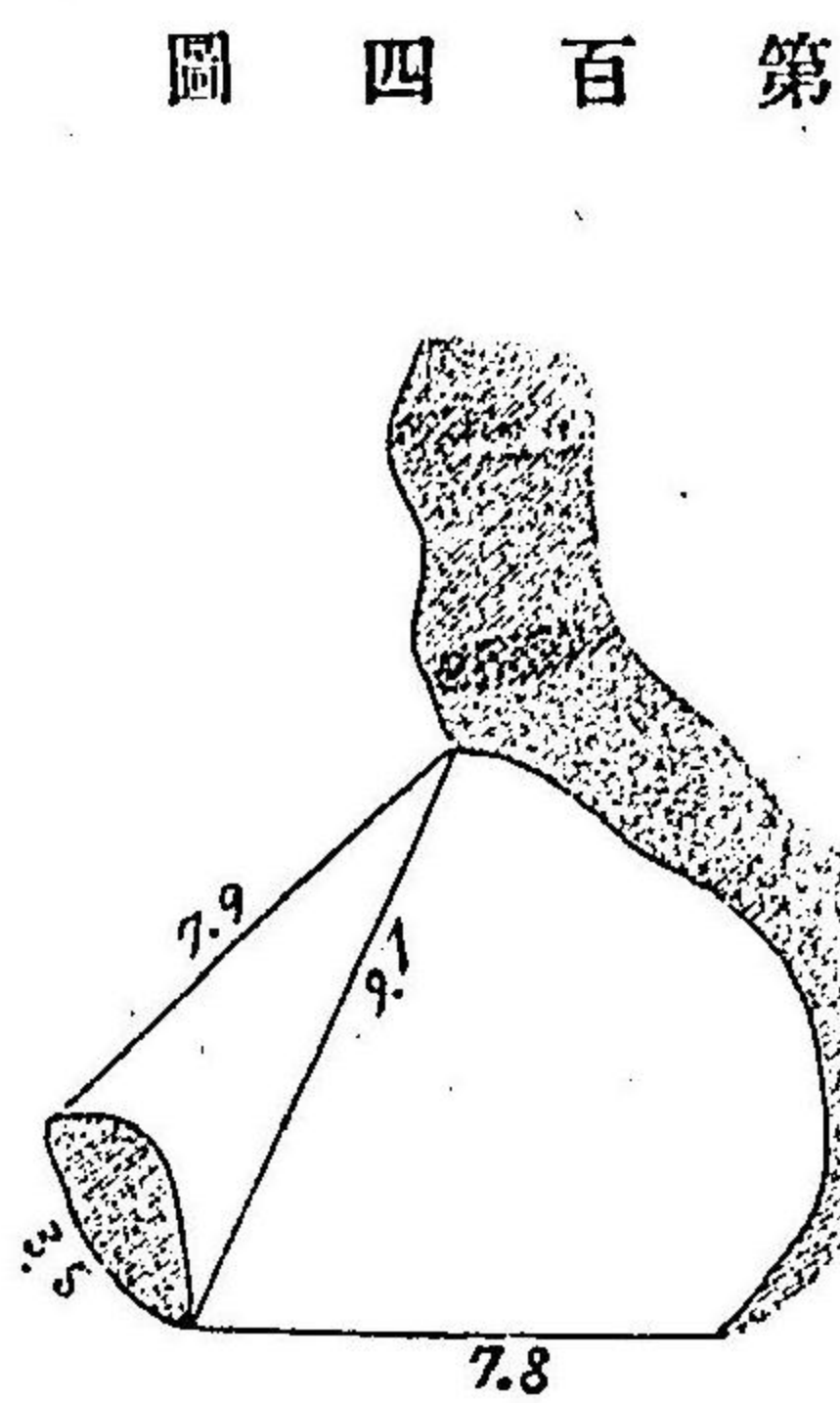
病性狹窄骨盤斜徑狹窄骨盤、横徑狹窄骨盤、骨瘤性狹窄骨盤、全狹窄骨盤ノ
七トナス。

〔第五七七項〕第一種、單扁平骨盤。ハ薦骨ノ前方ニ進出スルニ
ヨリ生ズルモノニシテ、骨盤ノ直徑線ハ、入口、出口及ビ骨盤腔内ニ於テ、共
ニ一様ニ短小ナルモ、他ノ諸徑線ハ、通常ト異ナルヲナキヲ常トス。
而シテ、入口ノ直徑線ハ、八仙迷以下ナルハ稀レナリ。

佝僂病性扁平骨盤断面ノ圖



全狹窄骨盤断面ノ圖 本文ハ三百八十八頁ニアリ



總テノ狹窄骨盤中、單扁平骨盤ハ、最モ多シ。然レドモ、此骨盤ノ婦人ハ、體格
敢テ尋常ニ異ナラザルヲ常トス。而シテ、内診スレバ、指ハ容易ク薦骨岬ニ
達シ得ベキガ故ニ、容易ニ之レヲ診定シ得ベシ。

〔第五七八項〕第二種、佝僂病性扁平骨盤。トハ佝僂病ト名ク

ル、骨質ノ疾病ニヨリテ生ズルモノナリ。此病ニ於テハ、小兒ノ骨質硬固ト
ナラザルガ故ニ、脊椎ヨリ薦骨ノ上ニ壓スル重力ニヨリ、薦骨岬ハ、骨盤腔
内ニ陥入シ、以テ此骨盤ヲ生ズ。故ニ骨盤入口ノ直徑線ハ、著シク短縮シ、甚
ダシキハ五―六仙迷以下ニ至ルモノアリ。而シテ、横徑線ハ、却テ延長シ、腸
骨翼ハ、彎曲少ナク、扁平ヲナシ、恥骨弓ハ、甚ダ廣シ。

外検査ニヨルニ、此骨盤ノ婦人ハ、上腿、下腿、共ニ彎曲シ、歩行ハ蹠
蹴トシテ、家鴨ノ歩ムガ如ク、薦骨ノ下部ハ、著シク後方ニ突隆シ、恥骨縫際
ハ低下シ、腰部廣キヲ見ル。内診スルニ、手指ノ薦骨岬ニ達スルヲ容易ナリ。
此ノ如キ婦人ハ、小兒期ニ於テ、三歳若クハ五歳ニ至リ、初メテ歩行スルヲ
ヲ得、或ハ一タビ歩行ヲ學ベルモ、再ビ久シク歩行シ能ハザルヲアルモノ